

情報モラルの授業による児童・生徒の意識変化調査報告書

はじめに

調査概要と使用教材

調査結果の要点と考察

調査結果詳細

第1部 「GIGAワークブック」スタンダード（小学校4年生～6年生対象）

回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

第2部 「GIGAワークブック」アドバンスド（中学校1年生～3年生対象）

回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

Appendix

授業前後の検定結果

活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」について

エビデンスに基づいて、子どもたちの学習を支援する

上記はLINEみらい財団が情報モラル教育を実践するうえでの指針のひとつとなります。

LINE株式会社（現LINEヤフー株式会社）は、2012年より青少年のインターネット（以下、ネット）利用環境の整備に取り組み、CSR活動の一環として、学校や企業、自治体、政府機関等と協力し合いながら、情報モラル教育活動を展開してまいりました。そして、LINEみらい財団は、これら一連の教育活動から得られた知見やノウハウを、個社のCSR活動にとどまらず広く社会に還元し、より広域的・永続的な活動とするために設立されました。

GIGAスクール構想の推進を契機に、全国の学校で「1人1台端末」、「高速通信網」、「クラウド活用」が整備され、児童・生徒の学校での学びの中でネットの活用が重要な要素になっています。また、各学校の教員が直接、児童・生徒に情報モラル教育を行うことが求められています。

当財団でも、その一助となるべく、情報モラル教材の開発、出前授業などの啓発活動を行ってまいりました。しかし、教員の情報モラル教育への関心は高い一方で、情報モラルの授業は年間1～2時間にとどまるなど、多忙な教育現場の現状があります。また、情報モラルの授業の効果を定量的に示すデータは全国的にも事例が少なく、効果を感じ取れる機会も多くありません。

そこで、明星大学教育学部教授の今野貴之氏の監修のもと、当社が独自開発した活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」を使用した授業を実施し、授業前後での児童・生徒の意識変化の効果測定データを取得、分析を行いました。

その結果、以下のような傾向があることがわかりました。

- ・端末の活用方法やトラブル対処方法の理解など、「情報活用」、「情報モラル」とともにポジティブな効果が見られた。
- ・学校で配布されるGIGAスクール端末だけでなく、私物端末への効果が認められた。
- ・端末の使い過ぎの原因把握や時間管理意識の向上が見られた。
- ・ネットのトラブルを机上の事例ではなく自分にも起こるかもしれないと考えることができるようになった。
- ・学習内容を家庭で共有したいというニーズがあった。

本調査の傾向を関係者に広く伝えるべく制作したのが本報告書となります。学校関係者のみならず、これまで講師派遣や教材制作等で情報モラル教育に取り組んできた外部機関の関係者の皆様にもぜひ読んでいただき、今後の情報モラル教育の実践の参考にさせていただければ幸いです。

令和の時代となり、少子高齢化にともなう社会構造の変化やAI、IoT等の言葉に象徴される情報化社会において、我々大人は子どもたちが次なる社会を生き抜く資質・能力を育成するための教育環境を整備する責務があります。

LINEみらい財団は、ネットを子どもたちが適切に使えるように、今後も情報モラル教育の推進に尽力してまいります。

調査概要と使用教材

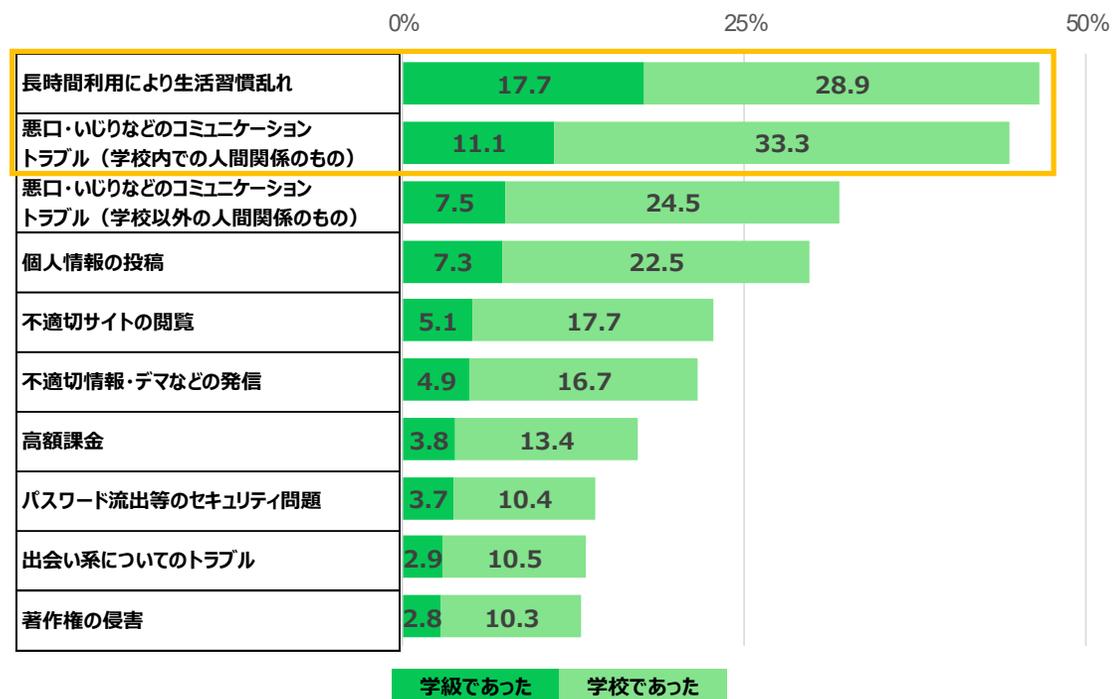
調査概要

調査目的	GIGAスクール端末の利用状況と、活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」を使用した情報モラル授業の前後での児童・生徒の意識変化を把握し、情報活用能力の育成支援などに資する情報を提供することで教育現場へ寄与する。
調査手法	「GIGAワークブック」を導入している自治体・学校で教材を使用したオンライン授業を実施。授業前後での児童・生徒の意識変化をウェブアンケートにて調査。※一部紙アンケートにて実施
調査対象者	①「GIGAワークブック」スタンダード：小学校4年生～6年生 男女 ②「GIGAワークブック」アドバンスド：中学校1年生～3年生 男女
有効回収数	①「GIGAワークブック」スタンダード：小学校4年生～6年生 590名（9校） ②「GIGAワークブック」アドバンスド：中学校1年生～3年生 491名（7校）
調査時期	2023年12月14日（木）～ 2024年3月11日（月）
調査委託先	株式会社モニタス
調査監修	明星大学 教育学部 教授 今野貴之
表記について	<ul style="list-style-type: none">・本報告書内の合計の計算は、小数第2位を四捨五入し表示しているため、本資料を基に計算した場合、±0.1%の誤差が生じている場合があります。・本報告書では、スマートフォン、タブレット、PCを合わせて「端末」と表記し、OS（Windows、iOS、Android）は区別しません。また、学校で配布される端末（GIGAスクール端末）を「学校端末」、各家庭で与えられるスマートフォンやタブレット、PCを「私物端末」と表記します。・設問にある「（インターネット / ネットの）トラブル」とは、以下の例のようなできごとです。 <トラブルの例> 勝手に自分の情報がウェブに掲載される / SNSで知らない人からのメッセージがくる / ウェブを見ていたら、お金を請求するサイトが突然出てくる / ネットで注文した商品が届かない

「GIGAワークブック」の中から、小学校4年生～6年生向けの「スタンダード」、中学校1年生～3年生向けの「アドバンスド」それぞれにおいて、4つのテーマでワークを選定し、45分の授業を実施。

テーマの選定にあたって、「児童・生徒のトラブル状況」のデータや「新しい情報モラル教育のポイント」を踏まえた授業設計を行った。

児童・生徒のトラブル状況



出典：LINEみらい財団「GIGAスクール構想における情報モラル教育の実状等に関する調査報告書」
<https://line-mirai.org/ja/report/detail/21>
 p25「情報モラル教育で個別対応が必要だったもの」より抜粋。回答者の多い順にソートした。

新しい情報モラル教育のポイント

「情報活用」と「情報モラル」をセットで学ぶ。

「児童の発達の段階を考慮し、言語能力、**情報活用能力（情報モラルを含む）**、**問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成**していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」

出典：文部科学省「学習指導要領」総則

「GIGAワークブック」からコンテンツを選定 / 授業設計



スタンダード（小学校4年生～6年生向け）

「SNS、ネットコミュニケーション」に関する4つのワークを選定



アドバンスド（中学校1年生～3年生向け）

「セルフマネジメント、使い過ぎ」に関する4つのワークを選定

テーマ 「インターネットを使うときに気を付けること、考えること ～SNS編～」

SNSやネットコミュニケーションに関する4つのワークを選定。「情報活用」と「情報モラル」の両方が学べる授業を設計した。

1. 上手なチャットの使い方を学ぼう（p82～p83）

[情報活用] 「画像をグループで共有したい」、「グループで新しいアイデアを考えたい」、「自分の気持ちを伝えたい」、「前の発言をふりかえりたい」といった、やりたいことについて、チャットと対面でどちらが効率的かを考える。また、チャットと対面の特性を学ぶ。

2. 相手に伝えるときには（p66～p67）

[情報モラル] メッセージを口頭で伝えるのか、メッセージで伝えるのか、また文字のみなのかイラスト付きなのかという違いに対し、自分がどのように感じるかを考える。また、友達と感じ方を比べ、感情が伝わりづらいというネットの特性を学ぶ。

3. チャットで議論するときは（p84～p85）

[情報モラル] グループチャットを使って議論するときに一番イヤだなと感じることを選び、友達の意見を聞き、人によって感じ方が異なることを知る。また、全員でチャットのマナーやルールを決めておくことを学ぶ。

4. 変なコメントが書き込まれたら？（p68～p70）

[情報モラル] グループチャットに誰かの悪口が書き込まれた場面を想定、どのように対応するべきか友達と意見を話し合う。また、チャットなどでトラブルが起きてしまったときには、先生や家族に相談することも学ぶ。

※カッコ内は「GIGAワークブック」スタンダード 2023年度 汎用版の該当ページ。最新年度版、自治体版では異なる可能性があります。

テーマ 「インターネットを使うときに気を付けること、考えること ～セルフマネジメント編～」

セルフマネジメントや使い過ぎなどに関する4つのワークを選定。「情報活用」と「情報モラル」の両方が学べる授業を設計した。

1. 学習で上手に活用しよう（p91～p92）

[情報活用] タブレットなどの端末で、時間管理アプリなど自分が行っている学習での活用方法やこれからやってみたい活用方法を書き出し、友達と共有する。また、次々と登場する学習ツールやサービスなどの活用方法について学ぶ。

2. タイムマネジメントを身に付けよう（p93～p94）

[情報モラル] 時間を管理する力を学ぶ。「自分の名前を10回書く」、「掛け算の7の段を書く」などといった具体的な行為についてかかる時間を予想し、実際に計測する。また、タイムマネジメントを考える際の注意点などを知る。

3. 使いすぎてしまう時は（p95～p97）

[情報モラル] スマホやタブレット、コンテンツやサービスを使いすぎてしまう理由を振り返り、友達と意見を交わす。また、どうしたら使い過ぎを防ぐことができるかを考察し、改めてタイムマネジメントの大切さに注目する。

4. クライシスマネジメントを身に付けよう（p32～p34）

[情報モラル] 「ネットに自分の写真が勝手に掲載された」、「ネットを見ていたらお金を請求するサイトが突然開いた」といったトラブルについて対応できるかどうか、またどう対応したらいいのかを考え、友達と話し合う。危機管理能力について学ぶ。

※カッコ内は「GIGAワークブック」スタンダード 2023年度 汎用版の該当ページ。最新年度版、自治体版では異なる可能性があります。

調査結果の要点と考察

調査結果の要点

調査の結論として、**授業実施前後で各対象テーマの狙いとなる効果が出ていることが確認できました。**

本調査で収集したデータの分析結果をもとに、特徴的な傾向を以下の通りまとめています。

- 1 授業前後で、「情報活用」、「情報モラル」それぞれの調査項目で理解・認識の上昇が見られ、ポジティブな変化を確認
- 2 小学生のSNSトラブルに関する理解度が全体で21%上昇、私物端末を所有しない児童でも約29%上昇し、私物端末の有無に関わらず効果を確認
- 3 中学生は、端末を利用した学習について「タイムマネジメント（時間管理）意識」へ影響（約20%上昇）
- 4 授業後に「ネットのトラブルは自分にも起こるかもしれない」と思った小学生が83.1%、ネットのトラブルの「自分ごと化」に効果
- 5 授業で学習した内容について、家庭への共有ニーズ（小学生約70%、中学生60%）があることを確認

1 授業前後で、「情報活用」、「情報モラル」それぞれの調査項目で理解・認識の上昇が見られ、ポジティブな変化を確認

調査データ	<ul style="list-style-type: none">小学生は、授業後に「対面とSNSコミュニケーションの使い分けの理解」（情報活用）が35%上昇（p29） 「SNSコミュニケーショントラブルの対処方法の理解」（情報モラル）が21%上昇（p33）中学生は、授業後に「端末を活用した学習方法を知る機会への意欲」（情報活用）が18%上昇（p53） 「ネットトラブルへ適切な対処ができる認識」（情報モラル）が28.5%上昇（p65）
--------------	---

※カッコ内の数字（p〇〇）は本報告書内の該当ページです。

解説

小学生、中学生それぞれの授業内容に即した「情報活用」、「情報モラル」に関する7項目について、「あなた自身にどれくらいあてはまりますか？」として、授業前と授業後で同じ質問をした。すべての項目で統計的に有意な差※が確認でき、ポジティブな変化を確認できた。

「情報活用」では、チャットやSNSといったネットと対面でのコミュニケーションの違いや使い分けの理解の向上、端末を使った効果的な学習方法の理解の向上が見られた。「情報モラル」では、ネットのコミュニケーション・トラブルの原因把握や対処方法の理解の向上、端末での時間管理意識や使い過ぎに対する原因把握や対処方法の理解の向上が見られた。

※詳しい分析結果は、Appendix「授業前後の検定結果」を参照してください。

2

小学生のSNSトラブルに関する理解度が全体で21%上昇、私物端末を所有しない児童でも約29%上昇し、私物端末の有無に関わらず効果を確認

調査データ

- ・小学生へSNSトラブル対応の授業を行い、「チャット・SNSで嫌だなと感じたときの対処方法を知っている」と回答したのは、「私物端末を所有する児童」で授業前63.2%から授業後82.2%へと19%上昇
また「私物端末を所有しない児童」については48.5%から77.2%へと約29%上昇した（p34）
- ・中学生へネットトラブル対応の授業を行い、「ネットトラブルに遭遇したら、適切に対応できる」と回答した生徒は、全体で28.5%上昇した
「1日の私物端末の利用時間別」を見ると、「平日1時間未満利用の生徒」は36.4%から70.1%へと約34%上昇、「平日4時間以上利用の生徒」は44.6%から76.8%へと約32%上昇した（p66）

※カッコ内の数字（p〇〇）は本報告書内の該当ページです。

解説

小学生の授業前後での意識の変化を見ると、「GIGAワークブック」を使用した情報モラルの授業は、私物端末の有無に関わらず効果が認められる。学校の授業中だけでなく家庭や塾など私物端末を利用する場面でも、端末を使った効率的な学習方法の理解が深まり、教師が指導できない状況でもチャットやネットのトラブルに対し児童が原因を理解し対処できるようになることが期待される。

中学生の授業前後での意識の変化を見ると、「GIGAワークブック」を使用した情報モラルの授業は「ネットトラブルへの対処」に関して、1日の私物端末の利用時間の大小に関わらず効果が認められる。

3 中学生は、端末を利用した学習について「タイムマネジメント（時間管理）意識」へ影響（約19%上昇）

調査データ	<ul style="list-style-type: none">・「学習にどれくらい時間がかかるか考えてからとりかかりたい」と回答した生徒は、授業前の56.4%から授業後に75.8%へと、約19%上昇（p57）・「端末を長時間使いすぎてしまったときの原因が把握できる」と回答した生徒は、授業前78.6%、授業後87.0%と、約8%の上昇（P59）・アドバンスドの授業後に「気づき」があったと思う授業内容として、「タイムマネジメントを身に付けよう」と回答した生徒が65.8%と最多であった（p68）
--------------	--

※カッコ内の数字（p〇〇）は本報告書内の該当ページです。

解説

中学生に対し、「GIGAワークブック」を使った授業の気づきとしてインパクトがあったのは「タイムマネジメントを身に付けよう」だった。端末を活用した効率的な学習意識の向上はもちろん、特に休日に私物端末を使いすぎてしまうような場合に、原因を把握し対処するための方法を理解し、改善するという時間管理意識の向上に効果が期待できる。長時間使用の原因に関しては、もともと「あてはまる」と回答した生徒が多かったため上昇幅は控えめだが、授業後には利用時間の大小に関わらず上昇しており一定の効果が認められることから、実際に物事を行なうのにかかる時間を計測したり、使い過ぎの原因を友達と共有するという体験を繰り返すことで、時間管理やセルフマネジメントの意識向上に効果があると考えられる。

4 授業後に「ネットのトラブルは自分にも起こるかもしれない」と思った小学生が83.1%、ネットのトラブルの「自分ごと化」に効果

※自分ごと化：教材で示されたトラブル等について、たんなる机上の事例としてではなく自分のこととして扱うことができる態度。

調査データ	<ul style="list-style-type: none">・授業後に「ネットのトラブルは自分にも起こるかもしれない」と思った児童が83.1% (p41)・「チャット・SNSで嫌だなと感じたときの対処法を知っている」と回答した児童は、授業前59.8%から授業後81.0%へと約21%上昇 (p33)
--------------	--

※カッコ内の数字 (p〇〇) は本報告書内の該当ページです。

解説

ニュース等でもしばしば問題となる、ネットの炎上や架空請求などトラブルに対し、机上の出来事ではなく、児童自身も実際に起こるかもしれないものとして実感できるようになった。

そのうえで、ネットのトラブルが起こったときの対処方法の理解の向上につながっている。

これは、身近で具体的なワーク内容や、児童自身の考えを大切に友達と体験を共有しあうという「GIGAワークブック」の特性であるといえる。

5 授業で学習した内容について、家庭への共有ニーズ（小学生約70%、中学生約60%）があることを確認

調査データ	・「今回の気づきを、保護者にも知ってほしい」と思った小学生が71.0%（p41）、中学生は58.7%（p69）
--------------	---

※カッコ内の数字（p〇〇）は本報告書内の該当ページです。

解説

多くの児童・生徒が「GIGAワークブック」を使って学んだことを家庭でも共有したいと答えていることから、本教材・ワークの家庭での共有の有効性が示唆され、教材の持ち帰りや保護者向けの授業などが考えられる。本教材は、「グループチャットに“〇〇さんのバカ”と書き込みされた」などの具体例を挙げて、端末の活用場面ごとにどう思うか・どうしたらいいかを考え、さらにほかの人と共有するという構成になっている。これらをクラスの友達だけでなく、家庭で保護者とも話し合い、共有し、場合によってはルール決めの材料にするといった活用方法も考えられる。

「思考力・判断力・表現力など」と「学びに向かう力・人間性など」への影響について

「GIGAワークブック」を用いた授業は、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力など」と「学びに向かう力・人間性など」を育む内容であったことがわかった。本授業では、さまざまな情報源から情報を選び出し、それらをどのように解釈し、表現するかを体験的に学べる内容であった。そうしたプロセスを通して、例えば中学生は休日に私物端末を使い過ぎる場合の原因を把握し、対処する方法を理解し、改善する意識（時間管理意識）の向上が示された。これらのことは「思考力・判断力・表現力など」と「学びに向かう力・人間性など」の育成に影響を与えたと考えられると同時に、児童・生徒が自ら「学びとる」内容であったといえる。

情報モラル教育と児童生徒の「自分ごと化」の意識の促進について

「GIGAワークブック」を用いた授業実践の結果、重要であると考えられることのひとつに、児童・生徒の「自分ごと化」の意識が促進されたことが挙げられる。授業前後の結果から、SNSトラブルに関するシナリオを通じて、自分が同様の状況に置かれた場合の対応を考えられるようになり、情報モラルを単なる知識ではなく、日常生活に直結する知識・技能であることを認識できるようになったことがわかった。このような「自分ごと化」のアプローチとその影響は、今後の情報モラル教育においても重要な要素となるといえる。

指導者（教師）の役割と価値観の変容について

情報モラル教育を効果的に進めるためには、教師の役割が非常に重要である。従来の情報モラル教育の多くは、教師から児童・生徒へ知識を伝達する「伝達主義的な授業」が中心であった。しかし今回の「GIGAワークブック」を用いた授業では、児童・生徒が主体的に学び、考え、問題解決のプロセスを経験しながら学びとることが行われた。このような授業において、教師は児童・生徒に疑問を持たせたり、自律的に学習できるように働きかけたり、必要に応じて助言や援助を行ったりする役割を果たした。言い換えれば「構成主義的な授業」を行っていたのである。これは単純な「指導法」ではなく、指導者の価値観に依存するともいえる。つまり、本ワークブックを用いれば自動的に児童・生徒の変容が見込まれるのではなく、授業における指導者（教師）自身の役割や価値観を構成主義的に変えていく必要がある。そして、児童・生徒の伴走者となるような立ち位置で教材を用いることが、これからの教育現場での成功の鍵となり得ることが示唆される。また、今回の授業はすべてオンラインで行われたが、オンライン授業においても一定の効果を確認できた。これは、本教材が伝達主義的な内容でなく、児童・生徒が自発的に学ぶものであるからと考察される。

調査結果詳細

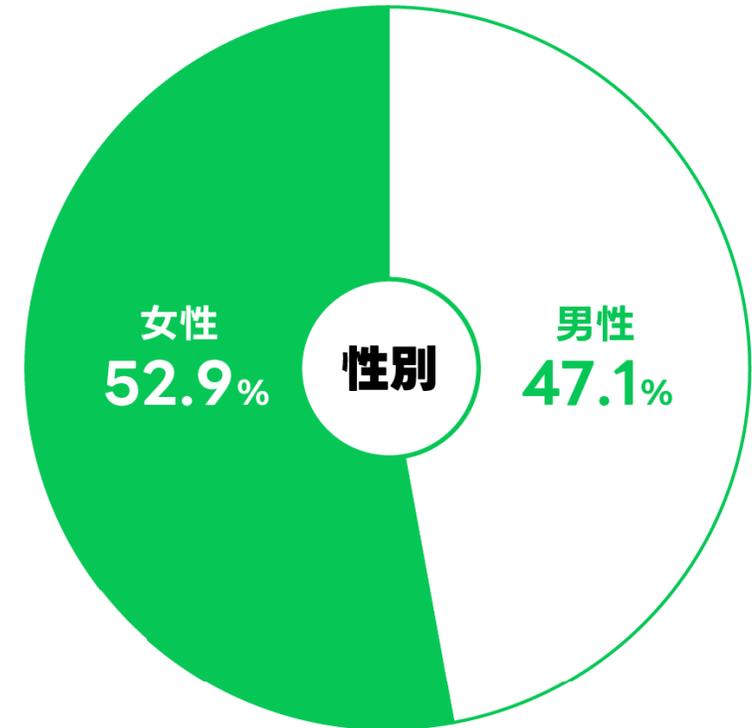
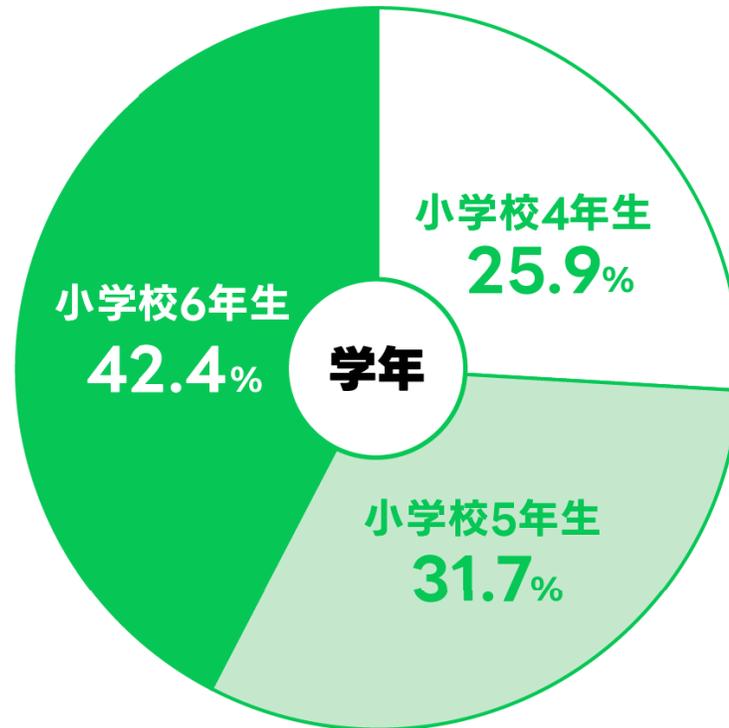
第1部 「GIGAワークブック」 スタンダード

「GIGAワークブック」スタンダードを使用した授業前後での意識変化の調査

調査対象：小学校4年生～6年生

小学校 4 年生	153
小学校 5 年生	187
小学校 6 年生	250
合計	590

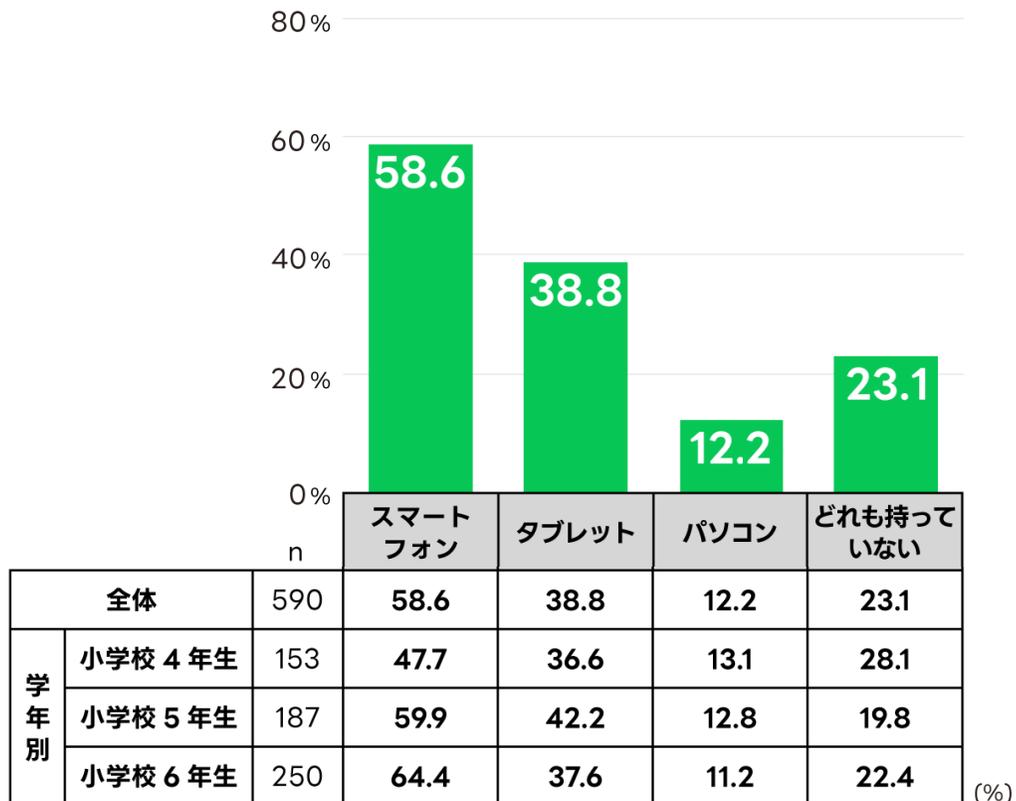
(人)



- ・所有している私物端末は、スマートフォンが58.6%で過半数が所有している。
- ・家庭内での私物端末の利用に「ルールはない」と34.7%が回答。

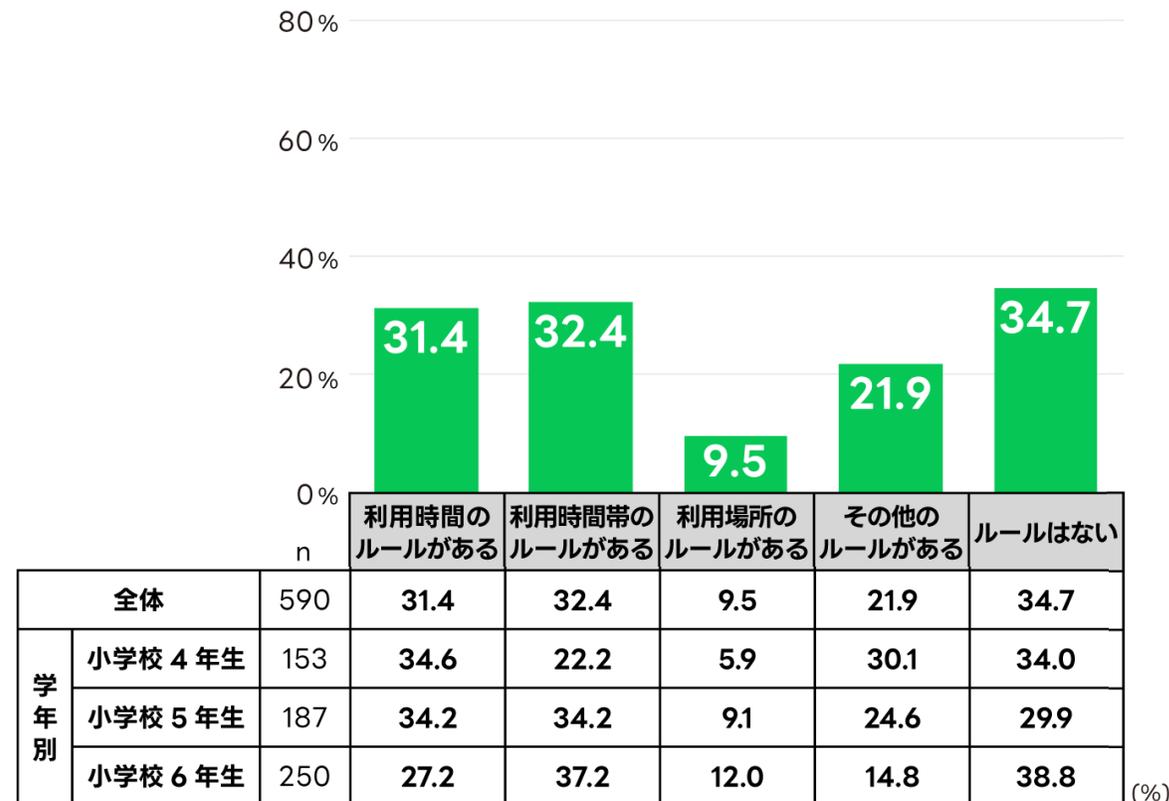
問：あなたが持っている自分の端末（私物端末）を選んでください。（複数選択可）

所有している私物端末



問：私物端末（スマホ・タブレット・パソコン）の利用について、家庭でのルールはありますか？（複数選択可）

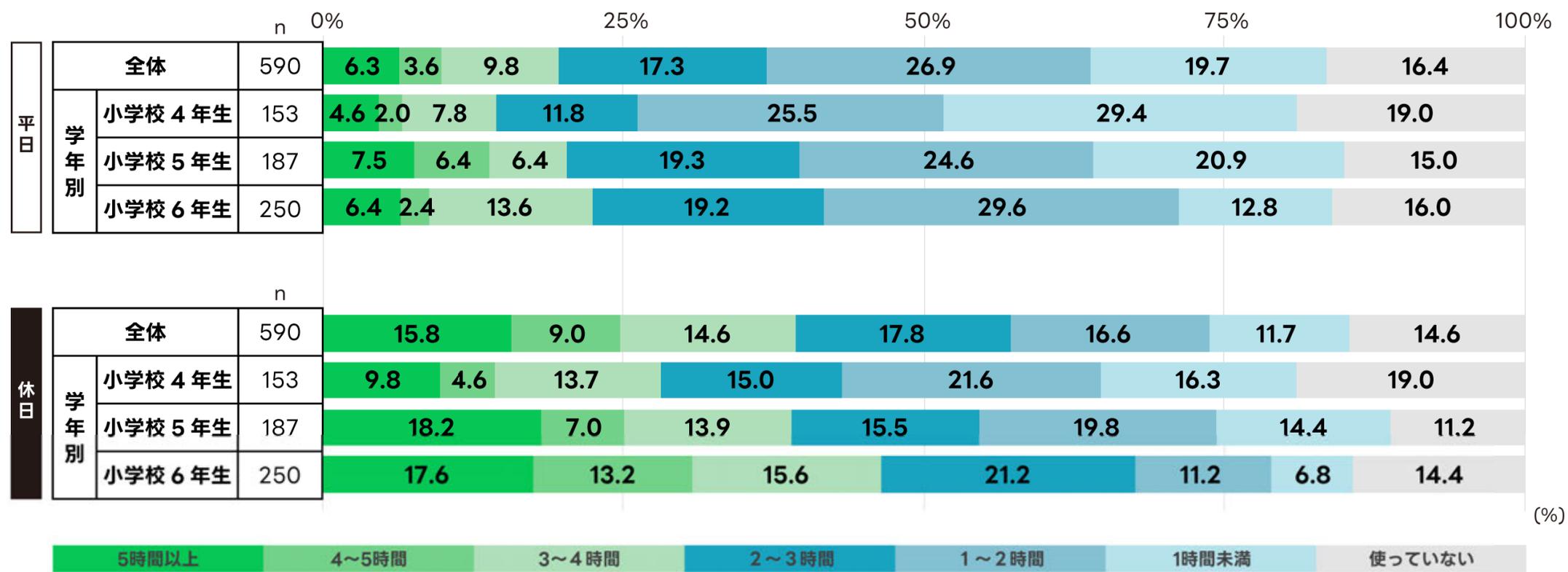
端末利用ルールの有無



- ・ 私物端末の利用時間は、平日は「1～2時間未満」が26.9%、休日は「2～3時間未満」が17.8%となり、それぞれ最も高い利用時間。
- ・ 休日に「5時間以上」利用する層は、小学校4年生と5年生で8%以上の差があり、5年生以上で利用時間が増加する。

問：私物端末（スマホ・タブレット・パソコン）を使う「時間」は、1日平均すると、どれくらいですか？ 平日と休日ごとにお答えください。

私物端末の利用時間

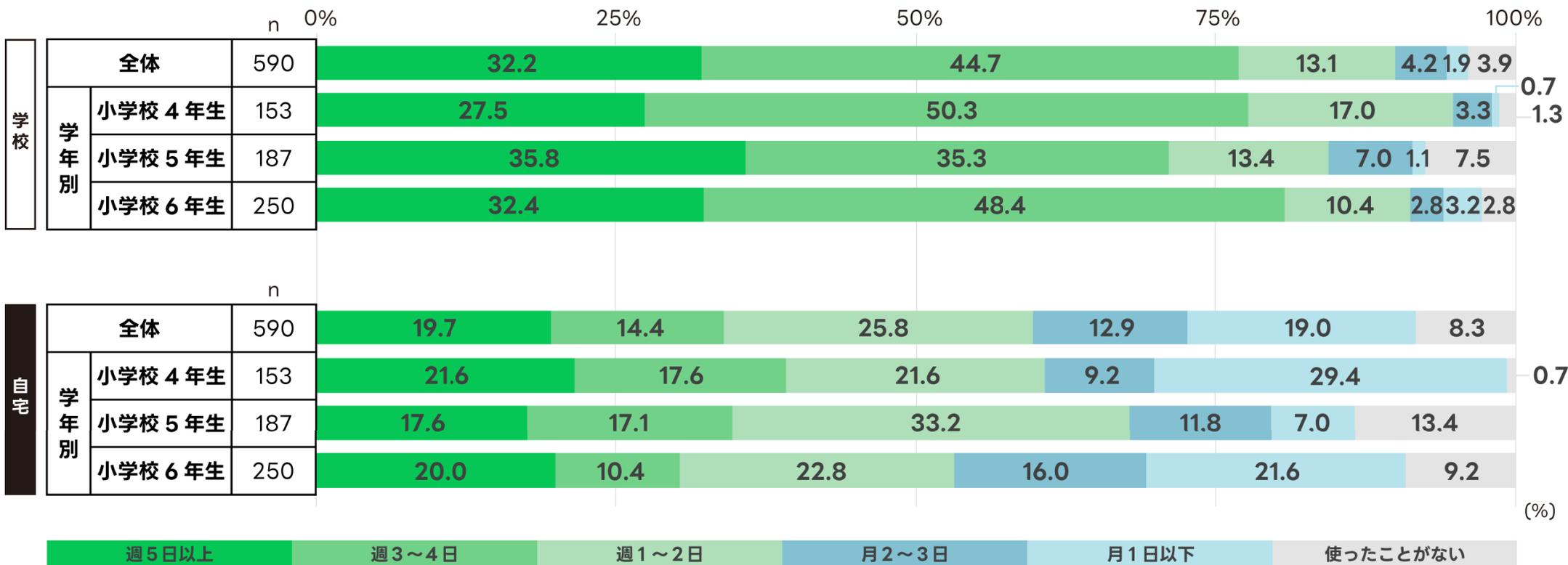


(%)

- 学校端末を学校で使う頻度は「週5日以上」が32.2%。「使ったことがない」は3.9%となり、ほとんどの児童が利用経験がある。
- 学校端末を自宅で使う頻度は「週5日以上」が19.7%。「使ったことがない」は8.3%にとどまり、9割以上の児童が自宅でも学校端末を利用している。

問：学校端末（GIGAスクール端末）を学習のためにどれくらい使っていますか？ 学校と自宅ごとにお答えください。

学校端末の利用頻度

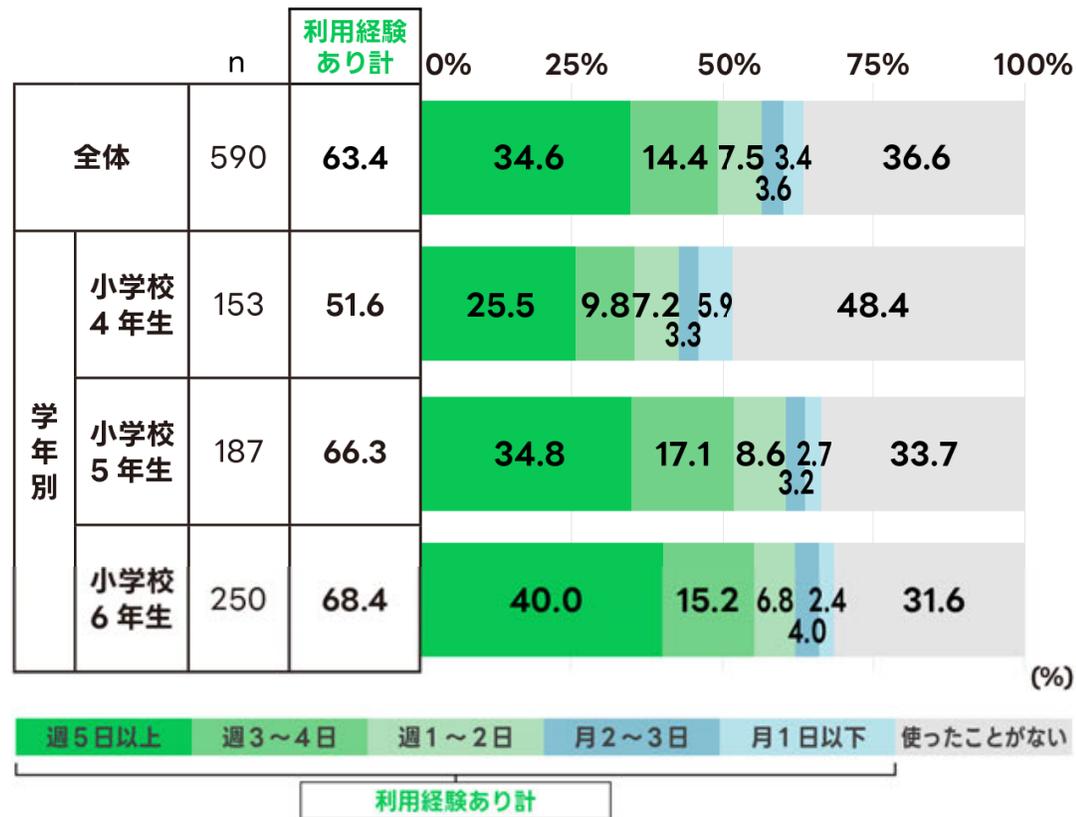


- ・私物端末でのチャット・SNSの「利用経験あり計」は63.4%となった。学年が上がるにつれ「週5日以上」が増加する。
- ・グループチャット時での態度は全体の44.1%が「参加したことがない」と回答。
- ・グループチャットでは、「意見を聞く計」が22.5%となり、「意見をやる計」は7.3%にとどまる。

問：私物端末（スマホ・タブレット・パソコン）で「チャット・SNS」をどれくらい使っていますか？

問：端末（スマホ・タブレット・パソコン）を使ってグループチャットで会話するとき、あなたはどちらに近いですか？

私物端末でのチャット・SNSの利用頻度



グループチャット時の態度



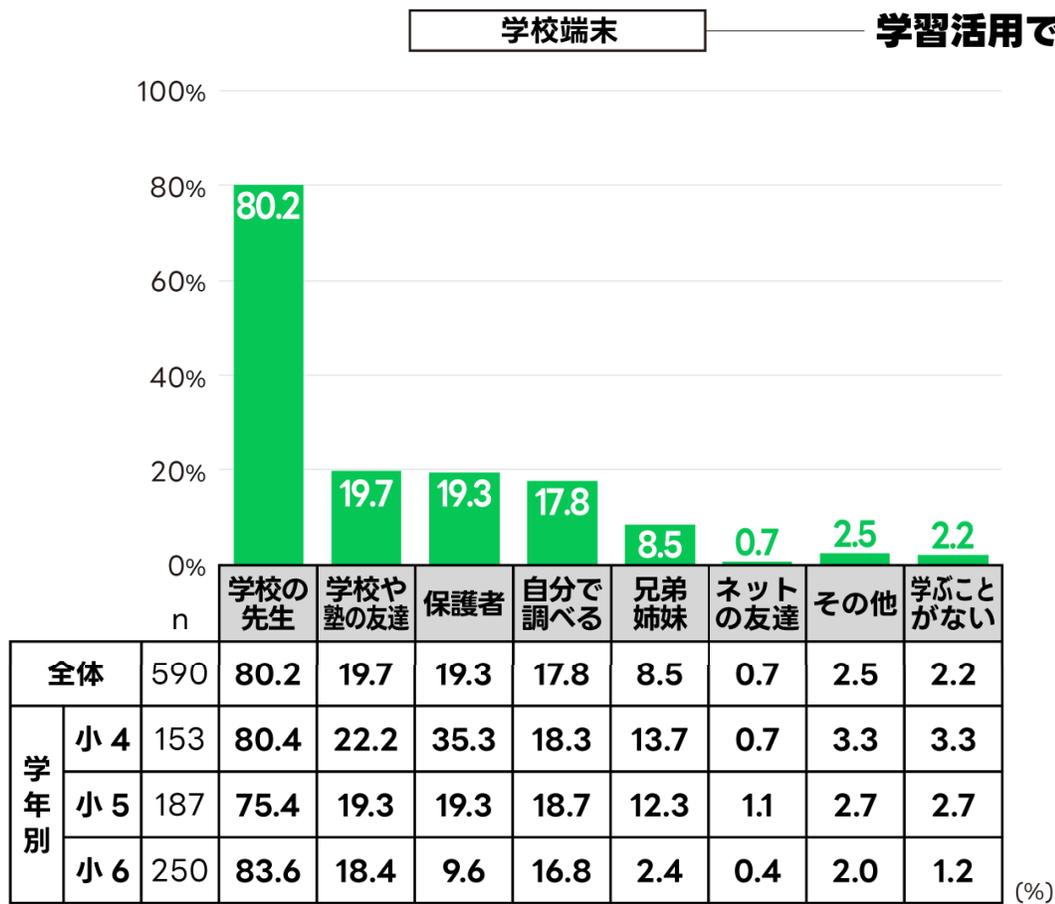
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

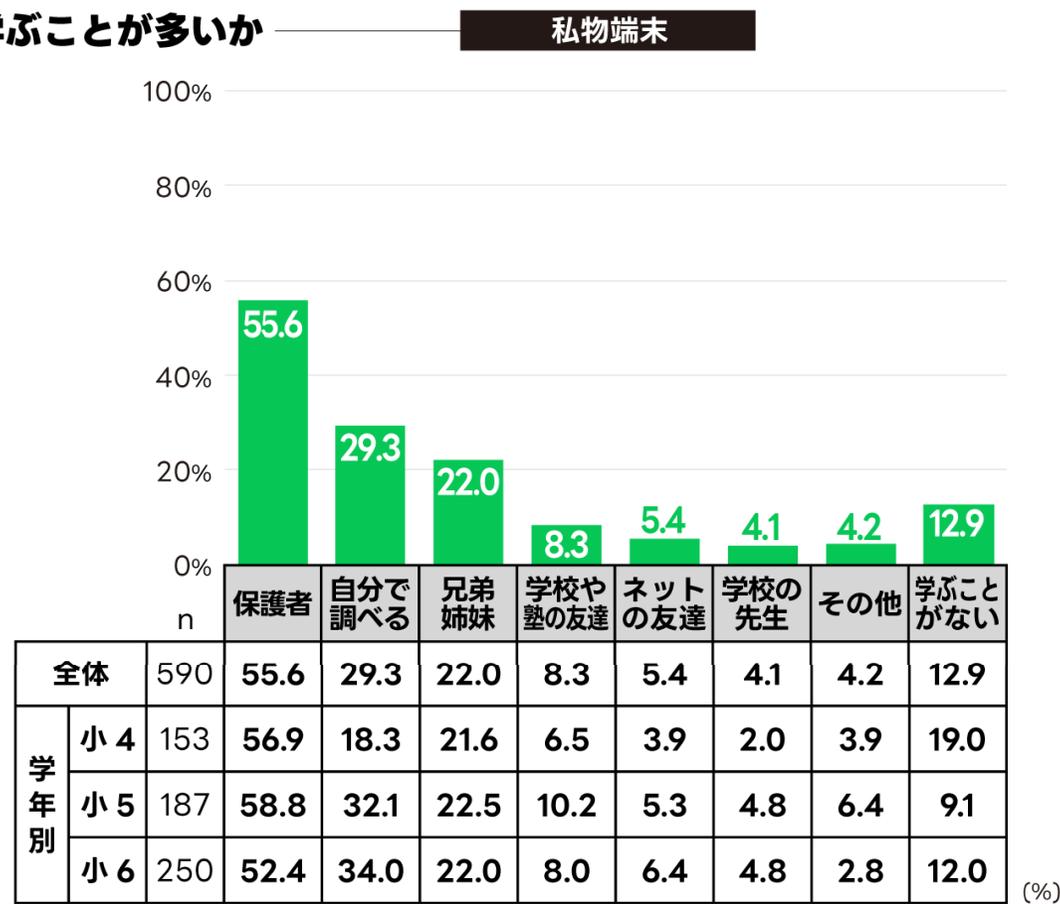
- ・ 学習活用に関する学び先は、学校端末は「学校の先生」が80.2%、私物端末は「保護者」が55.6%で最も多い。

問：端末（スマホ・タブレット・パソコン）を学習に活用する方法について、だれから学ぶことが多いですか？（複数選択可）



※全体スコアでソート

※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達



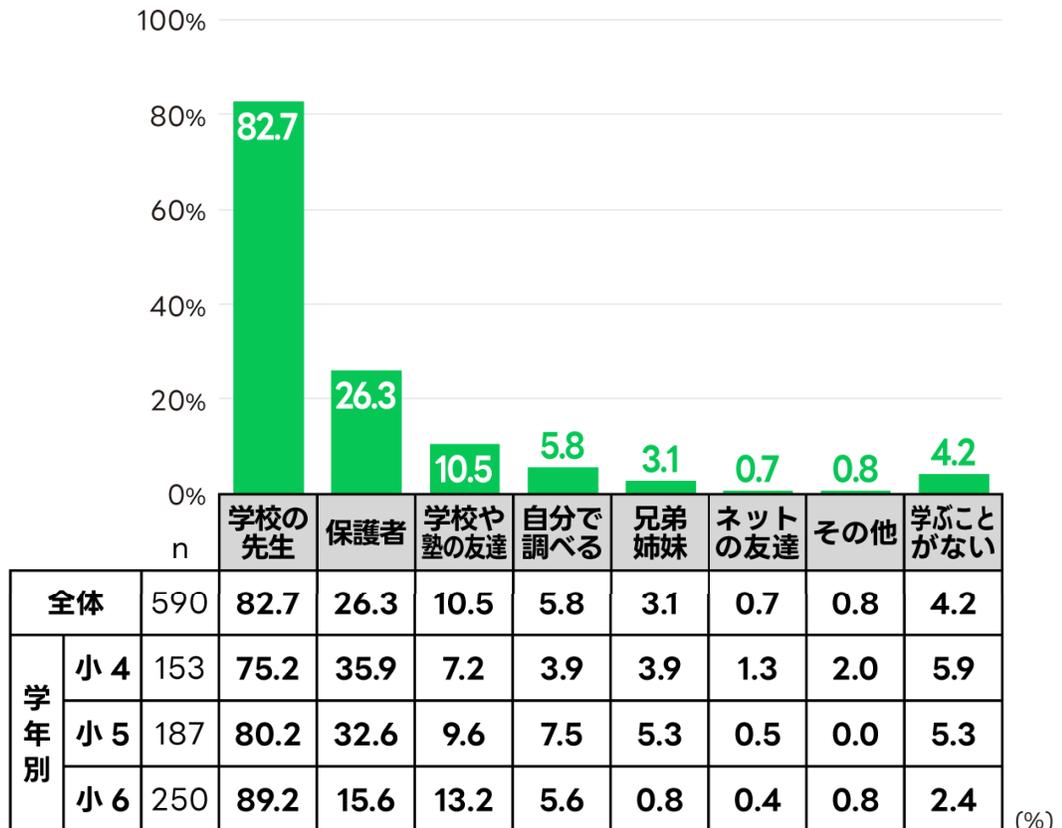
※全体スコアでソート

※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達

- ・ ネットのトラブルに対しての学び先は、学校端末は「学校の先生」が82.7%、私物端末は「保護者」が73.1%で、学習活用と同じく高いスコアとなる。

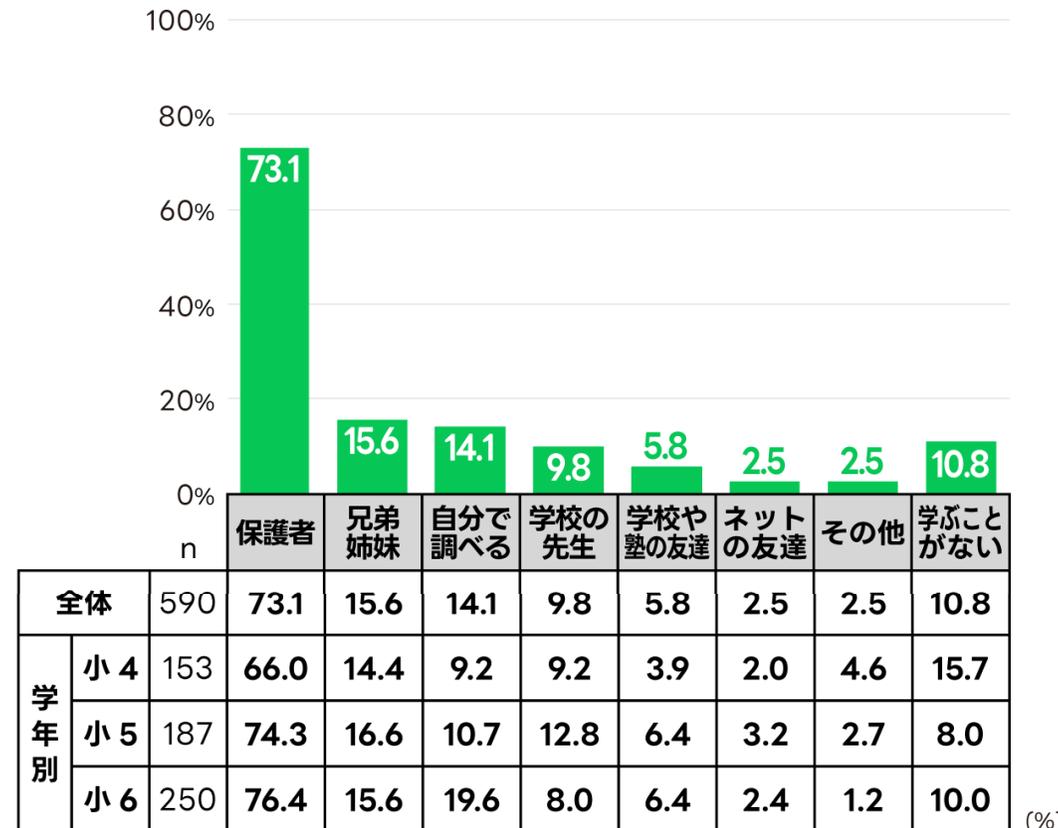
問：ネットのトラブルが起きた場合どう対応すればよいか、だれから学ぶことが多いですか？（複数選択可）

学校端末 — ネットのトラブルが起きたとき誰から学ぶことが多いか — 私物端末



※全体スコアでソート

※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達

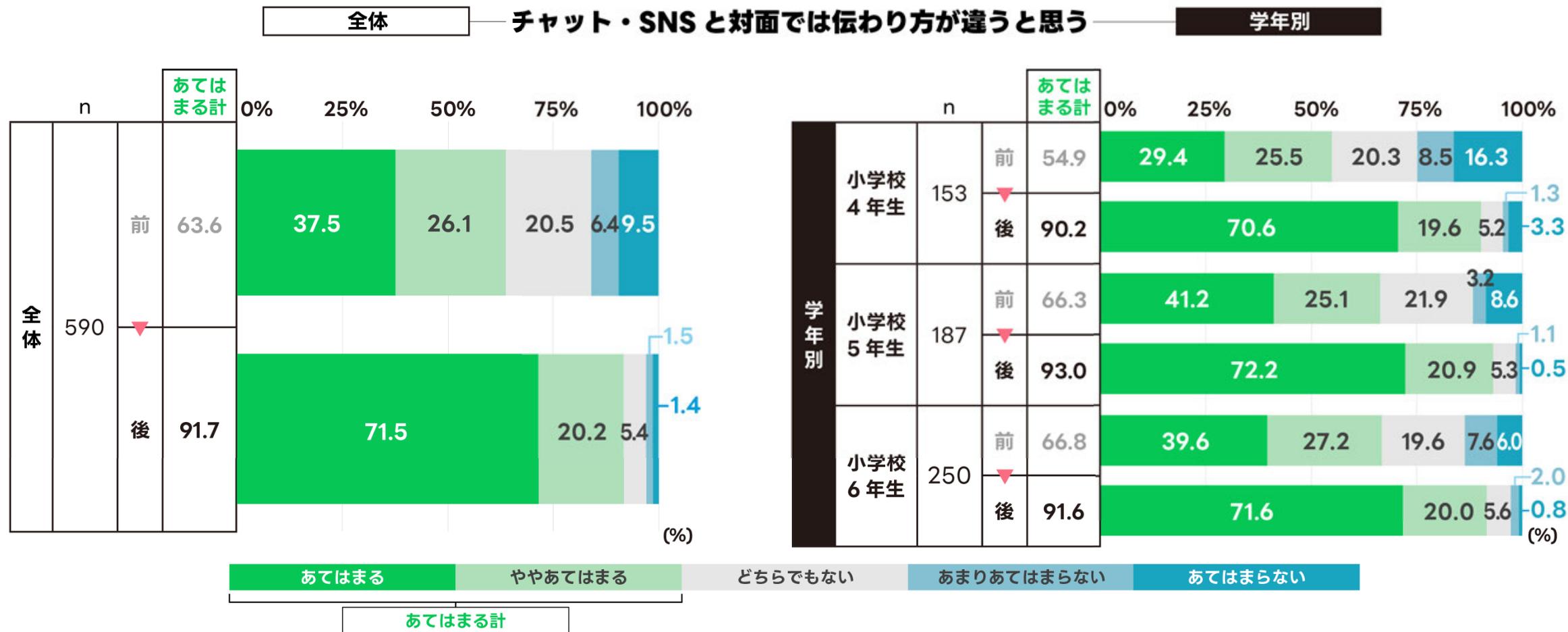


※全体スコアでソート

※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達

- 「『チャット・SNS』と『対面』で話すとき、相手への伝わり方は違うと思う」に「あてはまる計」の児童は、授業前では63.6%、授業後では91.7%となり、約28%の上昇となる。
- 小学校4年生では、「あてはまる計」が授業前で54.9%と他の学年より比較的低いが、授業後には他の学年と同様90%を超えている。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」と「対面」で話すとき、相手への伝わり方は違うと思う。

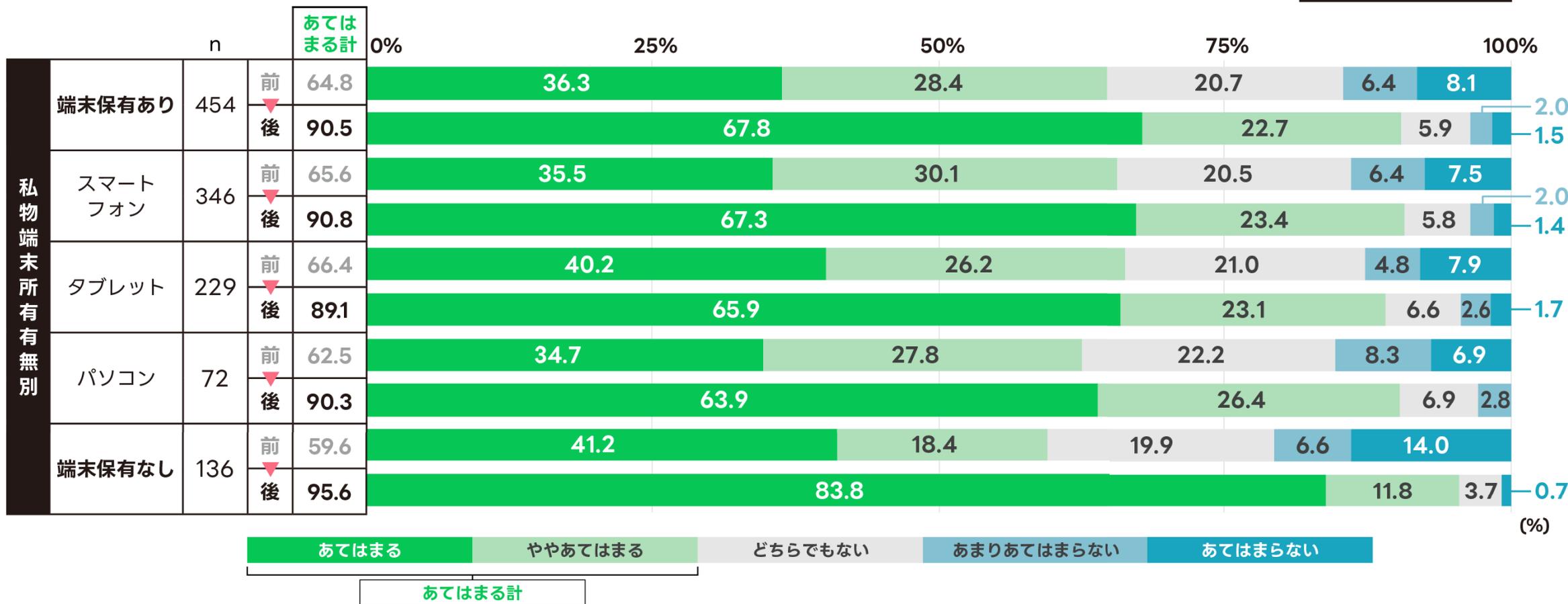


- 「『チャット・SNS』と『対面』で話すとき、相手への伝わり方は違うと思う」を私物端末所有の有無別に見ると、私物端末を所有していない児童に対しても、「あてはまる計」で授業前59.6%から授業後95.6%へ上昇と効果が見られる。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」と「対面」で話すとき、相手への伝わり方は違うと思う。

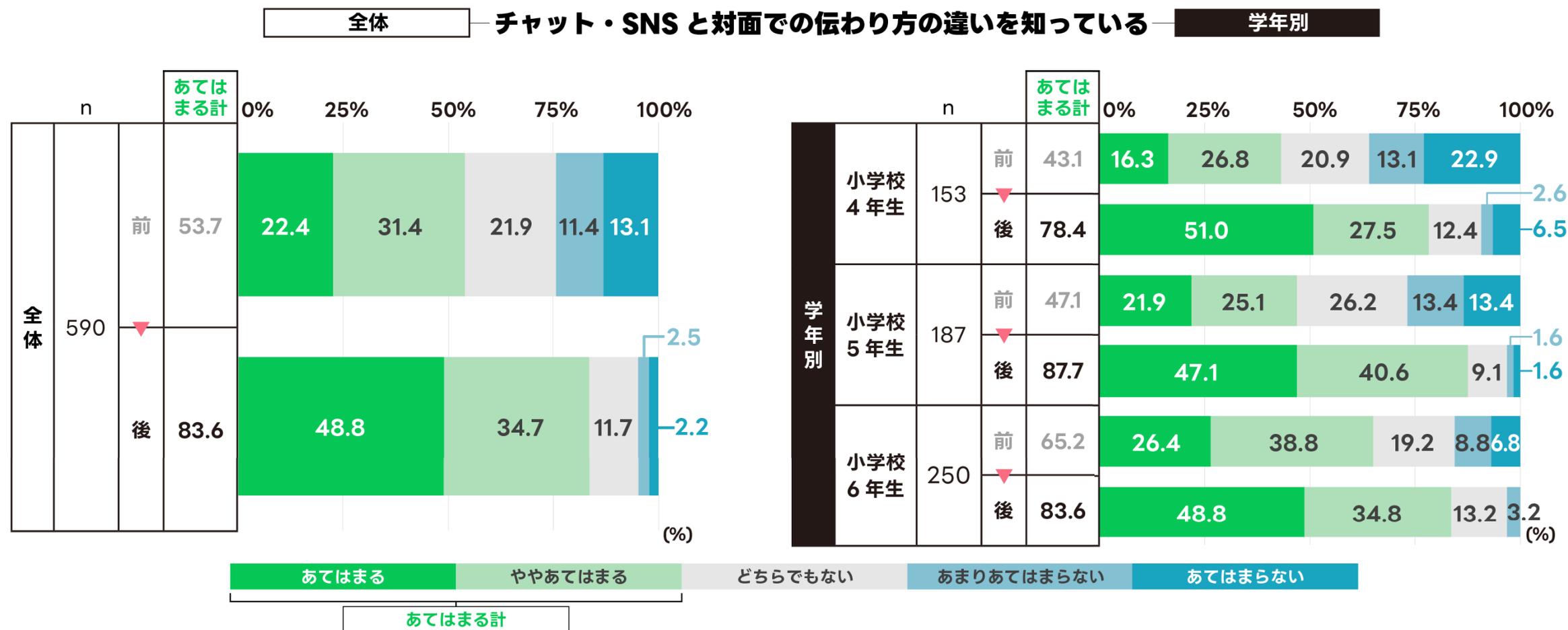
チャット・SNS と対面では伝わり方が違うと思う

私物端末所有有無別



- ・「『チャット・SNS』と『対面』で話すとき、相手への伝わり方にどんな違いがあるか知っている」は「あてはまる計」が授業前53.7%から授業後83.6%と約30%上昇。
- ・学年別に見ると、いずれも授業後に「あてはまらない」の減少が見られるが、小学校6年生では0%となった。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」と「対面」で話すとき、相手への伝わり方にどんな違いがあるか知っている。

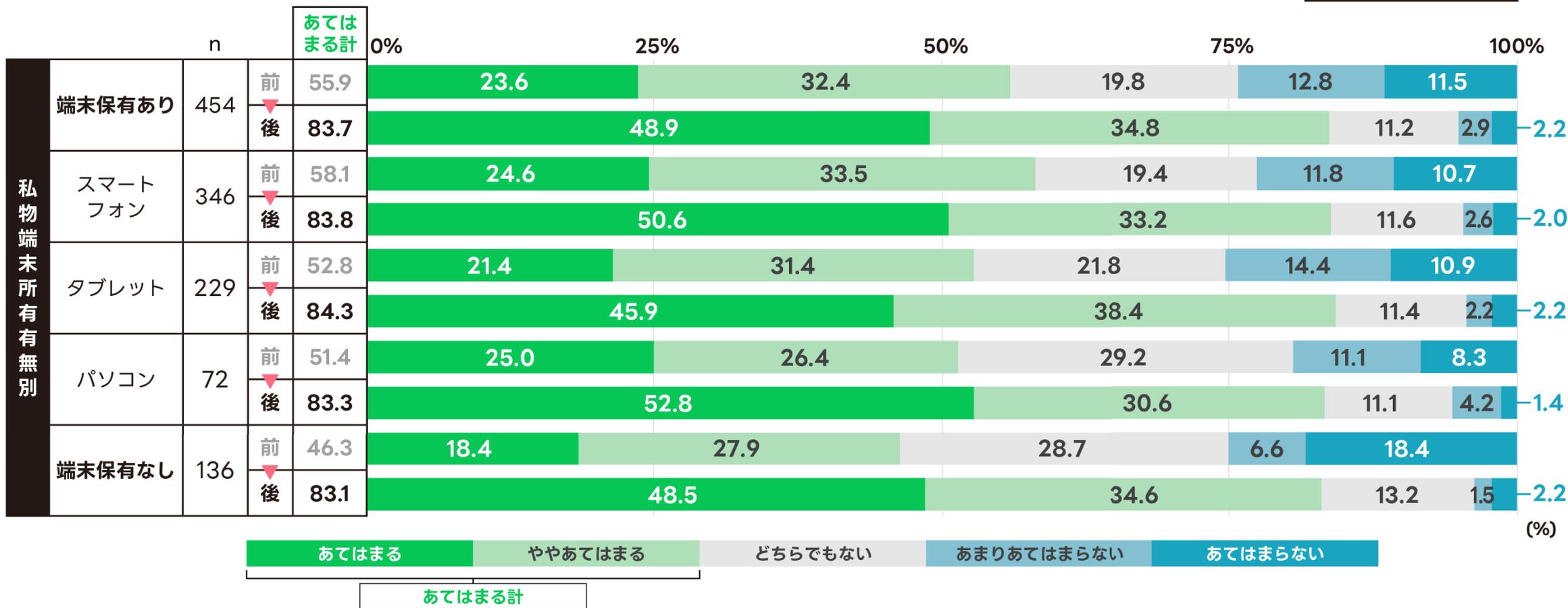


- ・「『チャット・SNS』と『対面』で話すとき、相手への伝わり方にどんな違いがあるか知っている」を私物端末所有の有無別に見ると、端末保有ありで授業前55.9%から授業後83.7%へ上昇、端末保有なしでも46.3%から83.1%へ上昇と私物端末所有の有無にかかわらず、効果が見られる。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」と「対面」で話すとき、相手への伝わり方にどんな違いがあるか知っている。

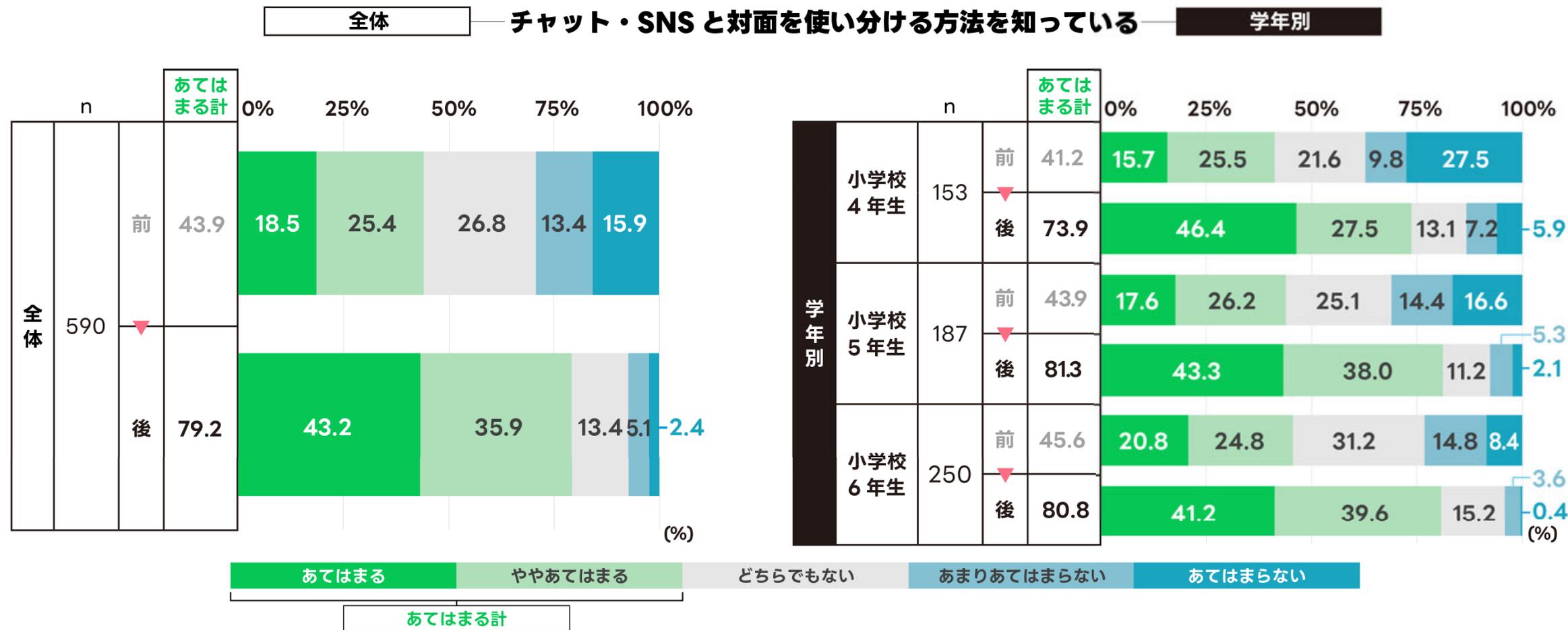
チャット・SNS と対面での伝わり方の違いを知っている

私物端末所有有無別



- 「伝える内容によって『チャット・SNS』と『対面』を使い分ける方法を知っている」は、「あてはまる計」が授業前43.9%から授業後79.2%と約35%上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 伝える内容によって「チャット・SNS」と「対面」を使い分ける方法を知っている。

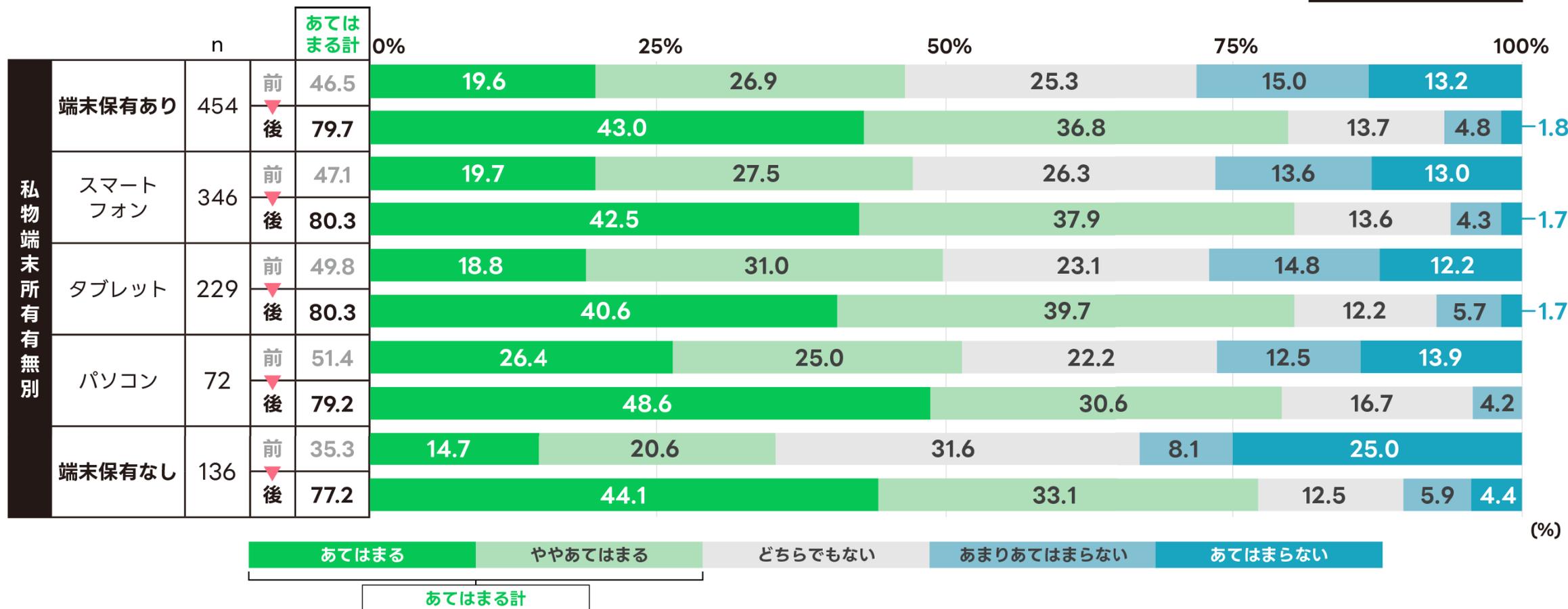


- 「伝える内容によって『チャット・SNS』と『対面』を使い分ける方法を知っている」を私物端末所有の有無別に見ると、「端末保有あり」で授業後に約33%の上昇、「端末保有なし」でも約42%の上昇と、ともに効果が見られる。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 伝える内容によって「チャット・SNS」と「対面」を使い分ける方法を知っている。

チャット・SNS と対面を使い分ける方法を知っている

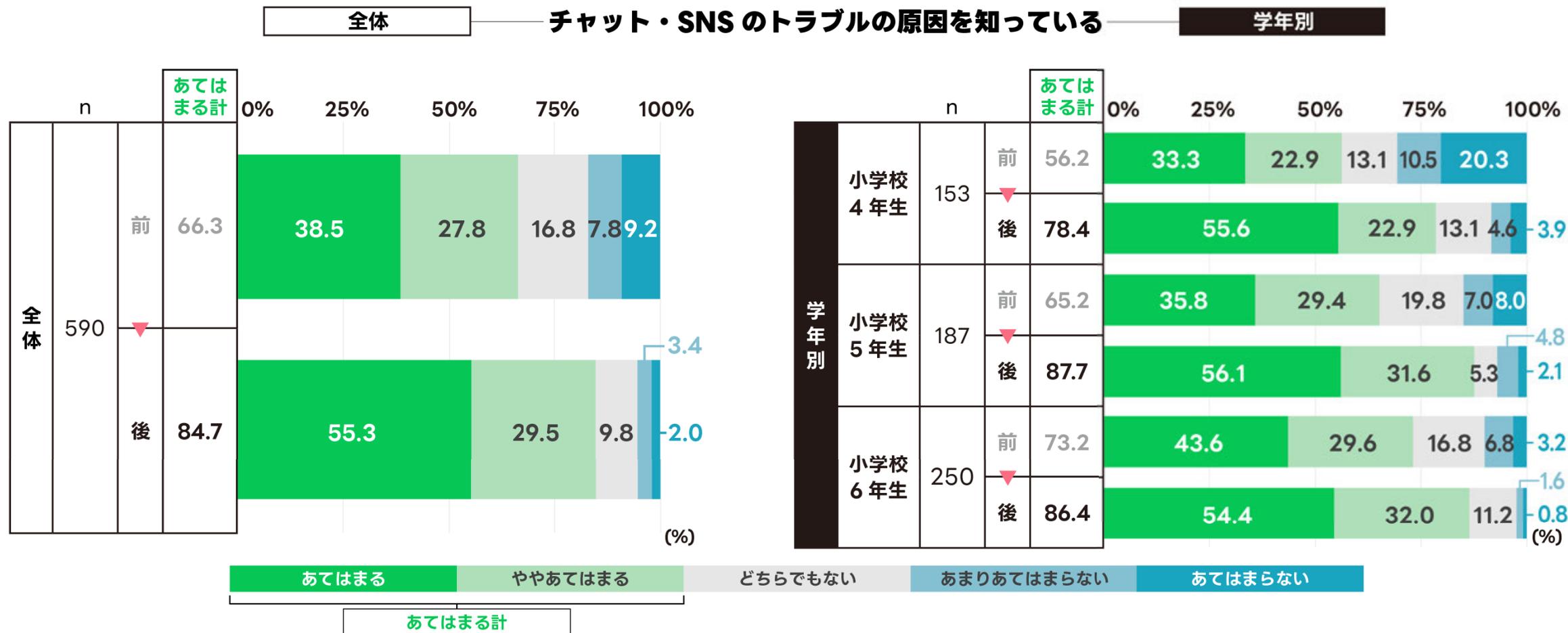
私物端末所有有無別



(%)

- 「『チャット・SNS』で話すとき、どのようなことで相手とトラブルが起きやすいかを知っている」は「あてはまる計」が授業前66.3%から授業後84.7%へと約18%上昇。
- 学年別では小学校4年生、5年生で特にスコアの上昇が見られ、いずれも約22%~23%の上昇となる。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」で話すとき、どのようなことで相手とトラブルが起きやすいかを知っている。

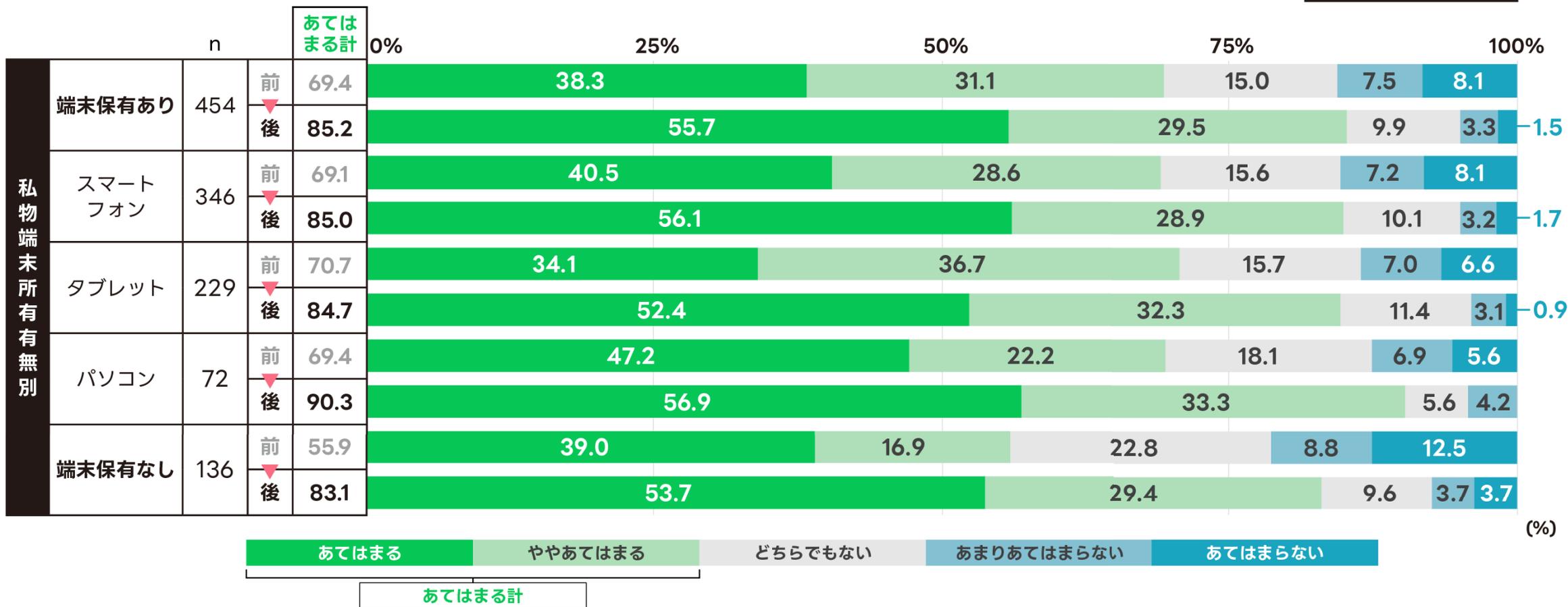


- 「『チャット・SNS』で話すとき、どのようなことで相手とトラブルが起きやすいかを知っている」を私物端末所有の有無別に見ると、「端末保有あり」で授業前69.4%から授業後85.2%へ約16%の上昇、「端末保有なし」で55.9%から83.1%へ約27%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」で話すとき、どのようなことで相手とトラブルが起きやすいかを知っている。

チャット・SNSのトラブルの原因を知っている

私物端末所有有無別



(%)

チャット・SNSで嫌だなと感じたときの対処①

スタンダード

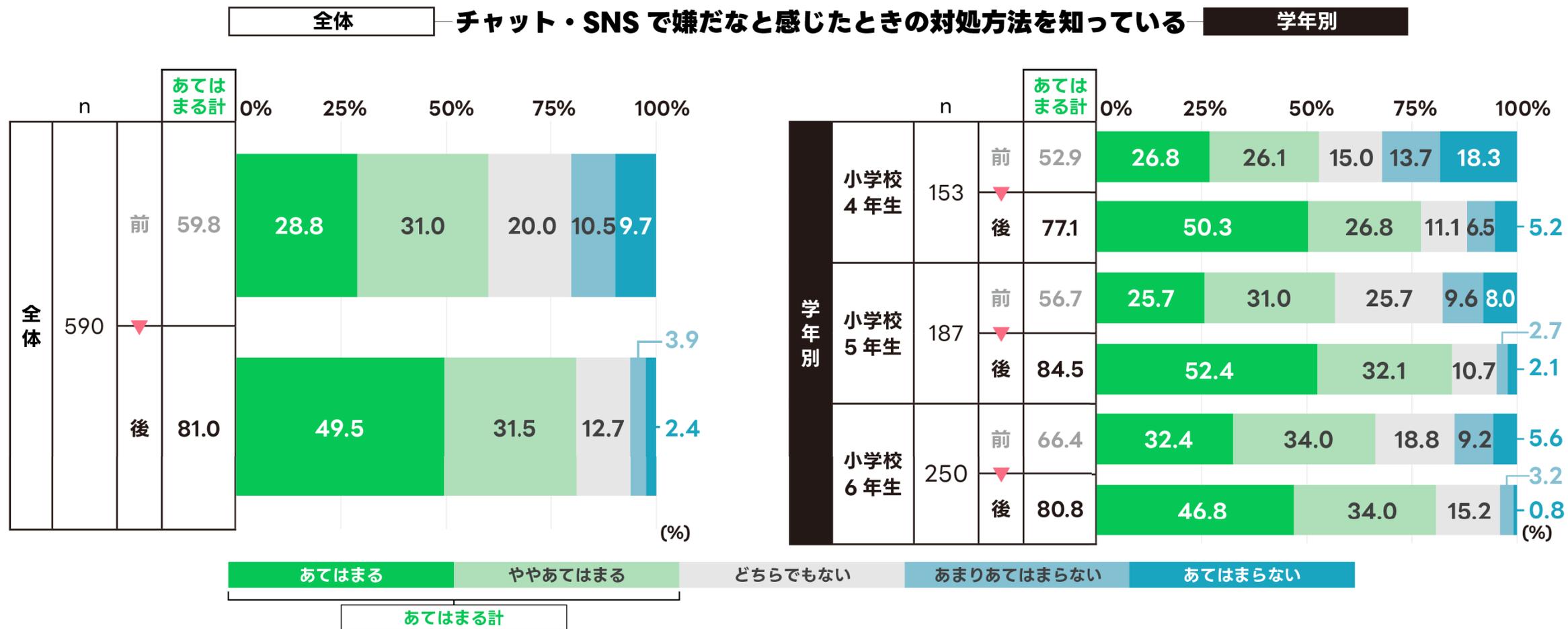
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「『チャット・SNS』で友達からイヤだなと感じることをされたときにどうすればよいか知っている」は「あてはまる計」が授業前59.8%から授業後81.0%と約21%上昇。
- 学年別では小学校5年生で特に変化が見られ、「あてはまる計」は授業前後で56.7%から84.5%と約28%の上昇。

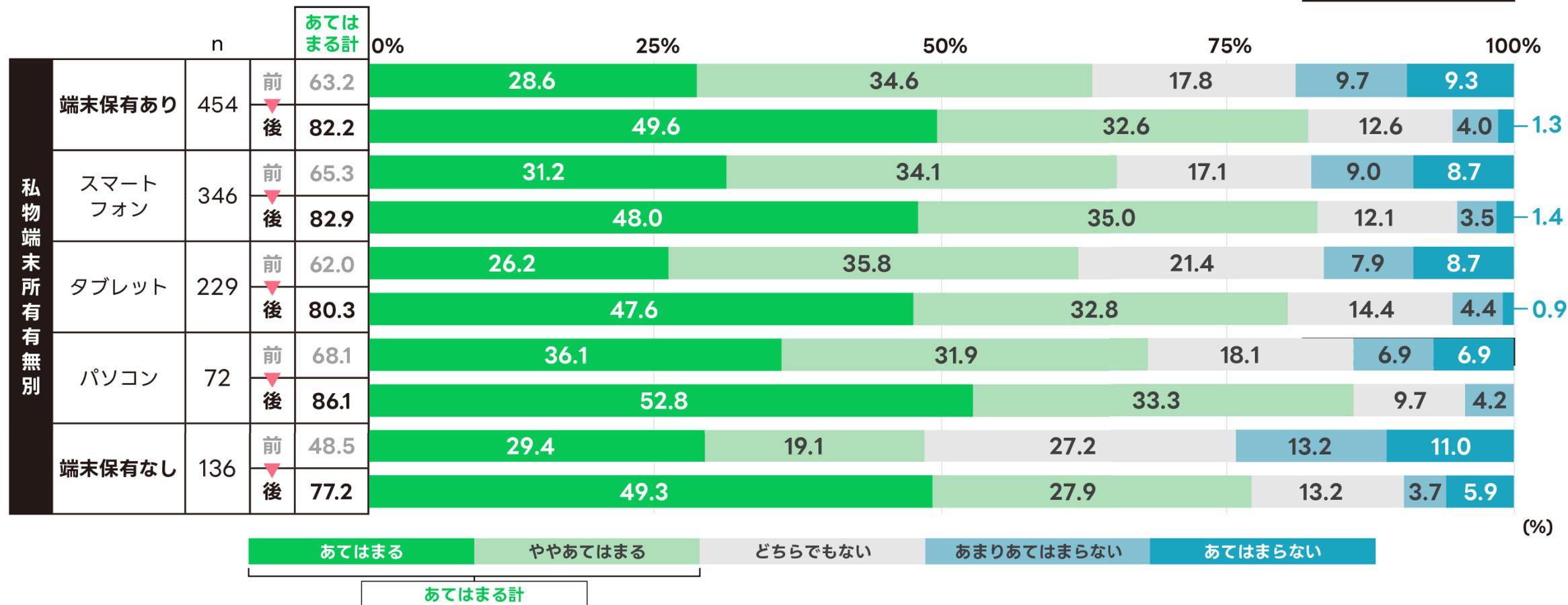
問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」で友達からイヤだなと感じることをされたときにどうすればよいか知っている。



- 「『チャット・SNS』で友達からイヤだなと感じることをされたときにどうすればよいか知っている」を私物端末所有の有無別に見ると、「端末保有なし」でも「あてはまる計」が授業前48.5%から授業後77.2%と約29%上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」で友達からイヤだなと感じることをされたときにどうすればよいか知っている。

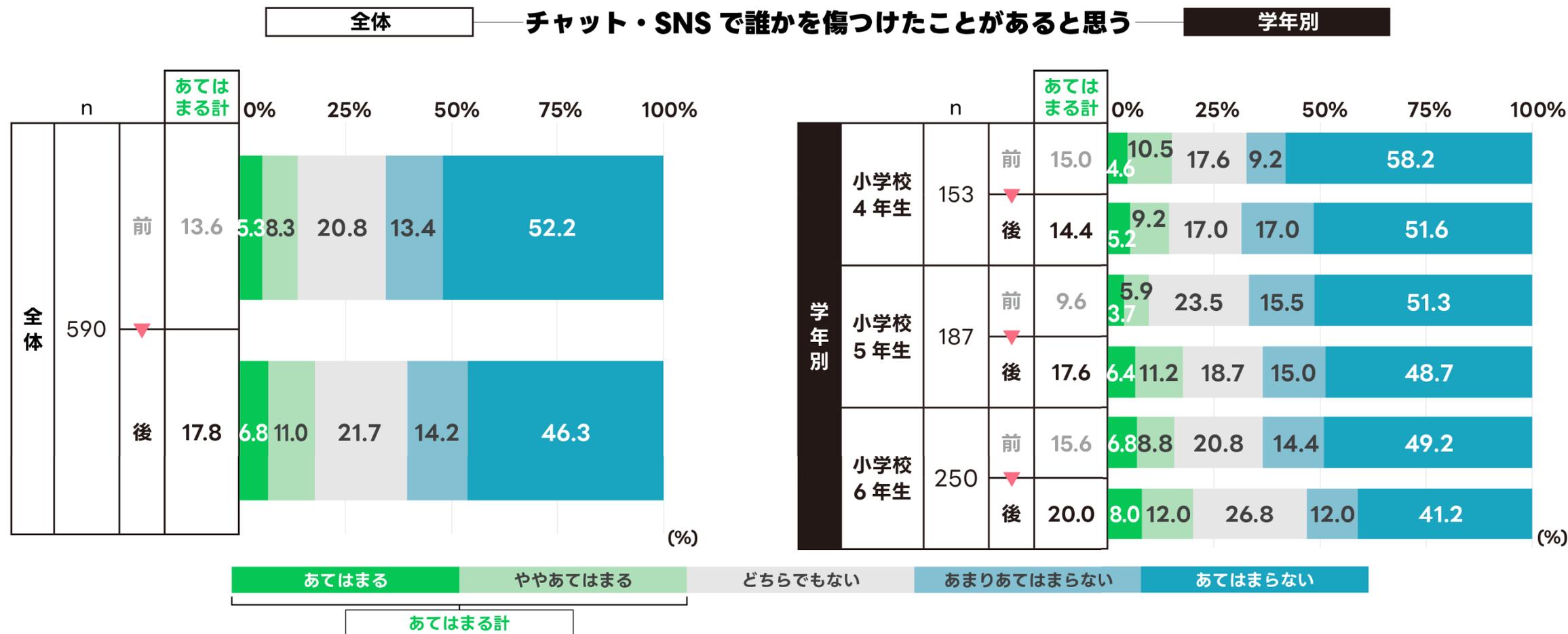
チャット・SNSで嫌だなと感じたときの対処方法を知っている 私物端末所有有無別



(%)

- ・「『チャット・SNS』で自分がだれかをイヤな気持ちにさせたり傷つけたりしていることがあると思う」は「あてはまる」と考える児童よりも「あてはまらない」と考える児童のほうが多い傾向。
- ・授業前後の差は少なく、全体で「あてはまる計」の差は約4%。
ただし、4年生はチャットを利用したことのない児童が相当数いる（p22参照）ことに留意する必要がある。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 「チャット・SNS」で自分がだれかをイヤな気持ちにさせたり傷つけたりしていることがあると思う。



グループチャットでのトラブルの原因の理解①

スタンダード

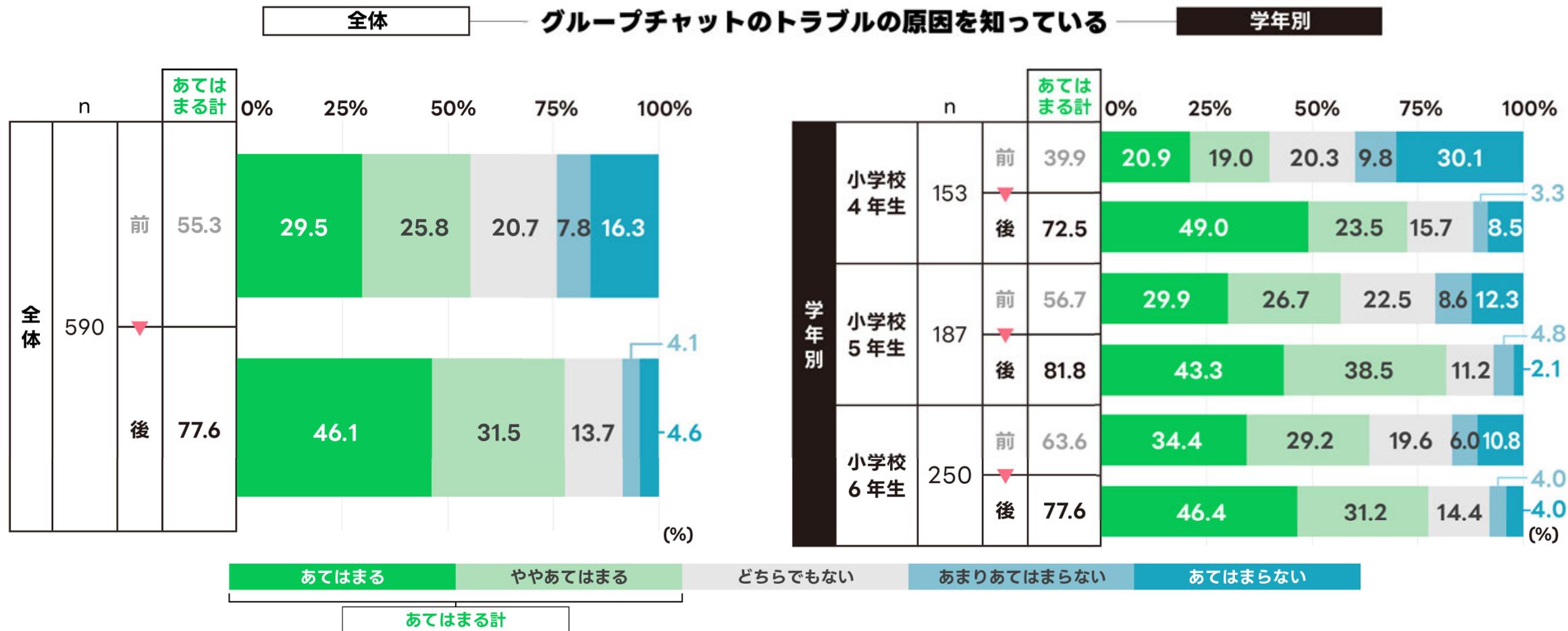
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- ・「複数の友達と一緒に『グループチャット』をするときに、どのようなことでトラブルが起きやすいかを知っている」は「あてはまる計」が授業前55.3%から授業後77.6%と約22%上昇。
- ・学年別では、小学校4年生で特にスコアが変化しており、授業後に「あてはまる計」が約33%上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 複数の友達と一緒に「グループチャット」をするときに、どのようなことでトラブルが起きやすいかを知っている。

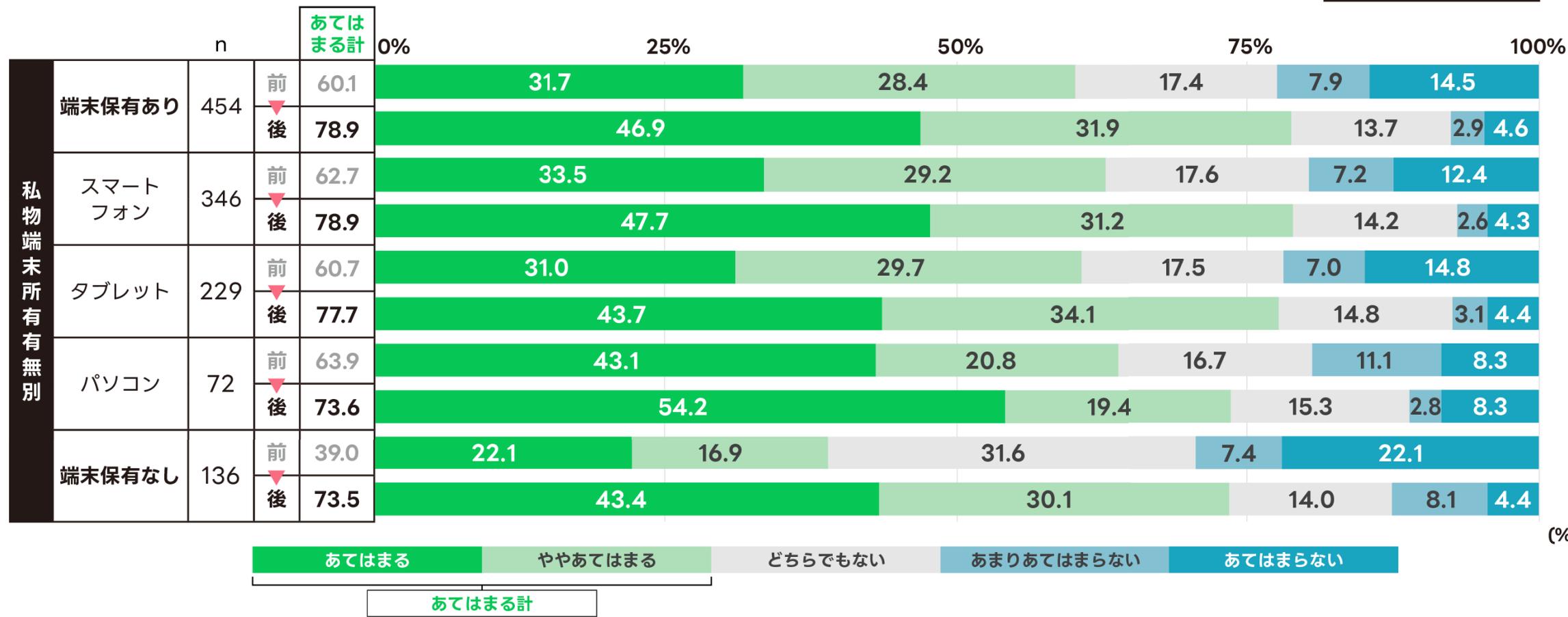


- 「複数の友達と一緒に『グループチャット』をするときに、どのようなことでトラブルが起きやすいかを知っている」を私物端末所有の有無別に見ると、私物端末を保有していない児童の変化が大きく、「あてはまる計」で授業前が39.0%、授業後が73.5%と約35%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 複数の友達と一緒に「グループチャット」をするときに、どのようなことでトラブルが起きやすいかを知っている。

グループチャットのトラブルの原因を知っている

私物端末所有有無別

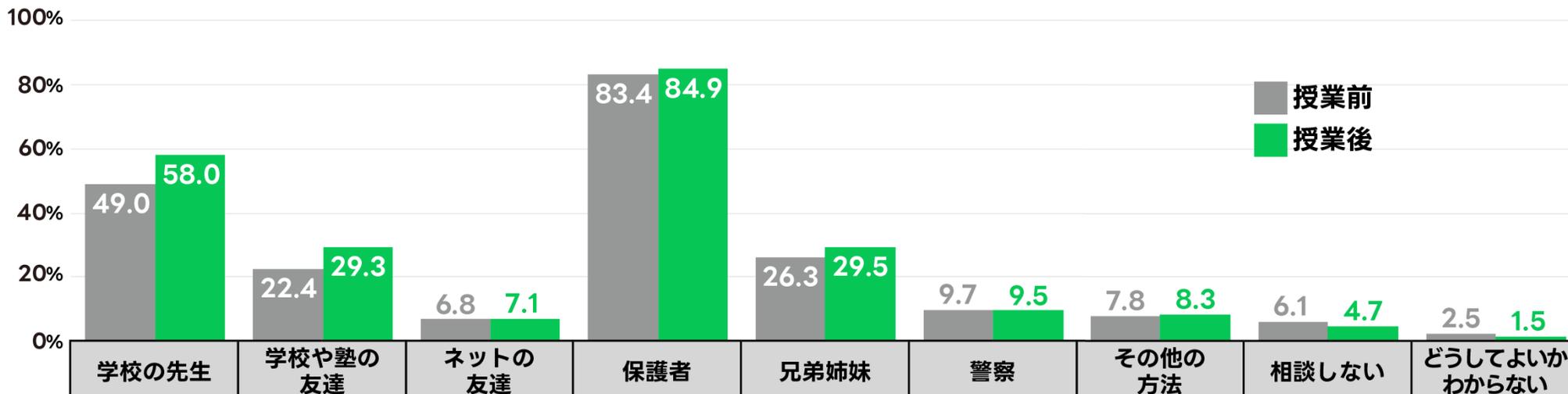


(%)

- ・ 授業前、授業後ともに相談先は「保護者」が8割台で最も高い。
- ・ 授業後最もスコアが上昇したのは「学校の先生」であり、9%上昇している。

問：もしも「グループチャット」で友達にひどい悪口や悪意ある投稿をされたら、だれに相談しようと思いますか？（複数選択可）

悪意のある投稿に対する相談先



学年別	n	学校の先生		学校や塾の友達		ネットの友達		保護者		兄弟姉妹		警察		その他の方法		相談しない		どうしてよいかわからない	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
全体	590	49.0	58.0	22.4	29.3	6.8	7.1	83.4	84.9	26.3	29.5	9.7	9.5	7.8	8.3	6.1	4.7	2.5	1.5
小4	153	58.2	65.4	21.6	26.8	6.5	9.2	86.3	90.2	28.1	33.3	7.8	11.1	7.2	15.7	4.6	1.3	5.2	3.3
小5	187	51.9	61.0	25.7	33.2	9.1	8.0	81.8	84.5	26.7	29.4	11.2	10.2	11.2	6.4	5.9	4.8	1.6	0.5
小6	250	41.2	51.2	20.4	28.0	5.2	5.2	82.8	82.0	24.8	27.2	9.6	8.0	5.6	5.2	7.2	6.8	1.6	1.2

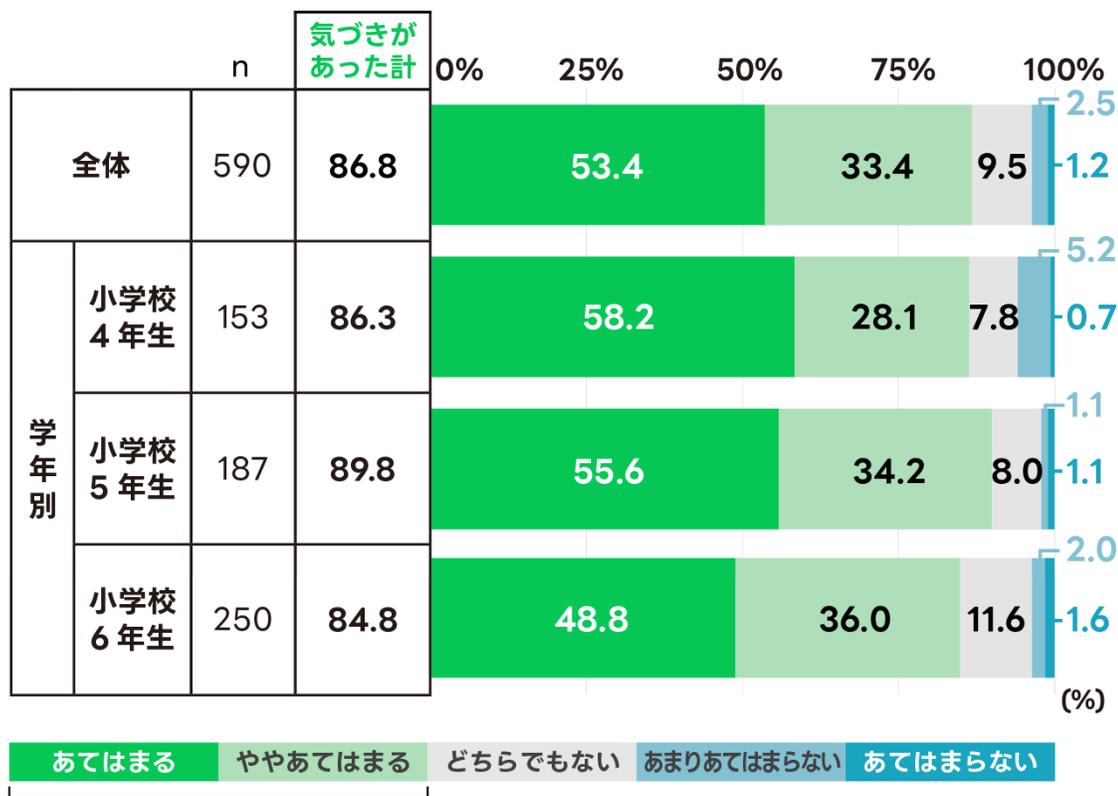
※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達

(%)

- ・ 授業からの気づきでは、全体の53.4%が「あてはまる」と回答。「気づきがあった計」では86.8%まで上昇する。
- ・ 気づきのあった授業内容では、「相手に伝えるときには」が60.5%で最も高く、次いで「上手なチャットの使い方」、「変なコメントが書き込まれたら？」が50%台で続く。
- ・ 学年別で見ると、「変なコメントが書き込まれたら？」は小学校4年生で特に気づきのあった内容であり、61.4%。

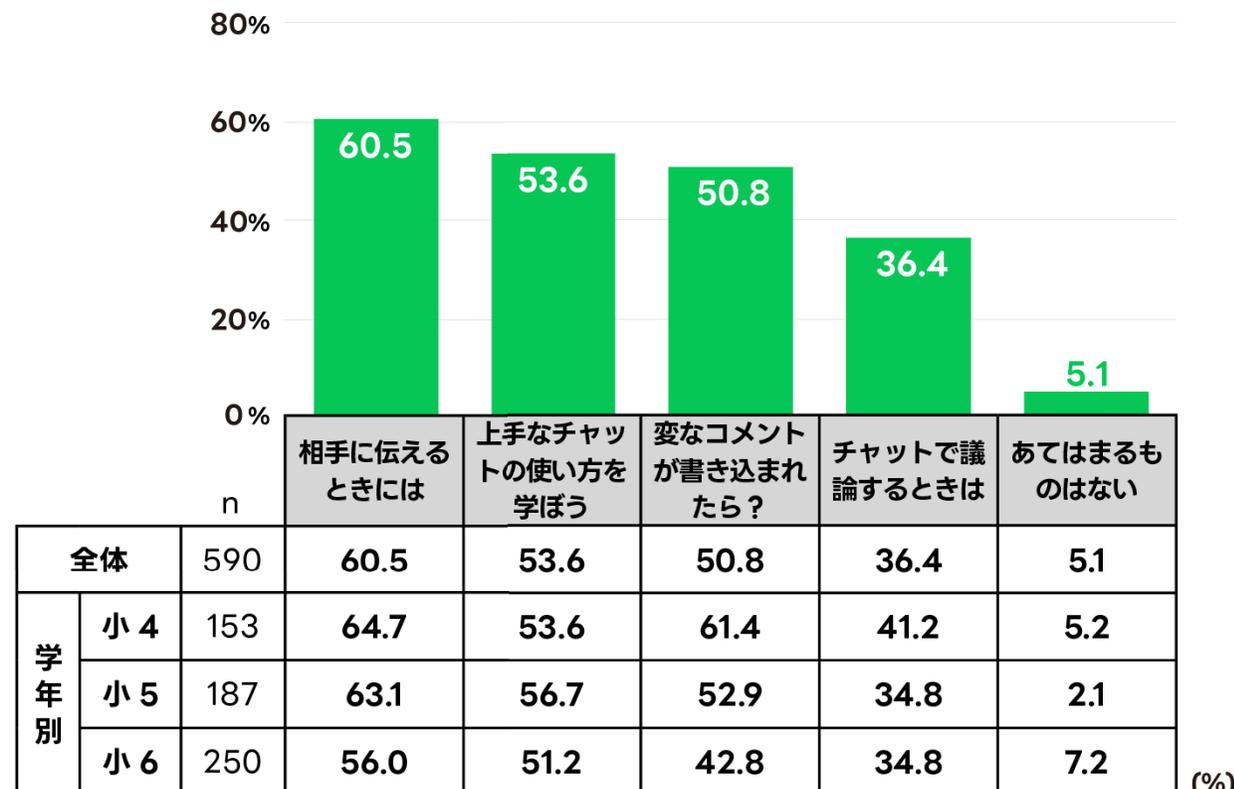
問：今回の授業を受けて「気づき」がありましたか？

「GIGA ワークブック」授業で気づきがあった



問：「気づき」があったと思う授業内容を選んでください。(複数選択可)

「GIGA ワークブック」授業で気づきがあった内容



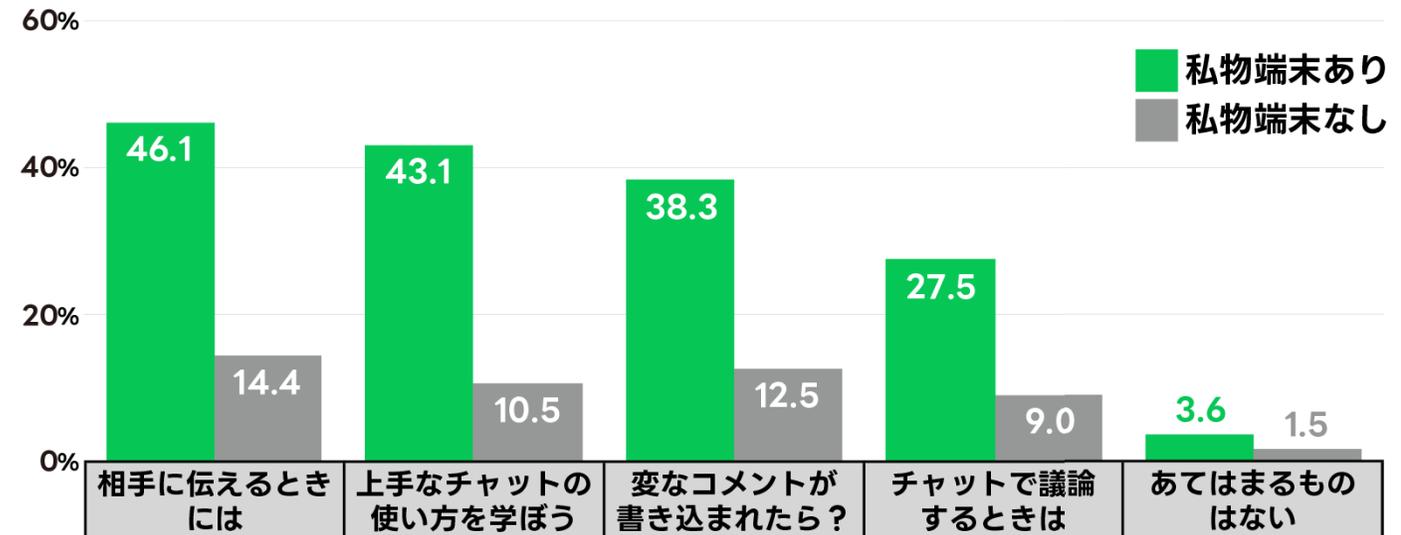
※全体スコアでソート

※授業内容は、p7「使用教材『GIGA ワークブック』スタンダード(小学校4年生～6年生)授業の構成」参照 39

- ・気づきのあった授業内容は、私物端末所有の有無に関わらず、「相手に伝えるときには」が最多。また、「あてはまるものはない」は、いずれも全体で4%未満。

問：「気づき」があったと思う授業内容を選んでください。(複数選択可)

「GIGA ワークブック」授業で気づきがあった内容 — 私物端末所有有無別



	n	相手に伝えるときには		上手なチャットの使い方を学ぼう		変なコメントが書き込まれたら？		チャットで議論するとき		あてはまるものはない		
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	
全体	590	46.1	14.4	43.1	10.5	38.3	12.5	27.5	9.0	3.6	1.5	
学年別	小4	153	45.1	19.6	41.2	12.4	43.8	17.6	30.1	11.1	3.9	1.3
	小5	187	49.7	13.4	46.5	10.2	42.8	10.2	28.3	6.4	0.5	1.6
	小6	250	44.0	12.0	41.6	9.6	31.6	11.2	25.2	9.6	5.6	1.6

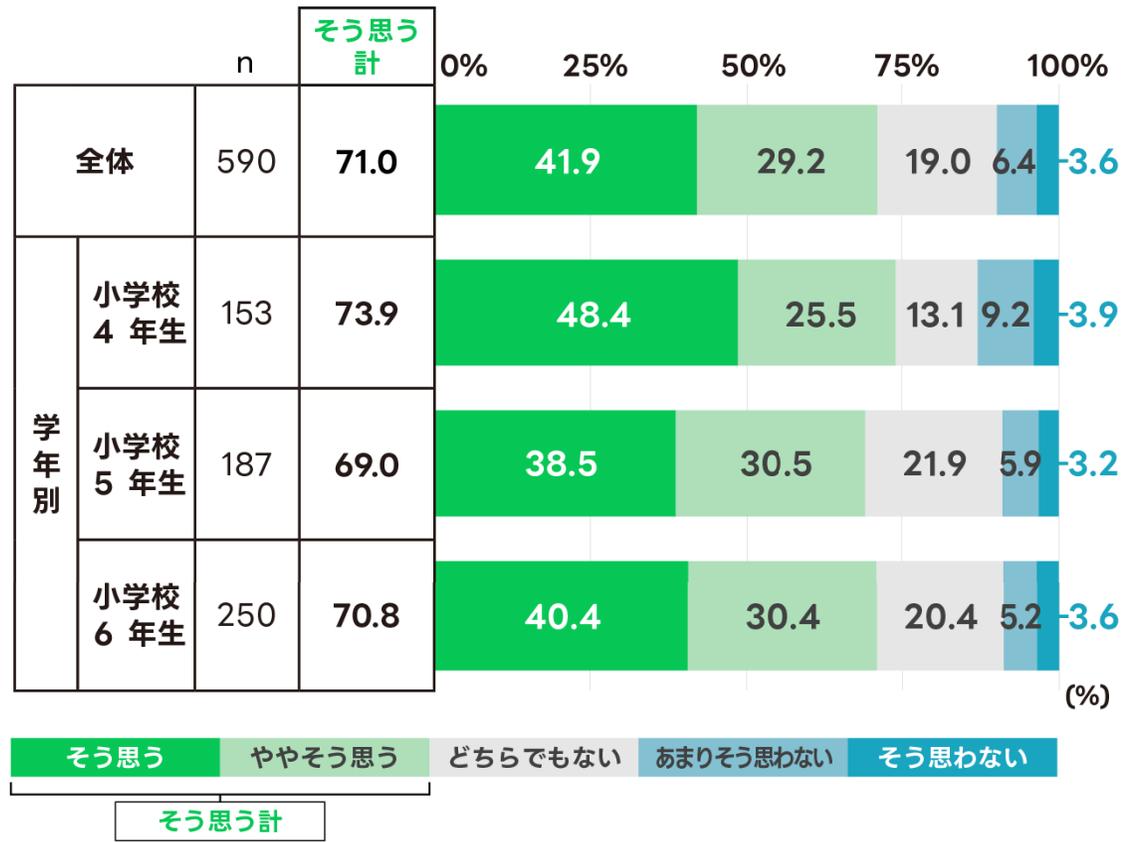
※全体スコアでソート ※授業内容は、p7「使用教材『GIGA ワークブック』スタンダード（小学校4年生～6年生）授業の構成」参照

- 「今回の『気づき』をお家の保護者にも知ってほしいと思った」は、全体で「そう思う計」が71.0%。
- 「ネット（チャット・SNSなど）でのコミュニケーションのトラブルは自分にも起こることなのかもしれないと思った」は、全体で「そう思う計」が83.1%。

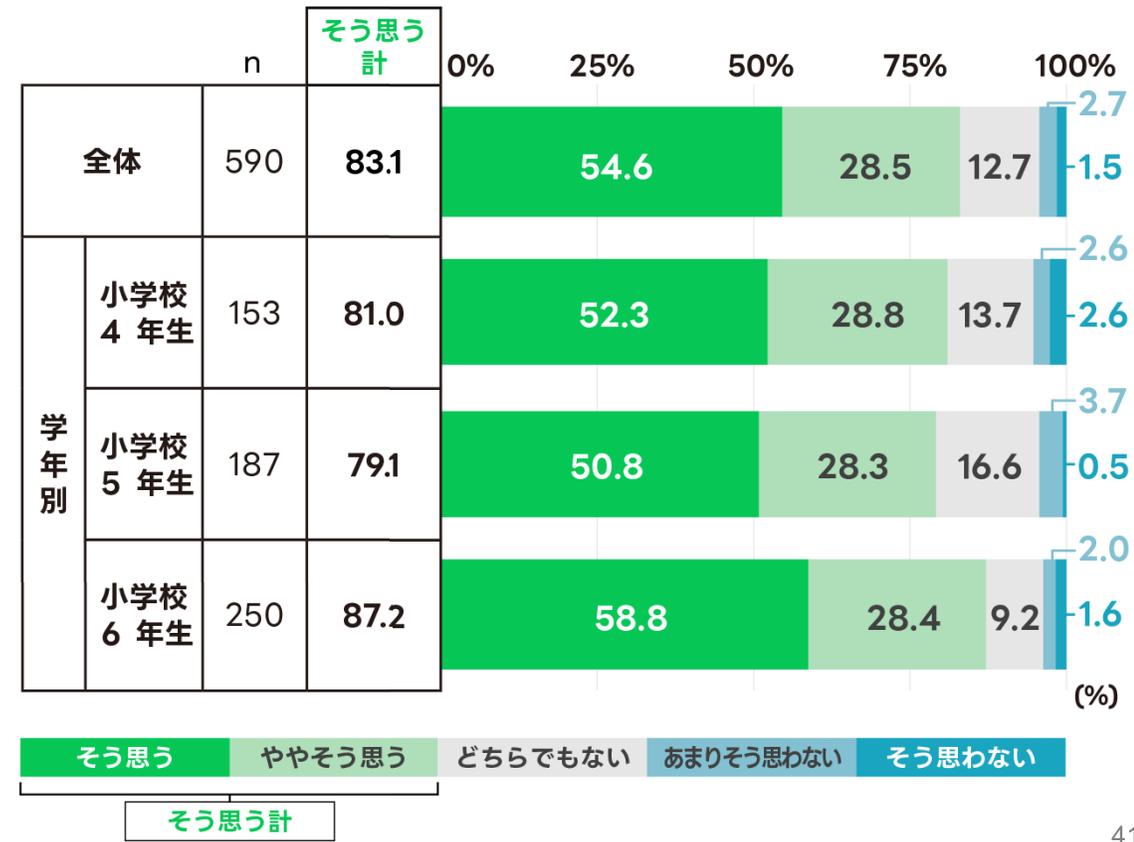
問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。
 ▶ 今回の「気づき」をお家の保護者にも知ってほしいと思った。

問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。
 ▶ ネット（チャット・SNSなど）でのコミュニケーションのトラブルは自分にも起こることなのかもしれないと思った。

今回の気づきを、保護者にも知ってほしいと思った



ネットのトラブルは自分にも起こるかもしれないと思った

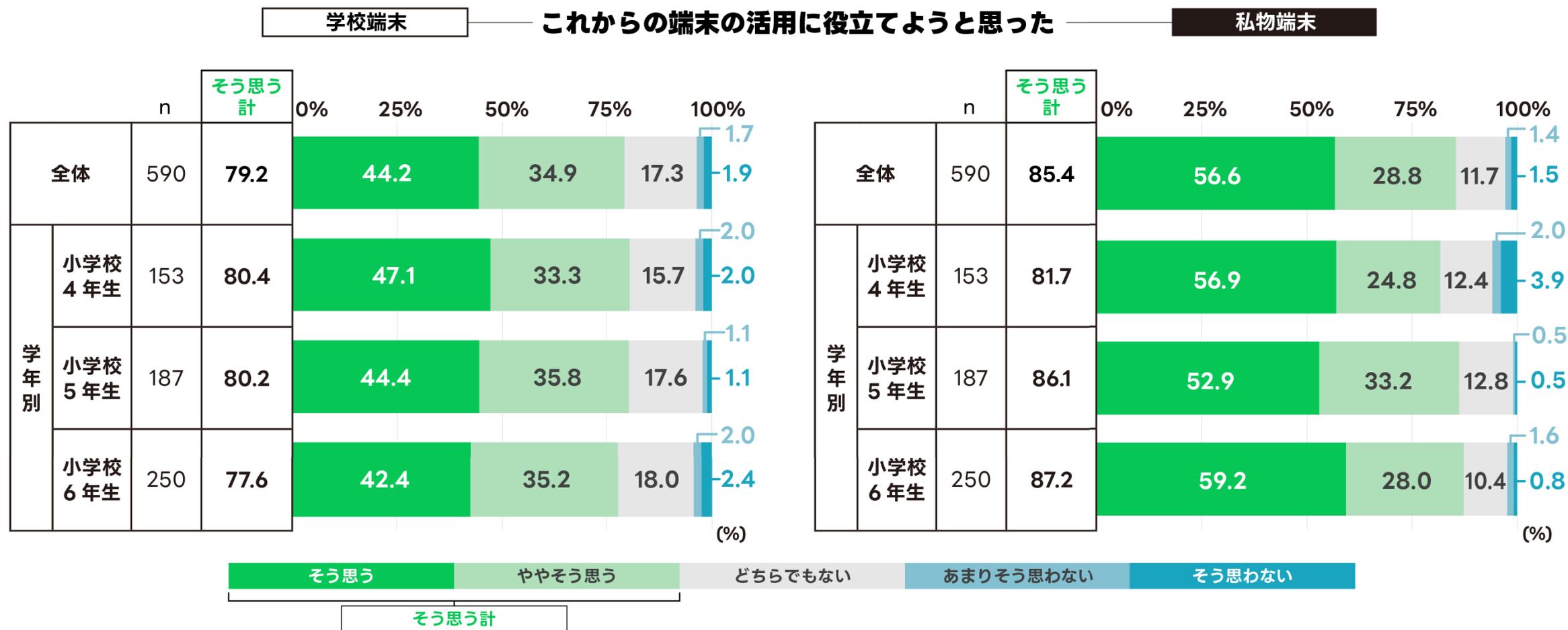


授業後に感じたこと②（端末の活用に役立てたい）

スタンダード

- 「今回の授業内容を、これからの端末の活用に役立てようと思った」は、全体の「そう思う計」が「学校端末」で79.2%、「私物端末」で85.4%となり、私物端末への効果がやや高い。

問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。 ▶ 今回の授業内容を、これからの端末の活用に役立てようと思った。



- 「ネット（チャット・SNSなど）で上手くコミュニケーションをするためのヒントになった」は、全体で「そう思う計」が89.5%と授業後に感じたことの項目別で最多。
- 「ネット（チャット・SNSなど）でのコミュニケーションのトラブルへの対応・解決のヒントになった」は、全体で83.1%。

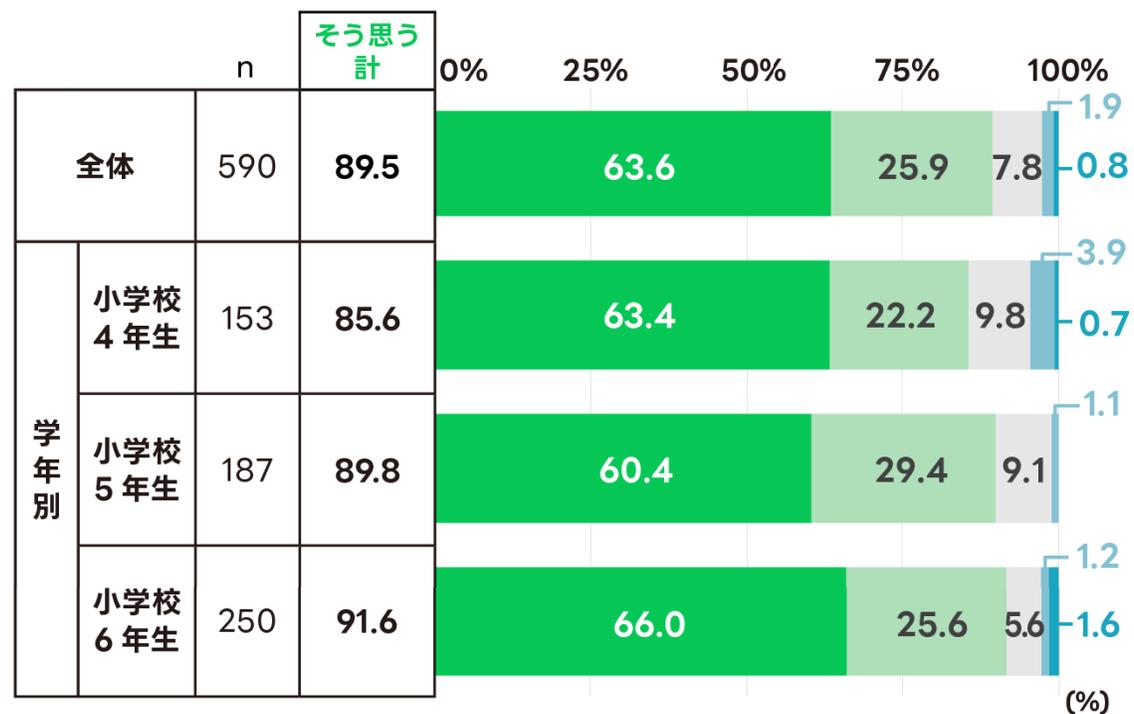
問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。

▶ ネット（チャット・SNSなど）で上手くコミュニケーションをするためのヒントになった。

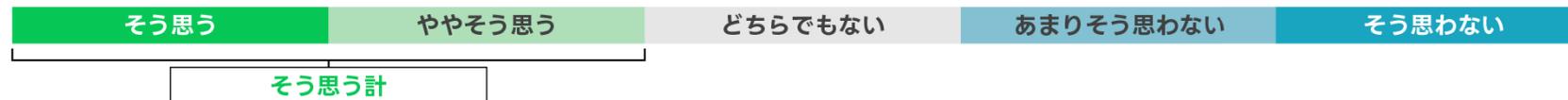
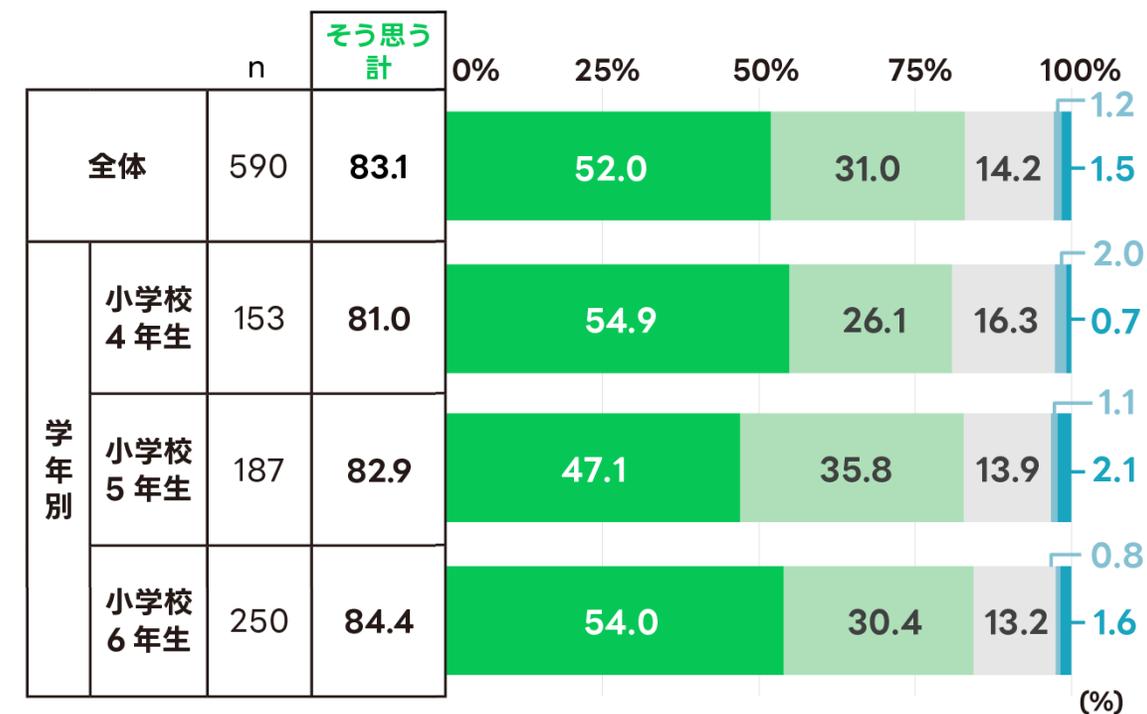
問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。

▶ ネット（チャット・SNSなど）でのコミュニケーションのトラブルへの対応・解決のヒントになった。

ネットで上手くコミュニケーションをするためのヒントになった



ネットでのコミュニケーション・トラブルへの対応のヒントになった



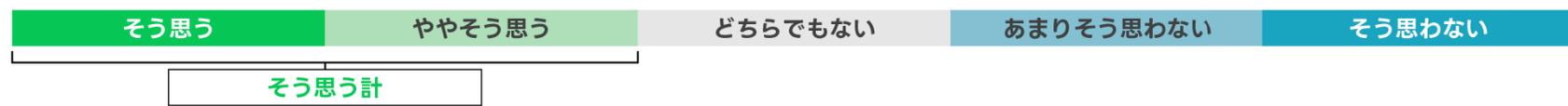
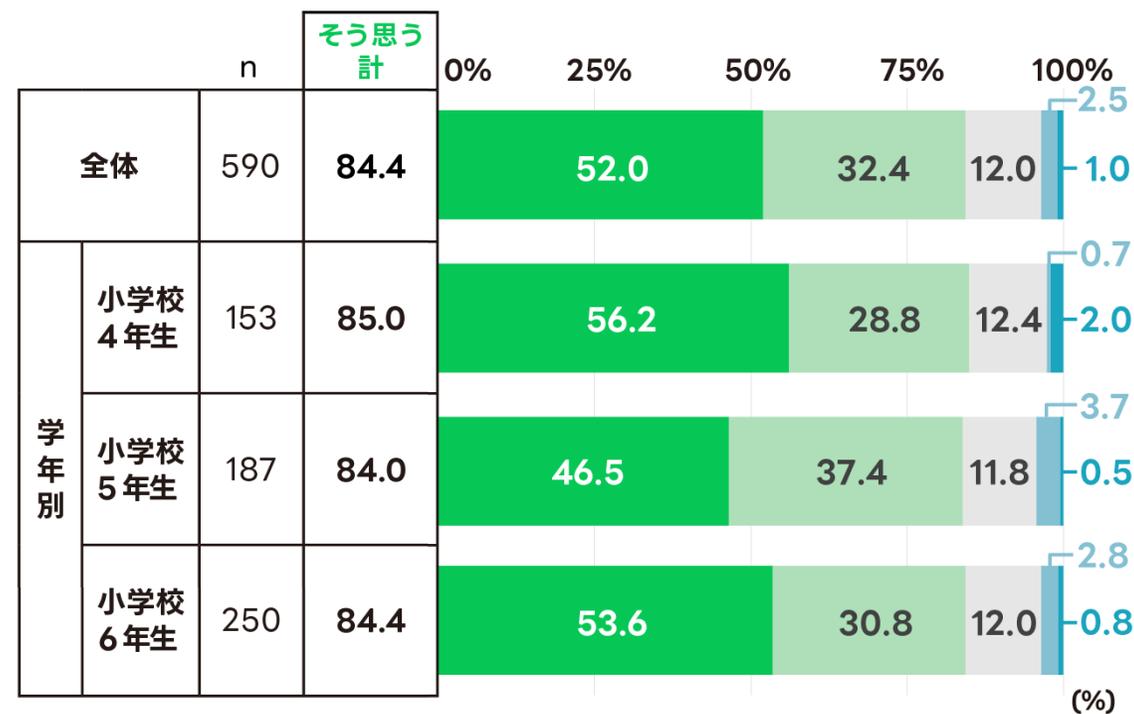
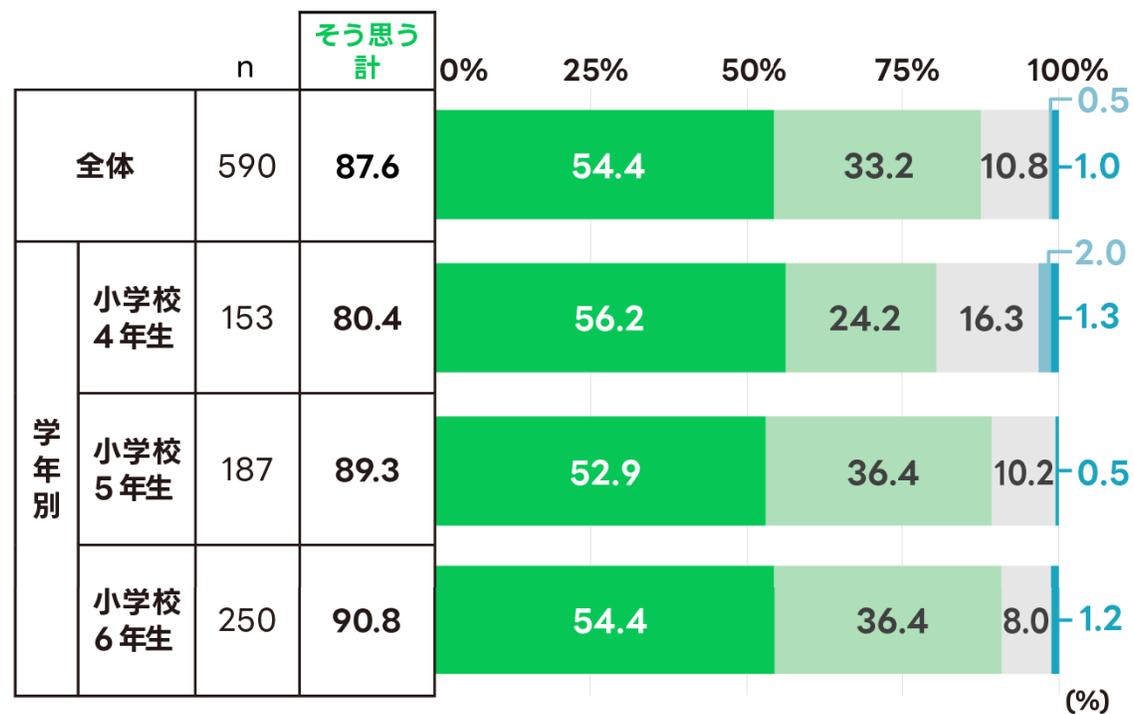
- 「『チャット・SNS』を活用したコミュニケーション方法への理解が深まった」は、全体で「そう思う計」が87.6%。
- 「ネット（チャット・SNSなど）でのコミュニケーションをより安全に楽しくしていけると思った」は、全体で84.4%。

問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。
 ▶ 「チャット・SNS」を活用したコミュニケーション方法への理解が深まった。

問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ あなたの気持ちに近いものを選んでください。
 ▶ ネット（チャット・SNSなど）でのコミュニケーションをより安全に楽しくしていけると思った。

チャット・SNS を活用したコミュニケーション方法への理解が深まった

ネットでのコミュニケーションを安全に楽しめると思った

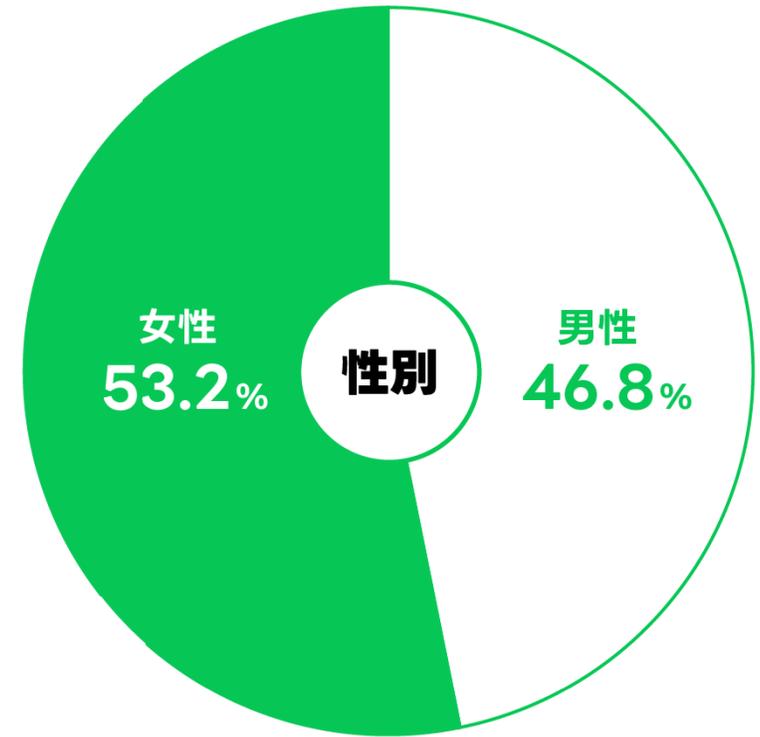
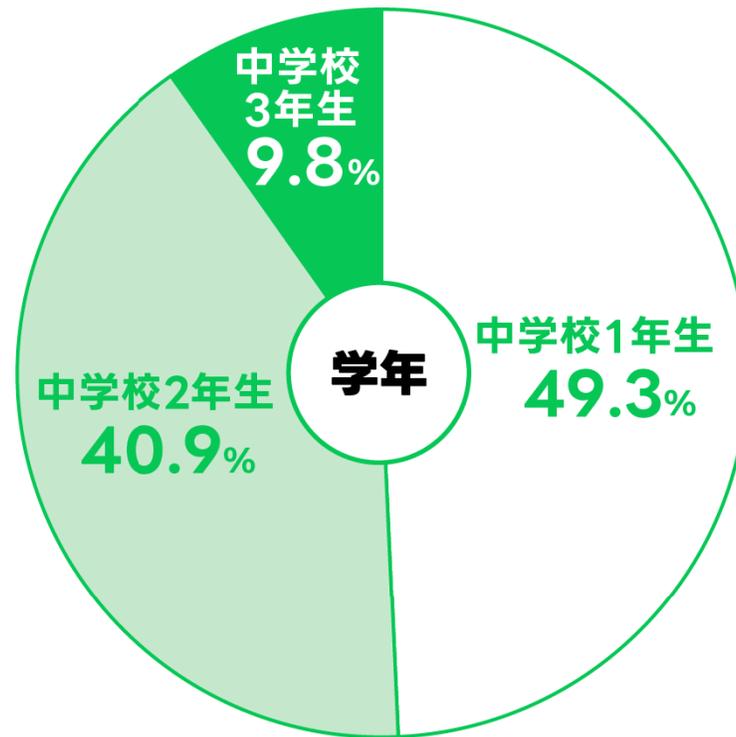


第2部 「GIGAワークブック」 アドバンスド

「GIGAワークブック」アドバンスドを使用した授業前後での意識変化の調査

調査対象：中学校1年生～3年生

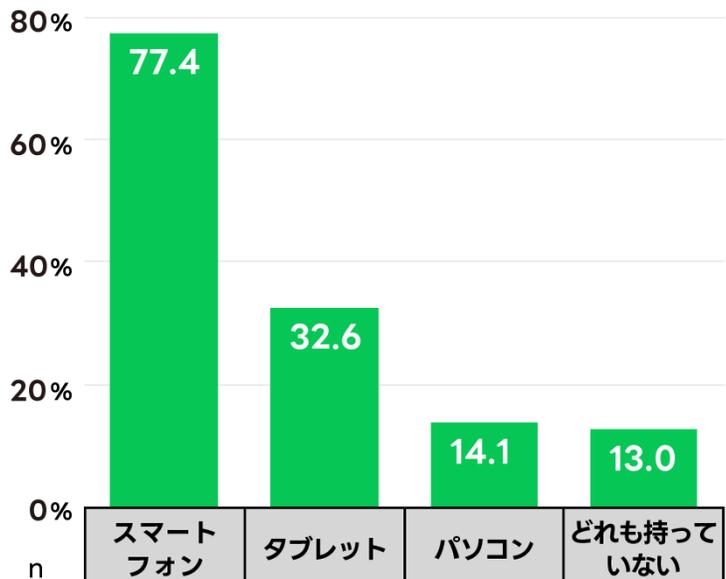
中学校1年生	242
中学校2年生	201
中学校3年生	48
合計	491



- ・中学生のスマートフォンの所有率は77.4%であり、8割近くが所有している。
- ・端末利用のルールは、42.6%が「ルールはない」と回答。ルールの中では「利用時間帯のルールがある」が32.6%で最も設けられているルールとなる。

問：あなたが持っている自分の端末（私物端末）を選んでください。（複数選択可）

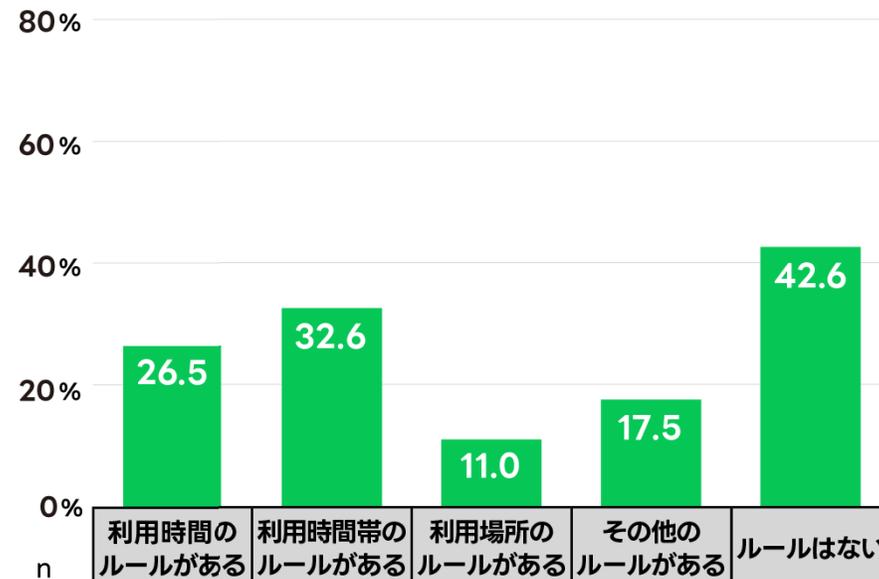
所有している私物端末



		n	スマートフォン	タブレット	パソコン	どれも持っていない
全体		491	77.4	32.6	14.1	13.0
学年別	中学校 1 年生	242	80.2	29.3	12.0	12.8
	中学校 2 年生	201	76.1	36.8	14.4	13.4
	中学校 3 年生	48	68.8	31.3	22.9	12.5

問：私物端末（スマホ・タブレット・パソコン）の利用について、家庭でのルールはありますか？（複数選択可）

端末利用ルールの有無

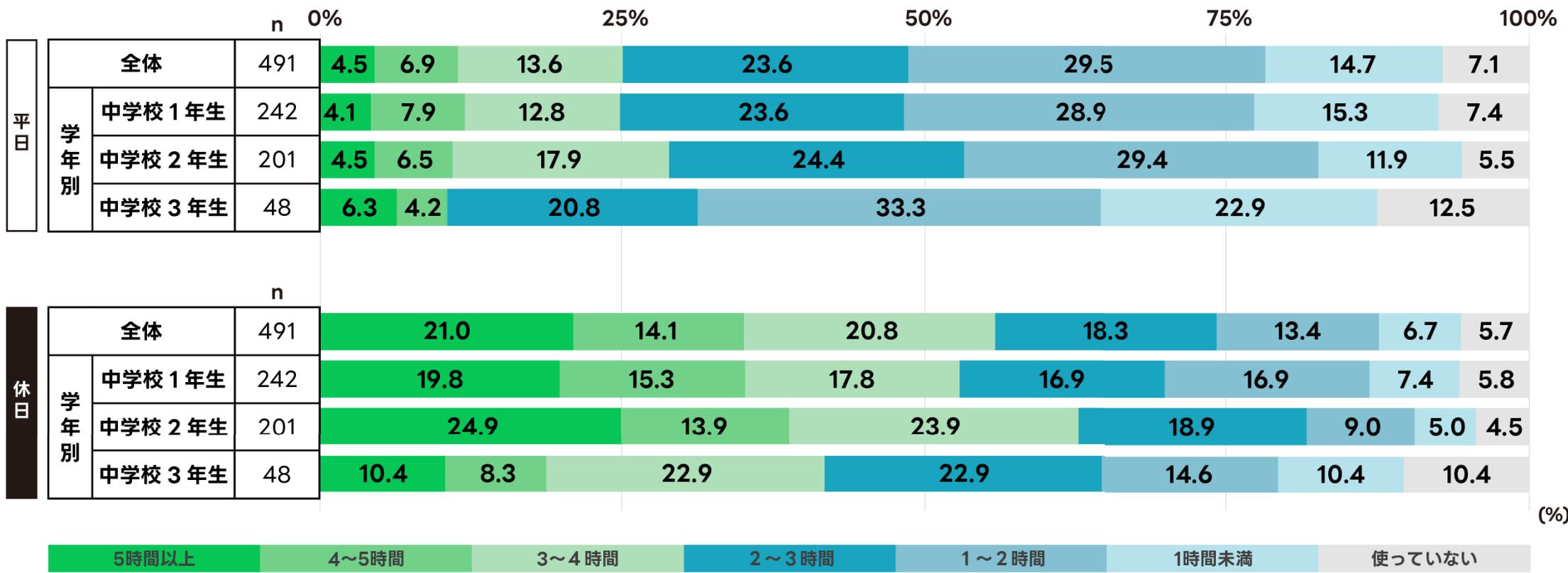


		n	利用時間のルールがある	利用時間帯のルールがある	利用場所のルールがある	その他のルールがある	ルールはない
全体		491	26.5	32.6	11.0	17.5	42.6
学年別	中学校 1 年生	242	30.2	37.2	11.2	17.8	37.2
	中学校 2 年生	201	23.9	25.4	9.5	16.9	49.3
	中学校 3 年生	48	18.8	39.6	16.7	18.8	41.7

- 私物端末の利用時間は、平日は「1～2時間未満」の29.5%、休日は「5時間以上」の21.0%が最も割合の高い使用時間となる。

問：私物の端末（スマホ・タブレット・パソコン）を使う「時間」は、1日平均すると、どれくらいですか？ 平日と休日ごとにお答えください。

私物端末の利用時間

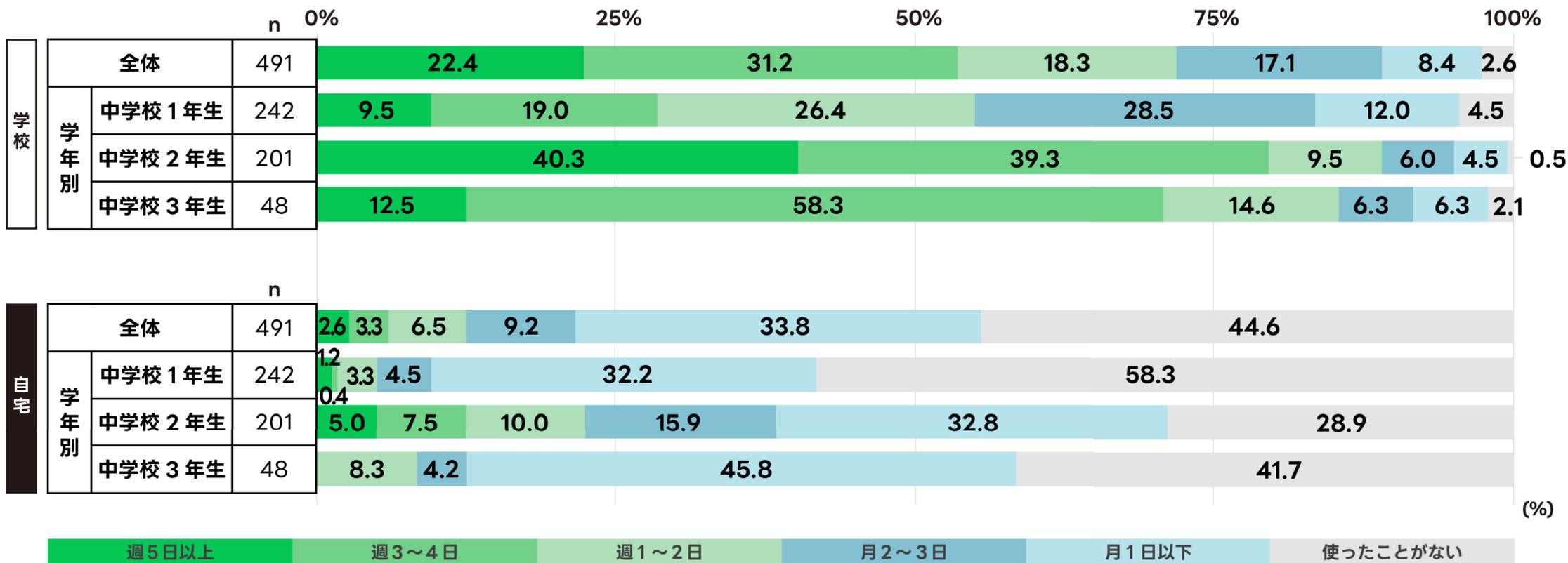


(%)

- 学校端末の学校での利用頻度は「週3~4日」が最も割合が高く31.2%となる。「使ったことがない」人は2.6%で97%以上の人学校端末の利用経験がある。
- 学校端末の自宅での利用頻度は「月に1日以下」が33.8%、「使ったことがない」が44.6%となり、8割近くは自宅で使用していない。

問：学校端末（GIGAスクール端末）を学習のためにどれくらい使っていますか？ 学校と自宅ごとにお答えください。

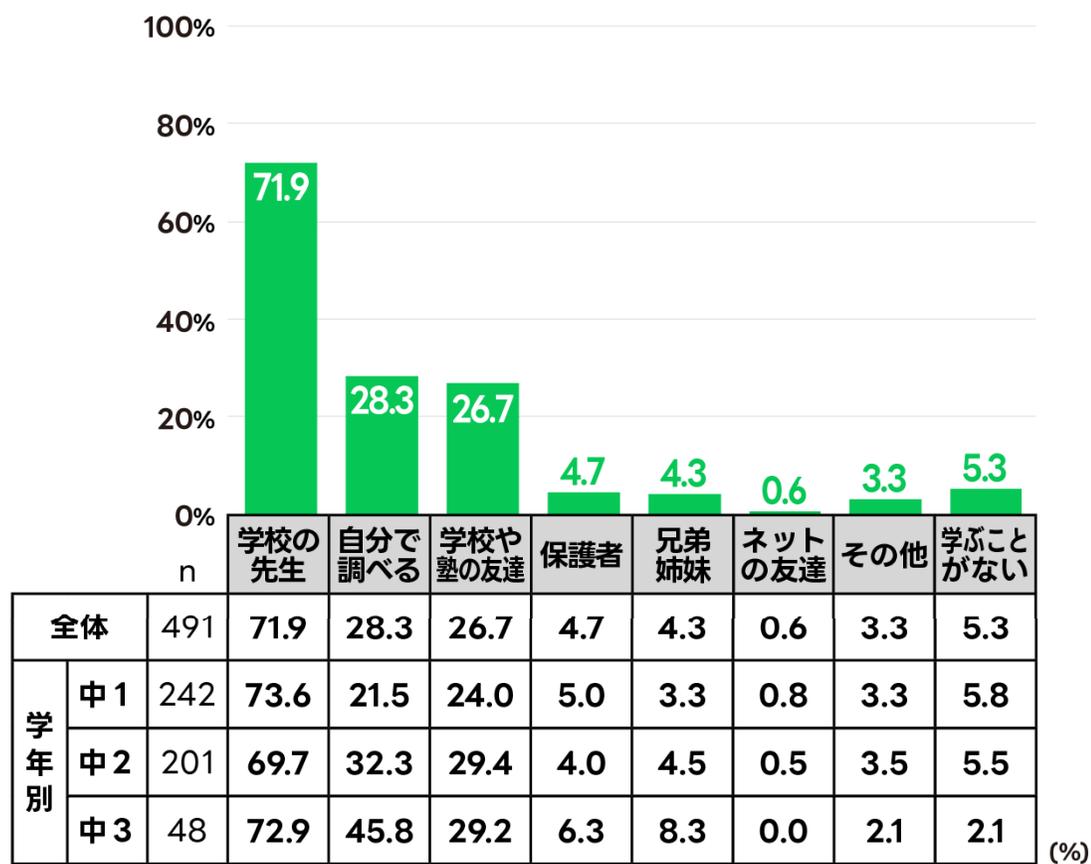
学校端末の利用頻度



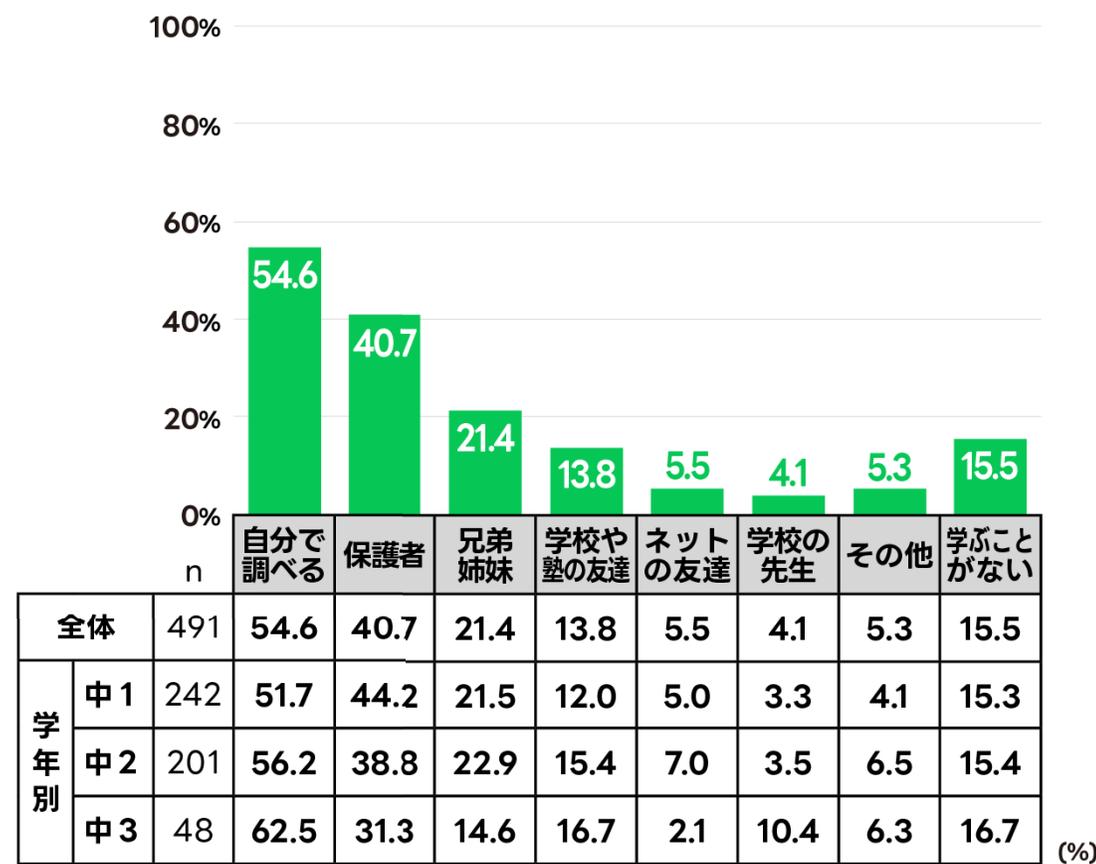
・ 学習活用についての学習先は、学校端末は「学校の先生」71.9%、私物端末は「自分で調べる」54.6%が最も主な学習先。

問：端末（スマホ・タブレット・パソコン）を学習に活用する方法について、だれから学ぶことが多いですか？（複数選択可）

学校端末 学習活用で誰から学ぶことが多いか 私物端末



※全体スコアでソート ※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達 (%)

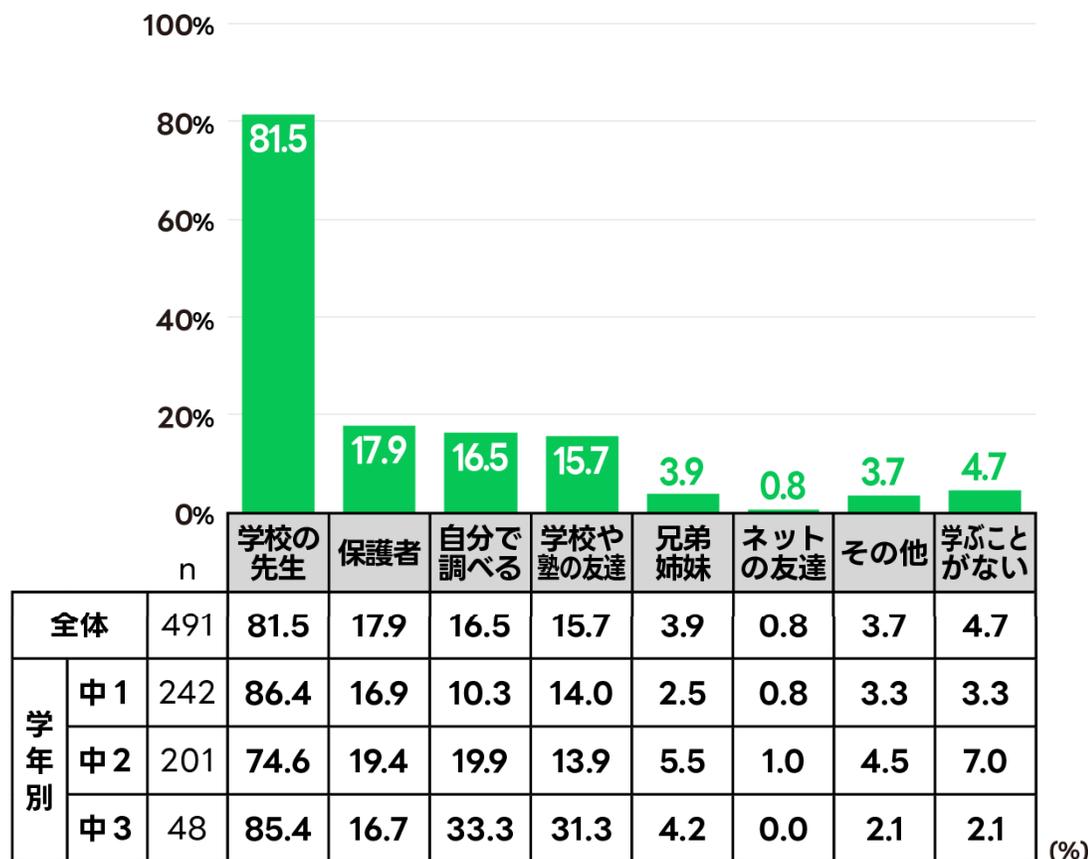


※全体スコアでソート ※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達 (%)

・ネットのトラブルについての学習先は、学校端末は「学校の先生」81.5%、私物端末は「保護者」61.9%が最も割合が高くなる。

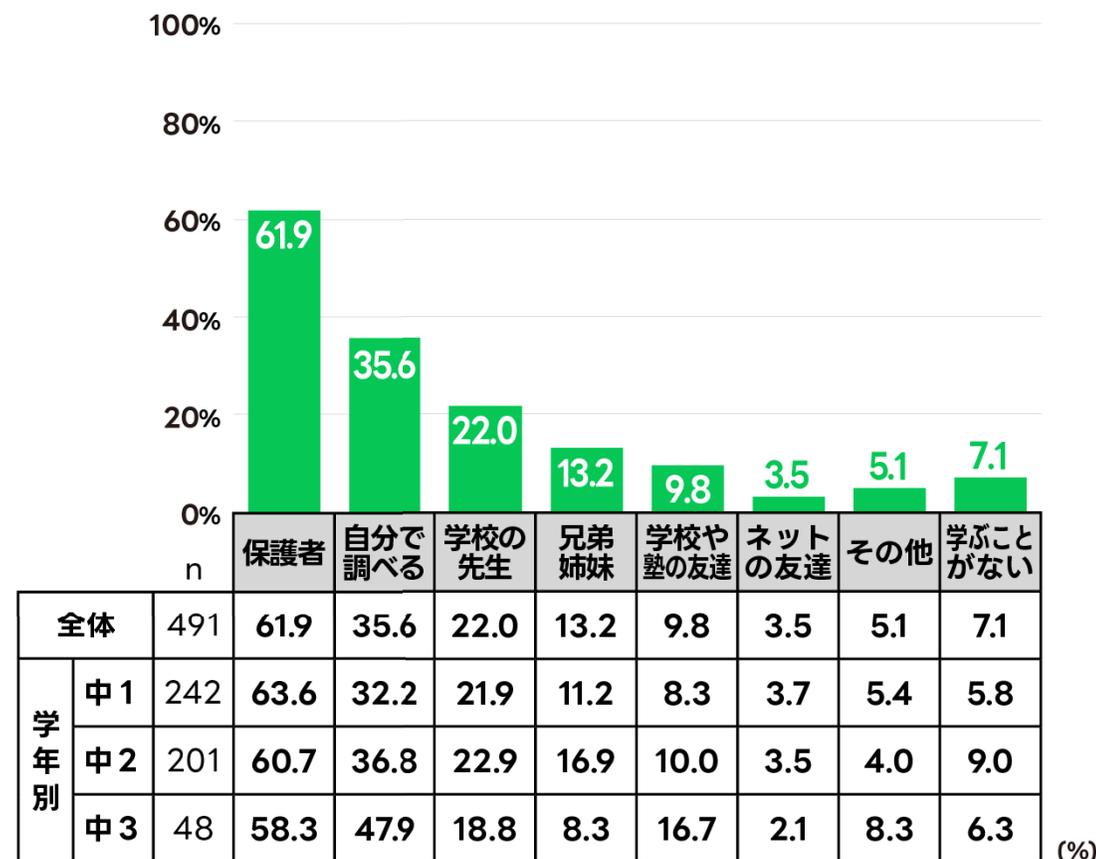
問：ネットのトラブルが起きた場合どう対応すればよいか、だれから学ぶことが多いですか？（複数選択可）

学校端末 — ネットのトラブルが起きたとき誰から学ぶことが多いか — 私物端末



※全体スコアでソート

※ネットの友達：SNS などネット上で知り合った友達

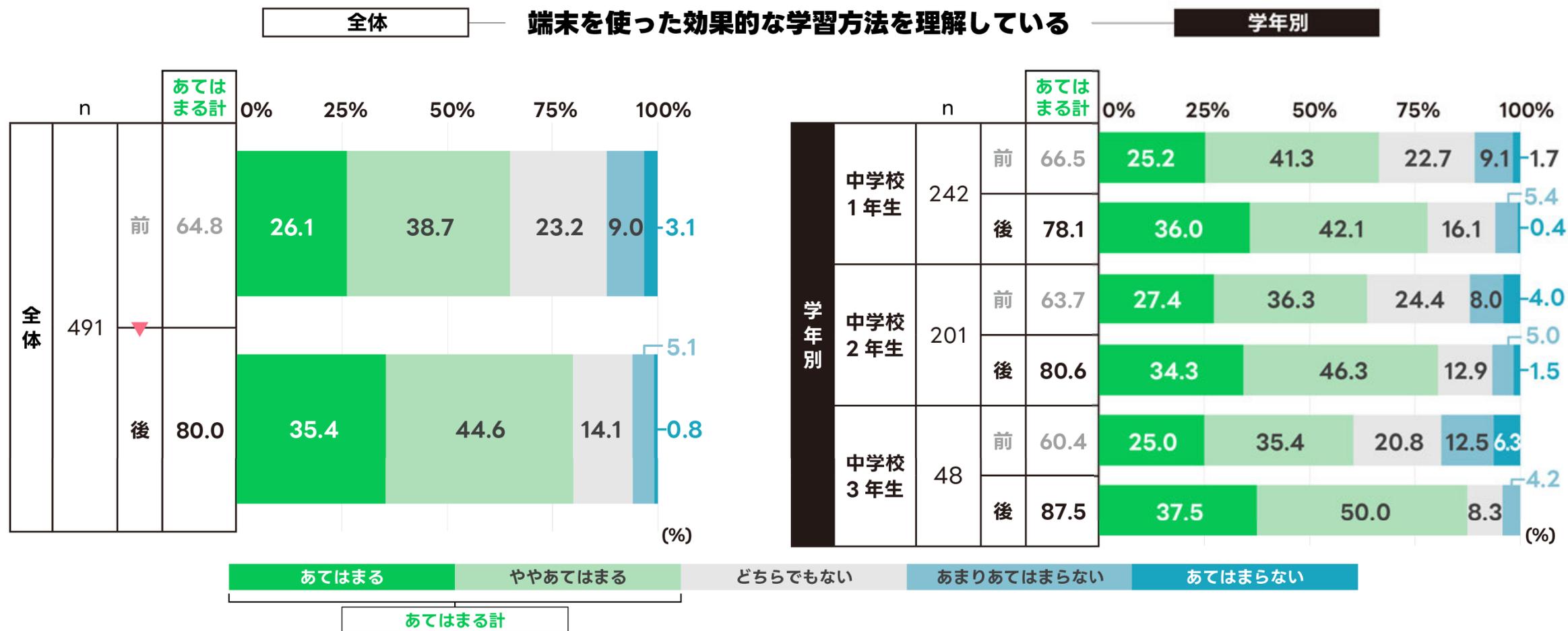


※全体スコアでソート

※ネットの友達：SNS などネット上で知り合った友達

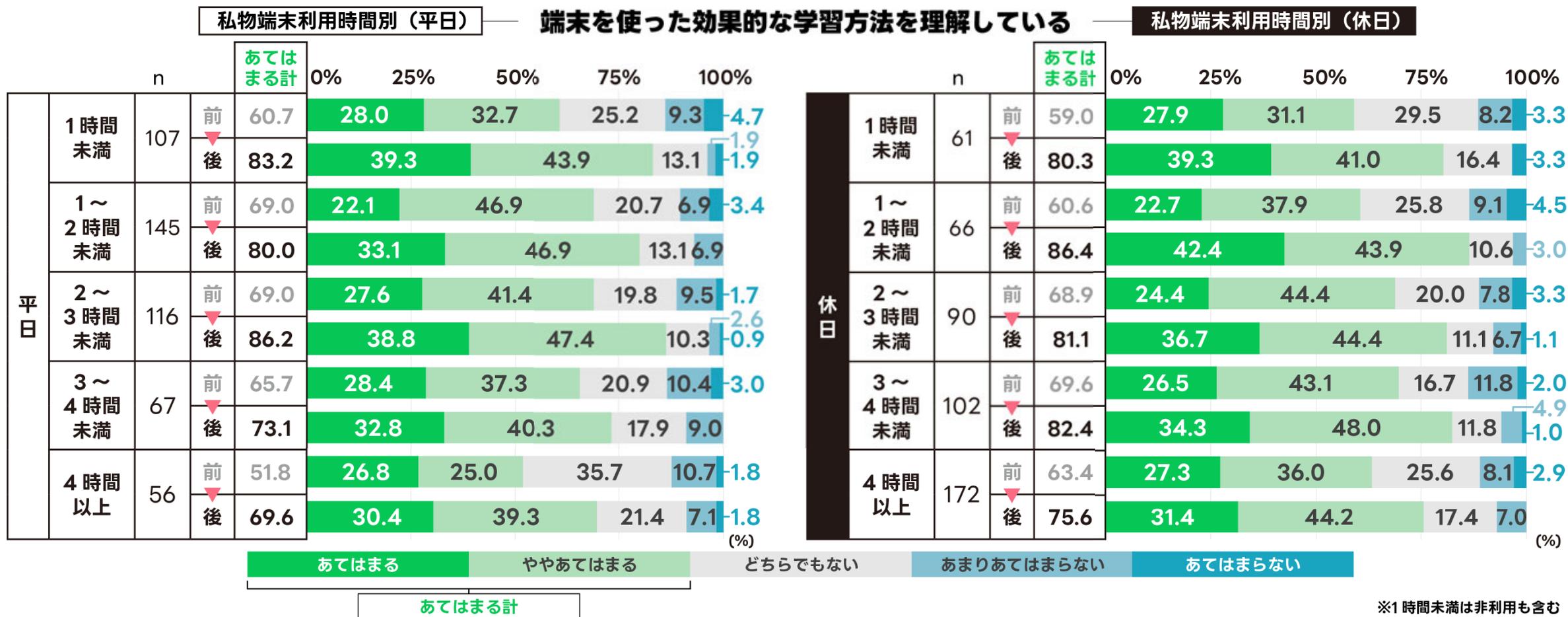
- 「端末を使った効果的な学習方法について、理解している」は、「あてはまる計」が授業前64.8%、授業後80.0%となり、授業を経て約15%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を使った効果的な学習方法について、理解している。



- 「端末を使った効果的な学習方法について、理解している」を私物端末利用時間別に見ると、平日は「1時間未満」で60.7%から83.2%へと約22%の上昇、休日は「1～2時間未満」で60.6%から86.4%へと約26%上昇と変化が大きい。
- いずれも授業後の「あてはまる計」は上昇しており、平日・休日、利用時間に関わらず、効果が認められる。

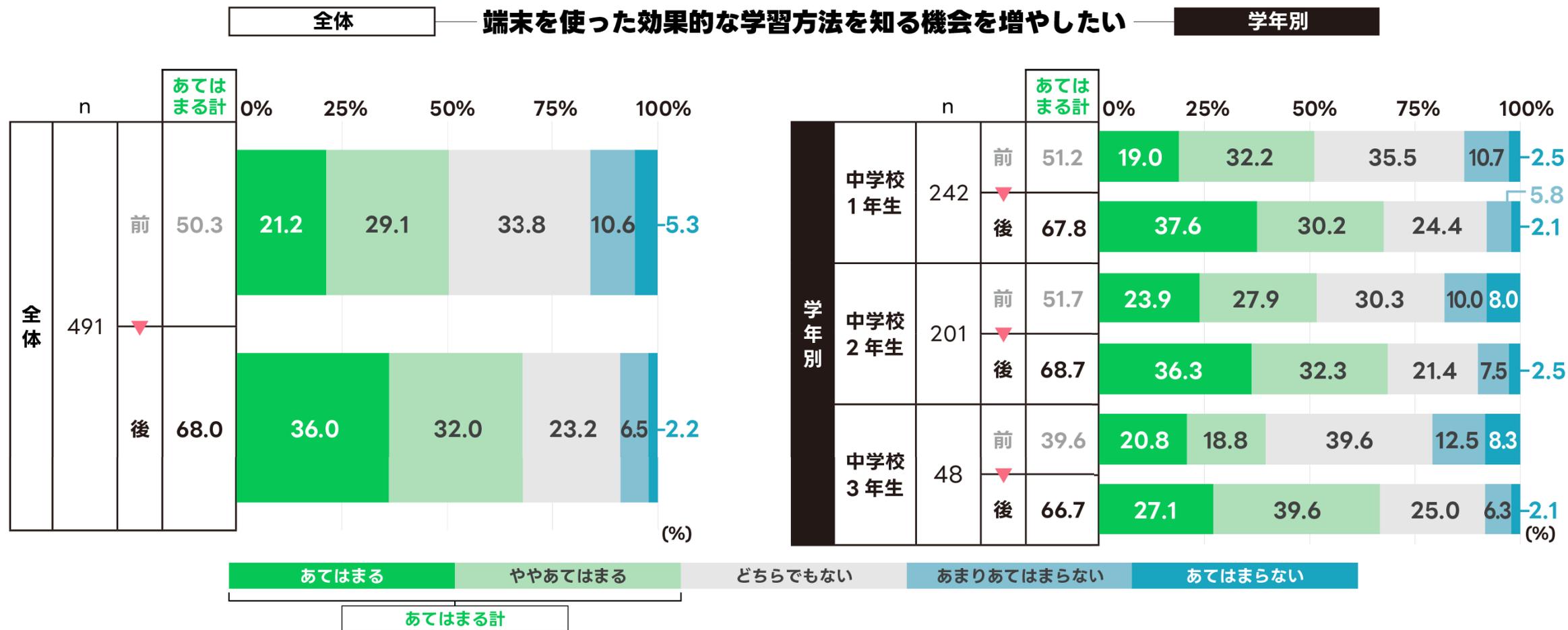
問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を使った効果的な学習方法について、理解している。



※1時間未満は非利用も含む

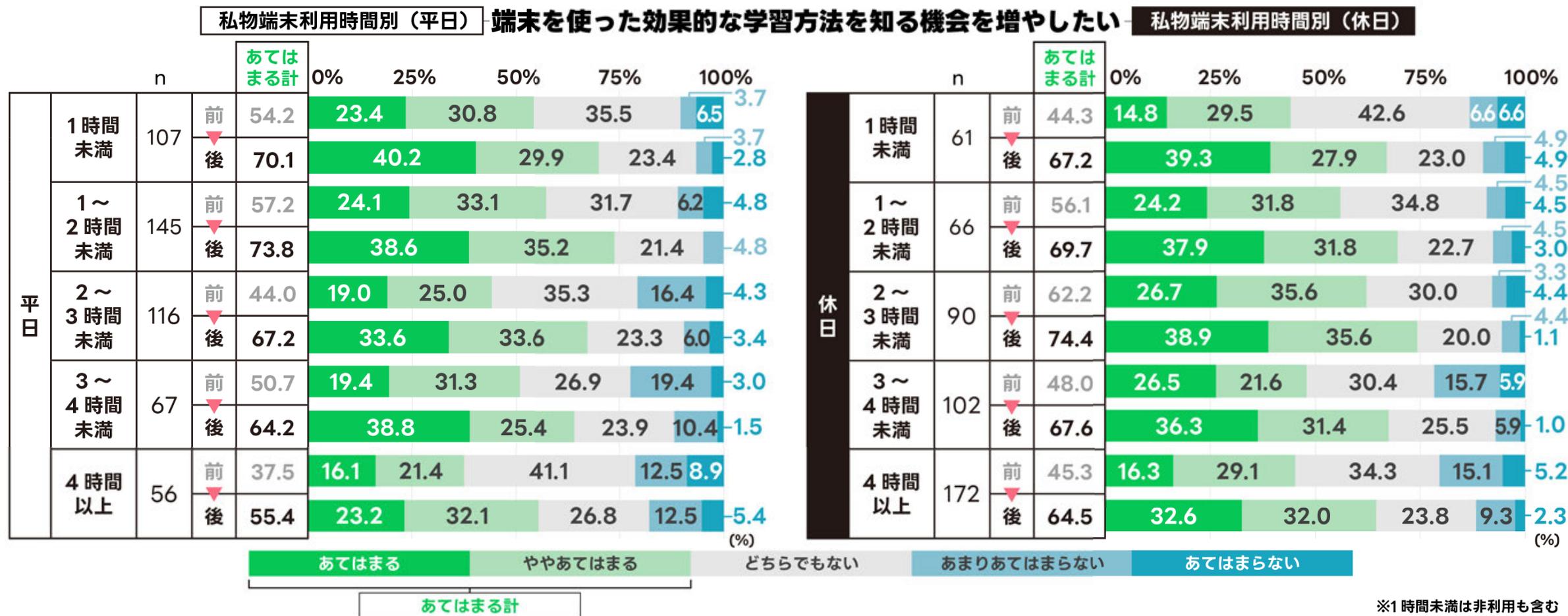
- 「端末を使った効果的な学習方法について、知る機会を積極的に増やしたい」は「あてはまる計」が授業前50.3%、授業後68.0%と、約18%の上昇となった。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を使った効果的な学習方法について、知る機会を積極的に増やしたい。



- 「端末を使った効果的な学習方法について、知る機会を積極的に増やしたい」を私物端末利用時間別に見ると、平日は「2～3時間未満」で44.0%から67.2%へと約23%の上昇、休日は「1時間未満」で44.3%から67.2%へと約23%上昇と変化が大きい。
- いずれも授業後の「あてはまる計」は12%以上上昇しており、平日・休日、利用時間に関わらず、効果が認められる。

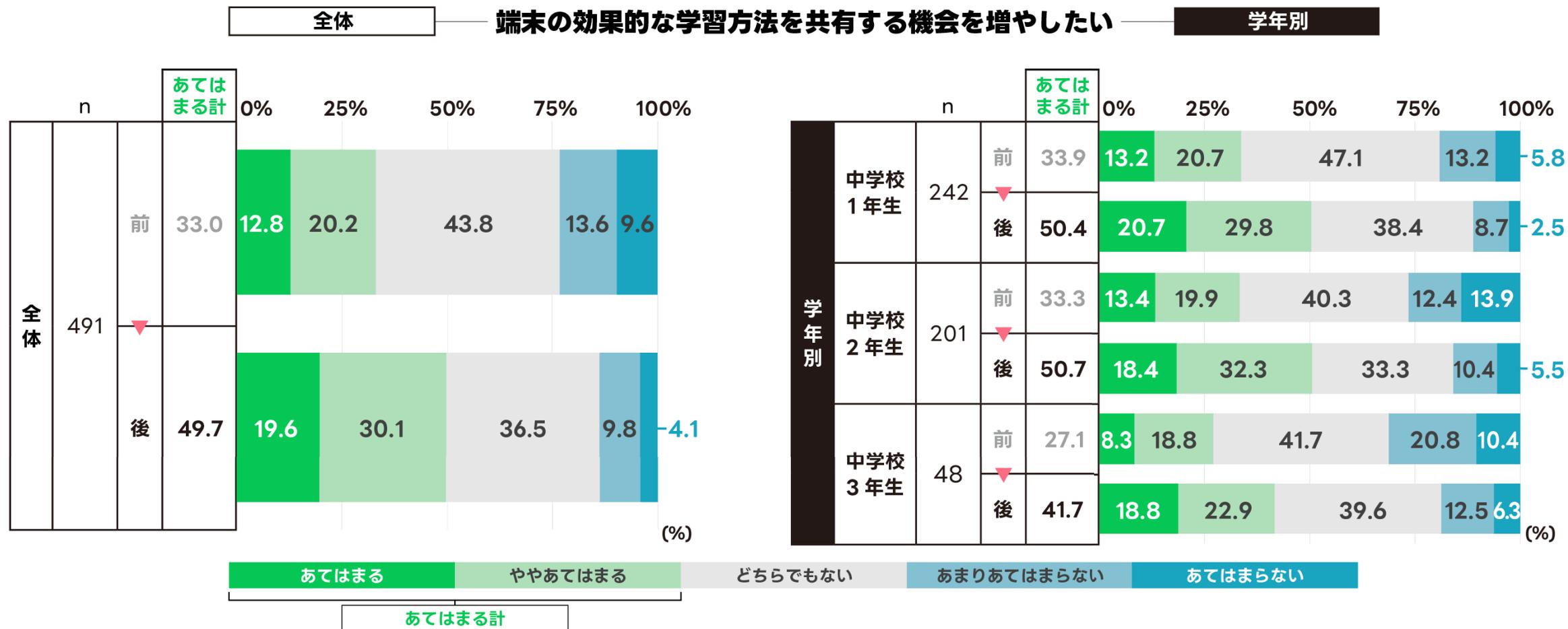
問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を使った効果的な学習方法について、知る機会を積極的に増やしたい。



※1時間未満は非利用も含む

- 「端末を使った効果的な学習方法について、誰かに共有する機会を増やしたい」は「あてはまる計」が授業前33.0%、授業後49.7%と、約17%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を使った効果的な学習方法について、誰かに共有する機会を増やしたい。



端末の効果的な学習方法を共有する機会を増やしたい②

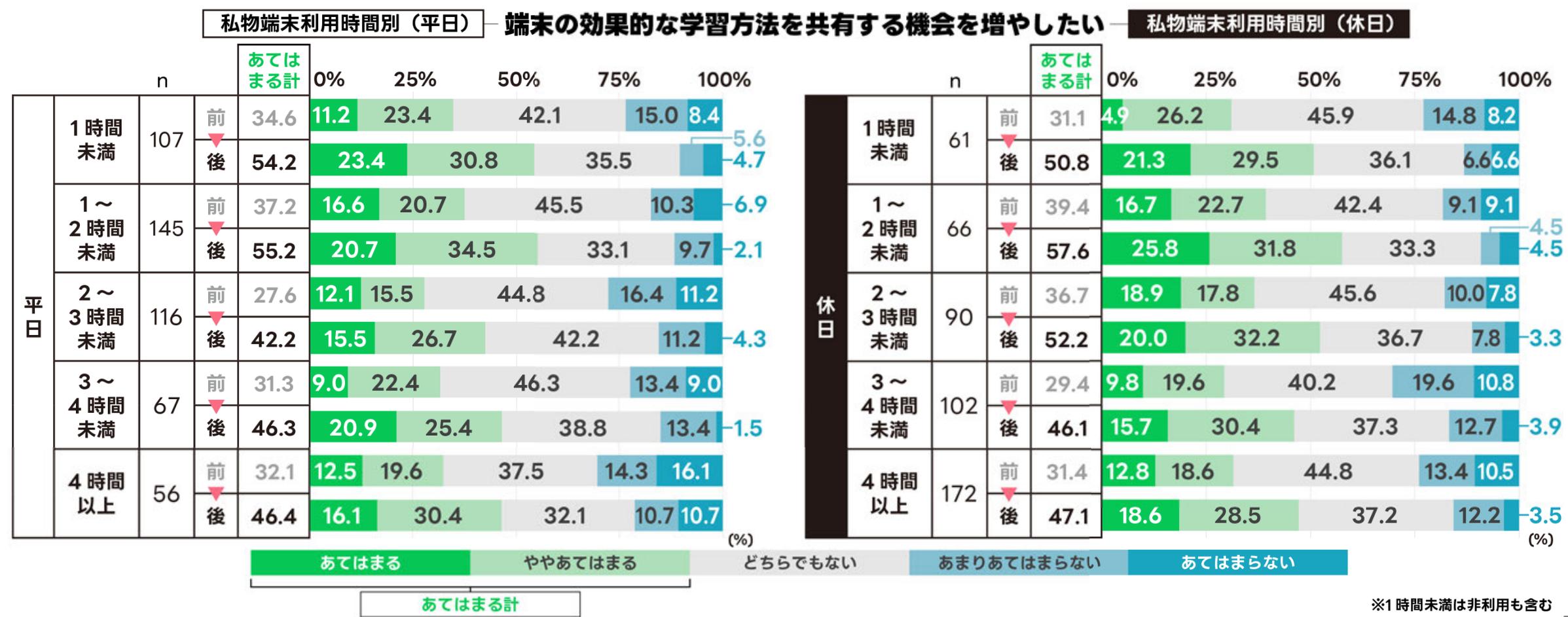
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を使った効果的な学習方法について、誰かに共有する機会を増やしたい」を私物端末利用時間別に見ると、平日・休日ともに「1時間未満」の変化が大きく、平日は授業前34.6%から授業後54.2%へ約20%、休日は31.1%から50.8%へと約20%の上昇。
- いずれも授業後の「あてはまる計」は14%以上上昇しており、平日・休日、利用時間に関わらず、効果が認められる。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を使った効果的な学習方法について、誰かに共有する機会を増やしたい。



※1時間未満は非利用も含む

学習にかかる時間を考えてからとりかかりたい①

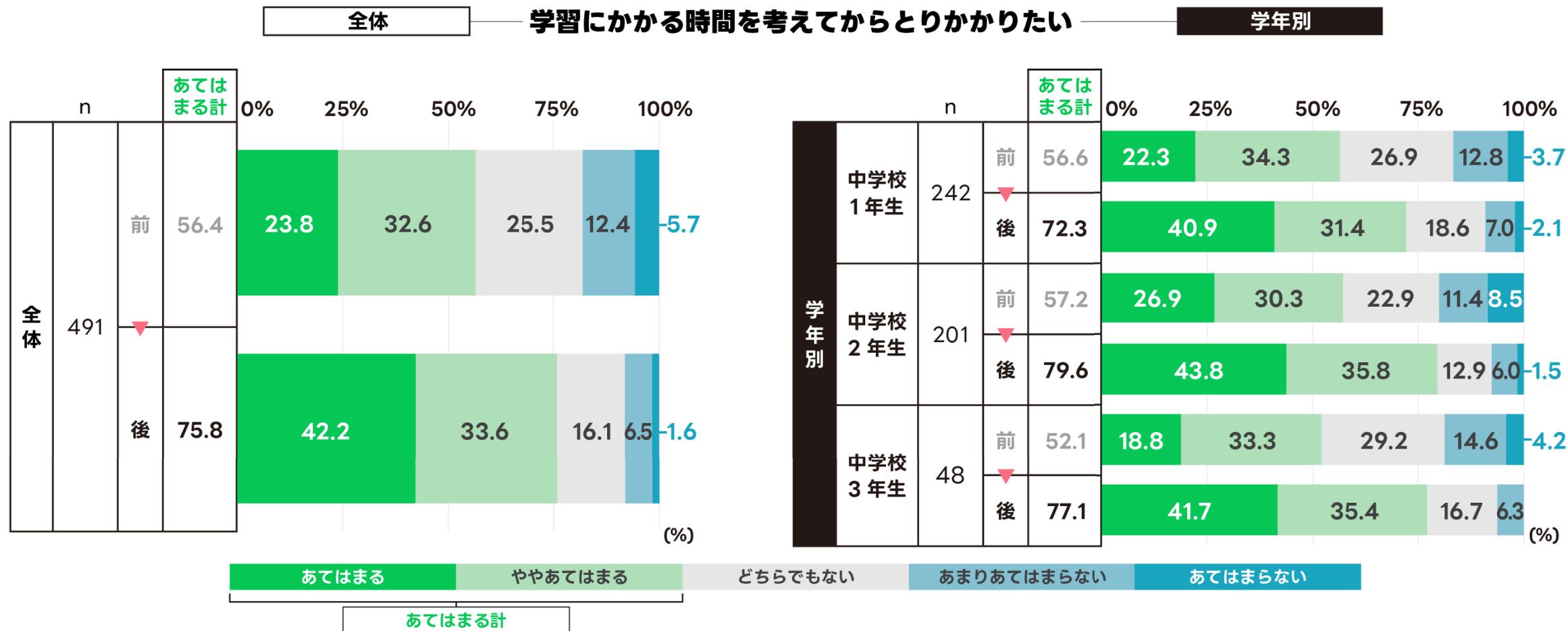
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「学習をするとき、どれくらい時間がかかるか考えてからとりかかりたいと思う」は「あてはまる計」が授業前56.4%、授業後75.8%と、約19%の上昇。

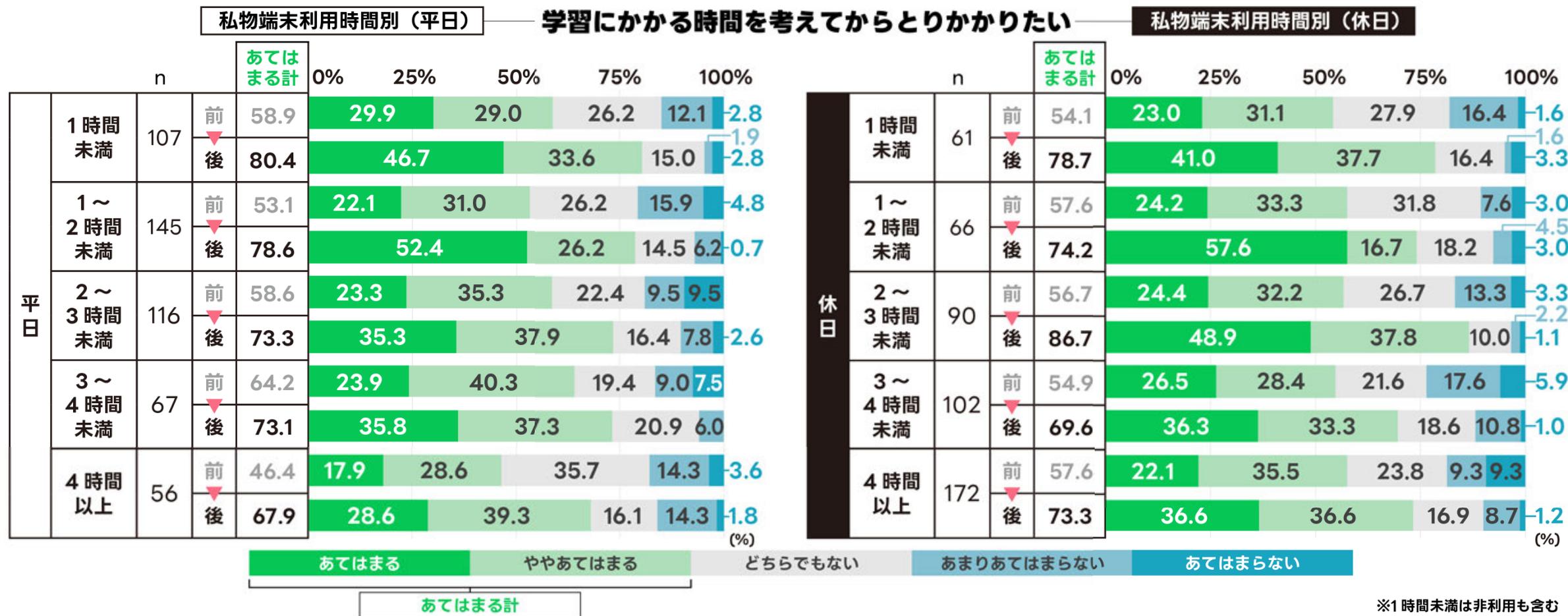
問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 学習をするとき、どれくらい時間がかかるか考えてからとりかかりたいと思う。



学習にかかる時間を考えてからとりかかりたい②

- 「学習をするとき、どれくらい時間がかかるか考えてからとりかかりたいと思う」を私物端末利用時間別に見ると、平日は「1～2時間未満」の変化が大きく53.1%から78.6%へと約26%の上昇、休日は「2～3時間未満」が56.7%から86.7%へと30%の上昇で最大。
- いずれも授業後の「あてはまる計」は上昇しており、平日・休日、利用時間に関わらず、効果が認められる。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 学習をするとき、どれくらい時間がかかるか考えてからとりかかりたいと思う。



※1時間未満は非利用も含む

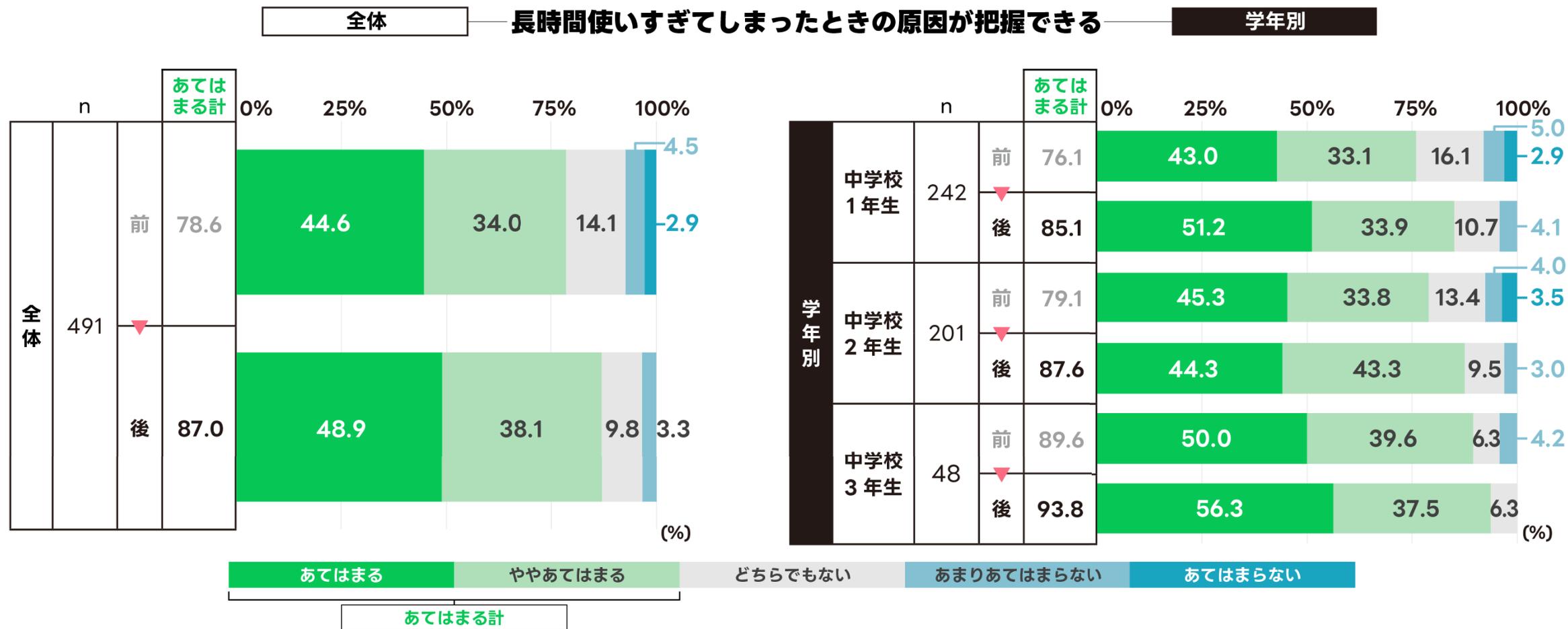
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を長時間使いすぎてしまったときの原因が把握できる」は「あてはまる計」が授業前78.6%、授業後87.0%と、約8%の上昇。もともと「あてはまる計」のスコアが高く、他の項目に比べると上昇幅は控えめ。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を長時間使いすぎてしまったときの原因が把握できる。



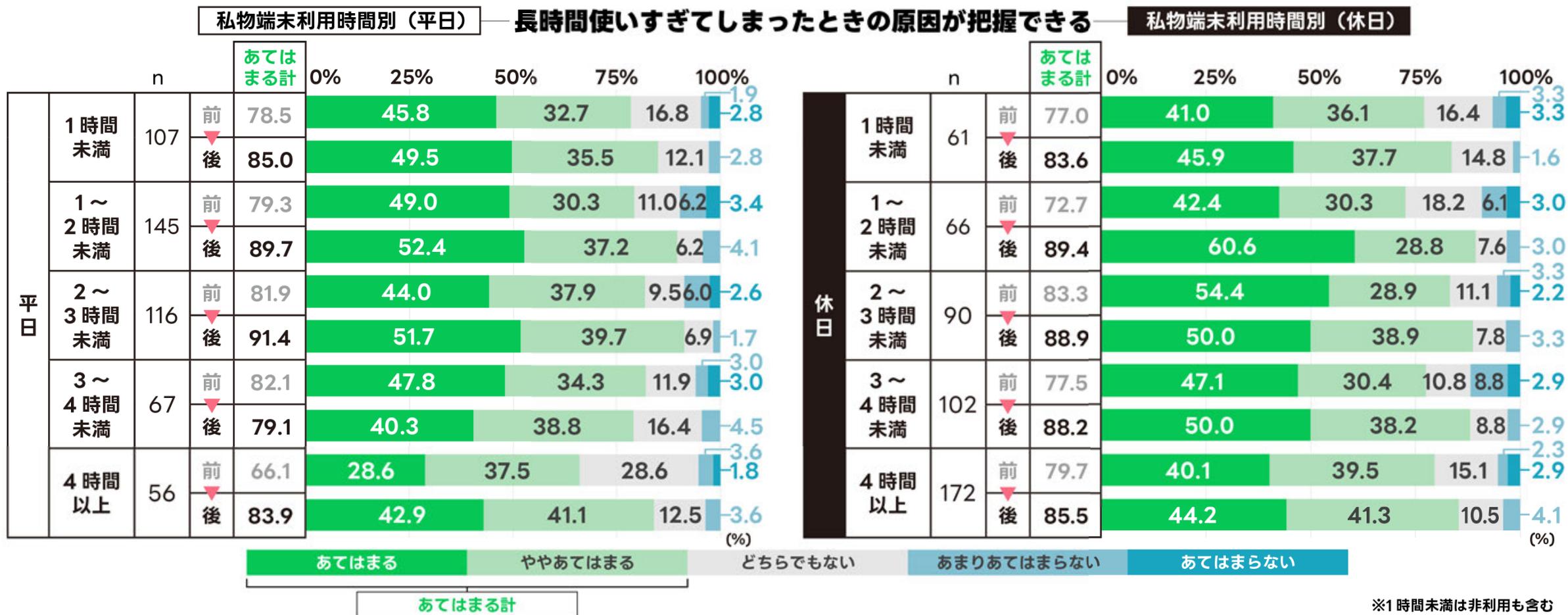
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を長時間使いすぎたときの原因が把握できる」を私物端末利用時間別に見ると、平日は「4時間以上」で66.1%から83.9%へ約18%の上昇、休日は「1～2時間未満」が72.7%から89.4%へと約17%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を長時間使いすぎたときの原因が把握できる。



※1時間未満は非利用も含む

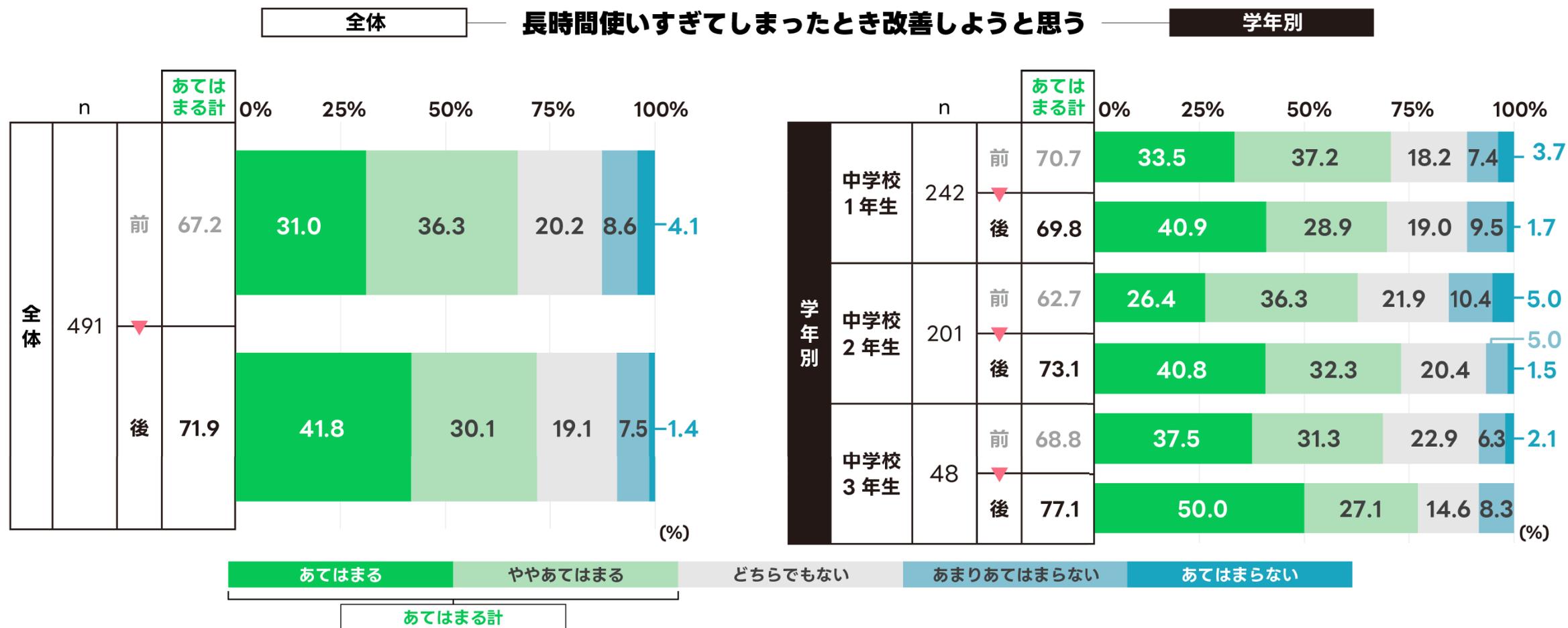
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を長時間使いすぎてしまったとき、それを改善しようと思う」は「あてはまる計」が授業前67.2%から授業後71.9%へと、約5%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を長時間使いすぎてしまったとき、それを改善しようと思う。



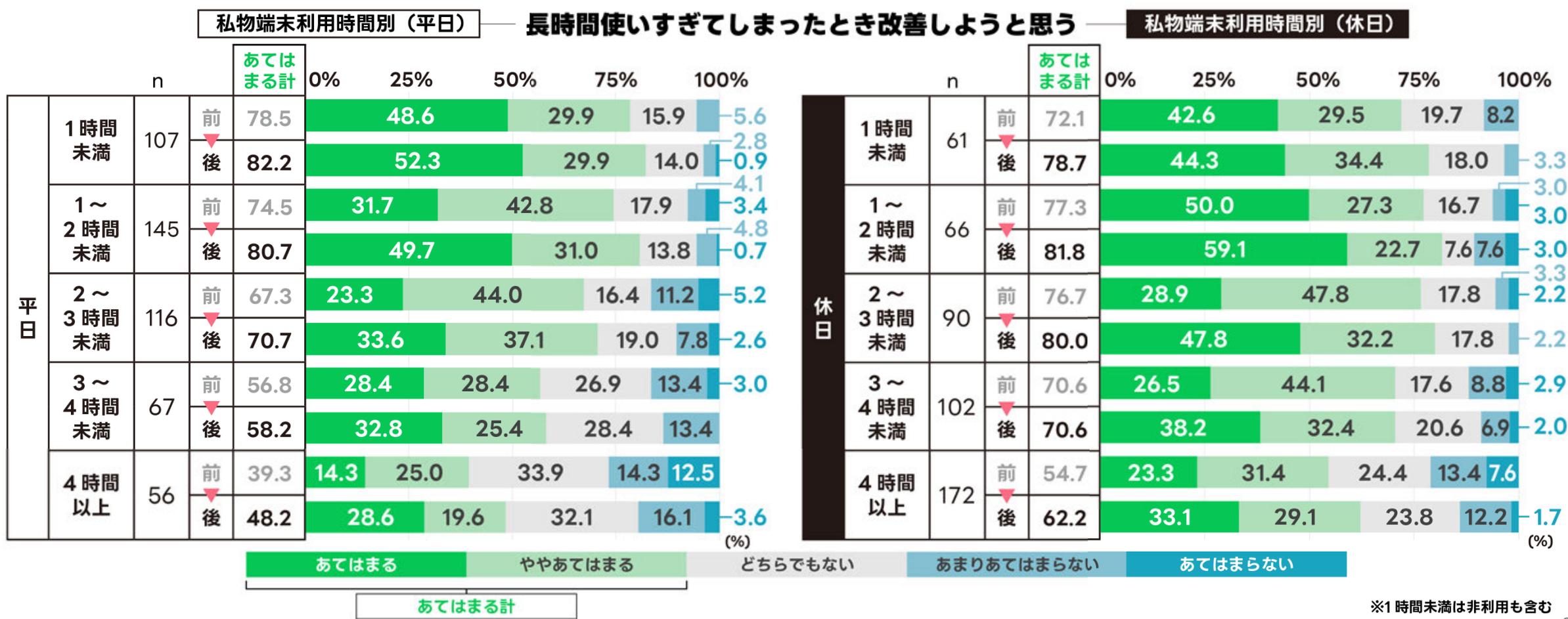
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を長時間使いすぎてしまったとき、それを改善しようと思う」を私物端末利用時間別に見ると、平日・休日ともに「4時間以上」の変化が大きく、平日は39.3%から48.2%へと約9%の上昇、休日は54.7%から62.2%へと約8%の上昇。

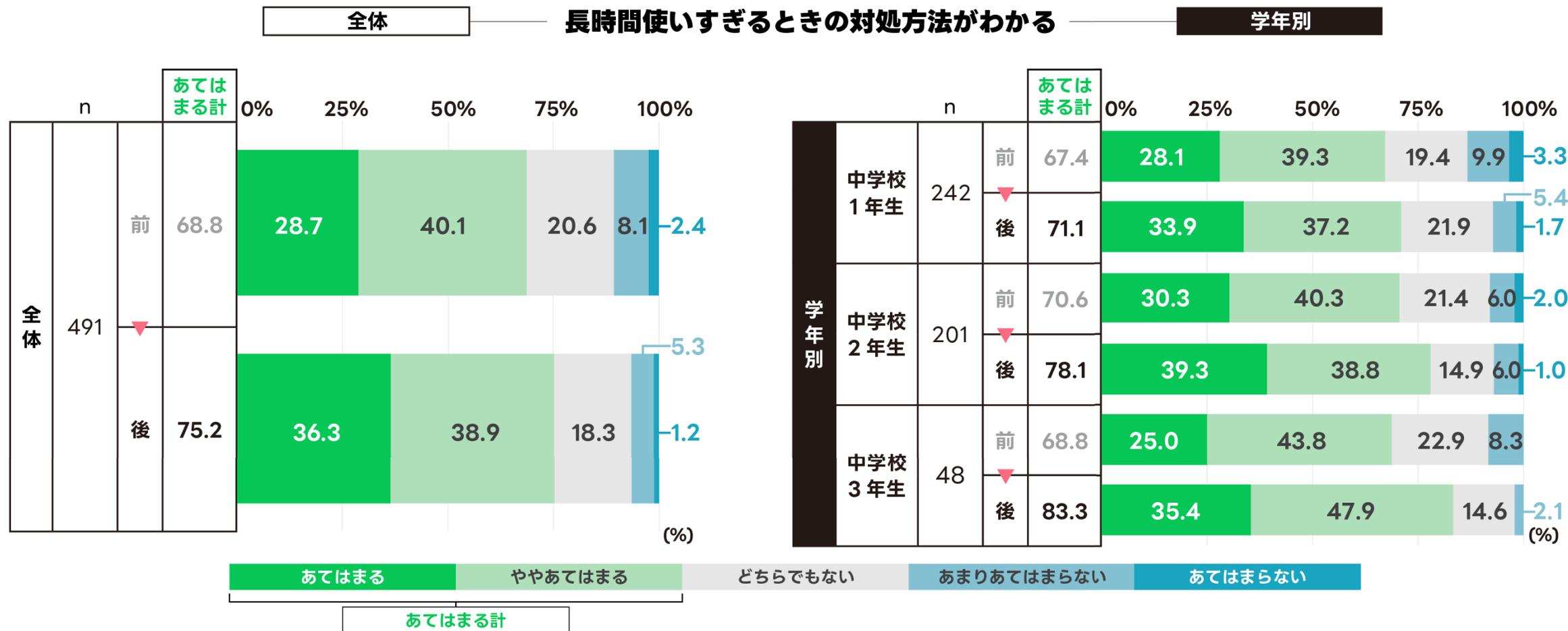
問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を長時間使いすぎてしまったとき、それを改善しようと思う。



※1時間未満は非利用も含む

- 「端末を長時間使いすぎる場合の対処方法・解決方法がわかる」は「あてはまる計」が授業前68.8%、授業後75.2%と、約6%の上昇。

問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を長時間使いすぎる場合の対処方法・解決方法がわかる。



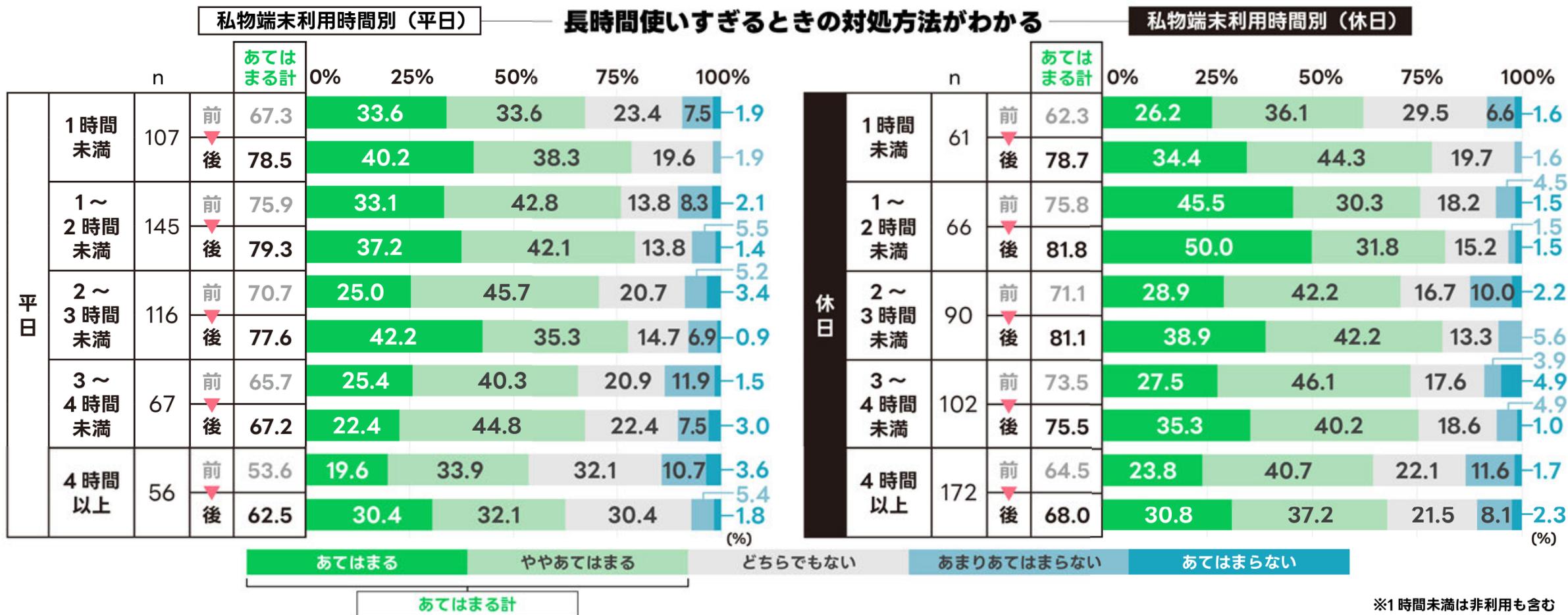
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を長時間使いすぎる場合の対処方法・解決方法がわかる」を私物端末利用時間別に見ると、平日・休日ともに「1時間未満」の変化が大きく、平日は67.3%から78.5%へと約11%の上昇、休日は62.3%から78.7%へと約16%の上昇。

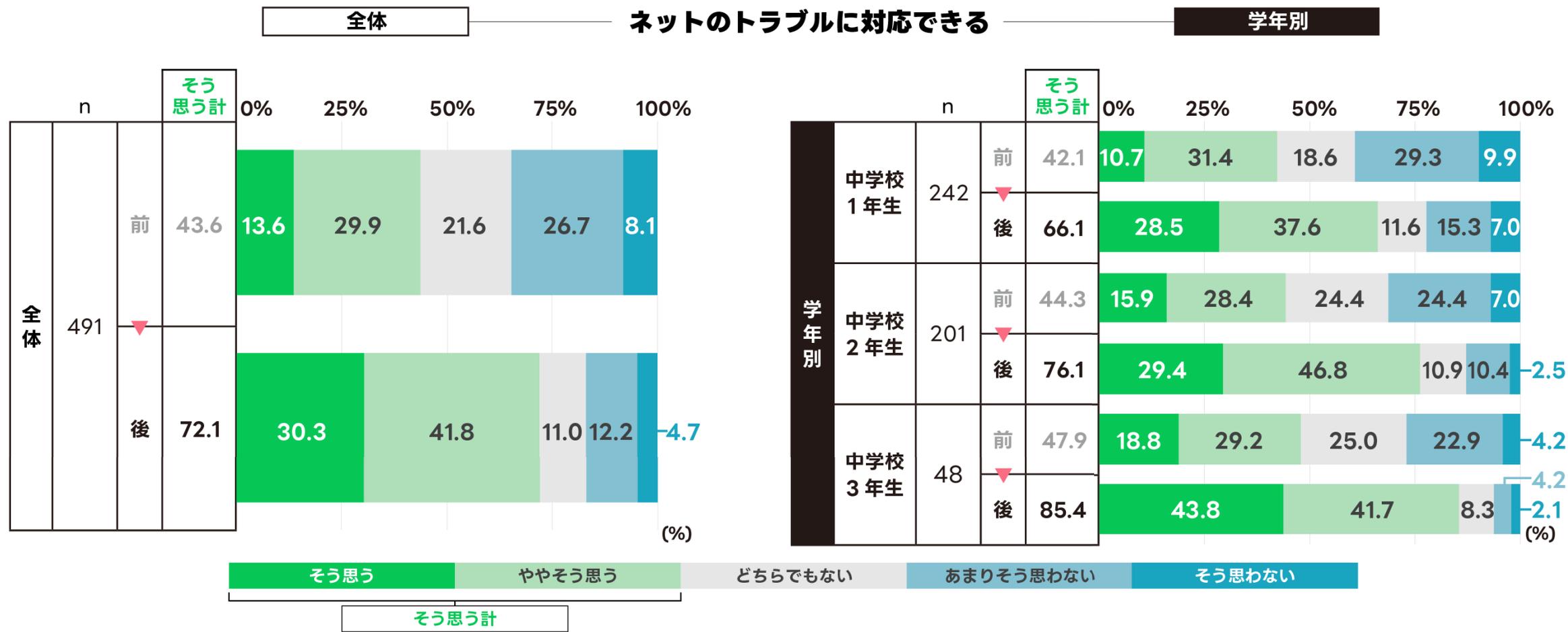
問：右の文について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ ▶ 端末を長時間使いすぎる場合の対処方法・解決方法がわかる。



※1時間未満は非利用も含む

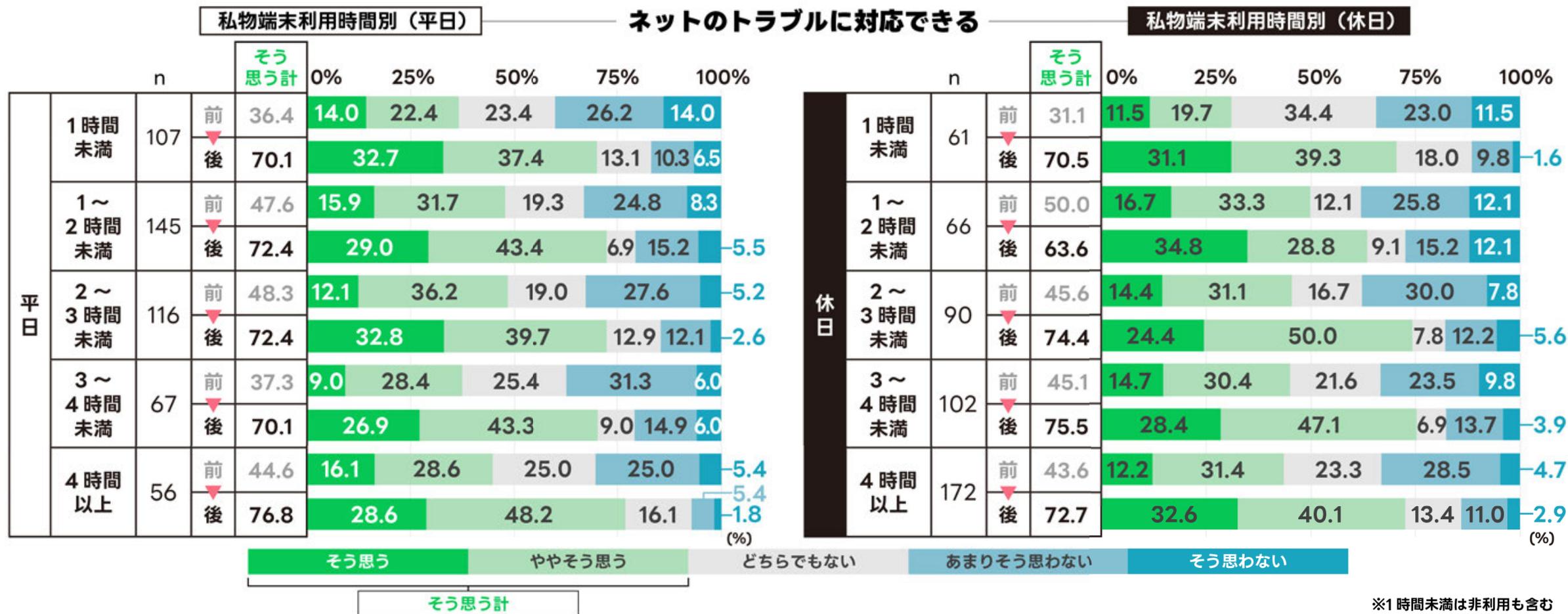
・ネットのトラブルに対応できると思うと回答した生徒（「そう思う計」）は授業前が43.6%、授業後は72.1%で、約29%と大きく上昇。

問：あなたがインターネットを利用して、トラブルに遭遇したら（出会ったら）、適切に対応できると思いますか？



- ・ ネットのトラブルへの対応を私物端末利用時間別に見ると、平日・休日ともに「1時間未満」の生徒への効果が大きく、平日は36.4%から70.1%へと約34%の上昇、休日は31.1%から70.5%へと約39%の上昇。
- ・ いずれも授業後の「あてはまる計」は13%以上上昇しており、平日・休日、利用時間に関わらず、効果が認められる。

問：あなたがインターネットを利用して、トラブルに遭遇したら（出会ったら）、適切に対応できると思いますか？

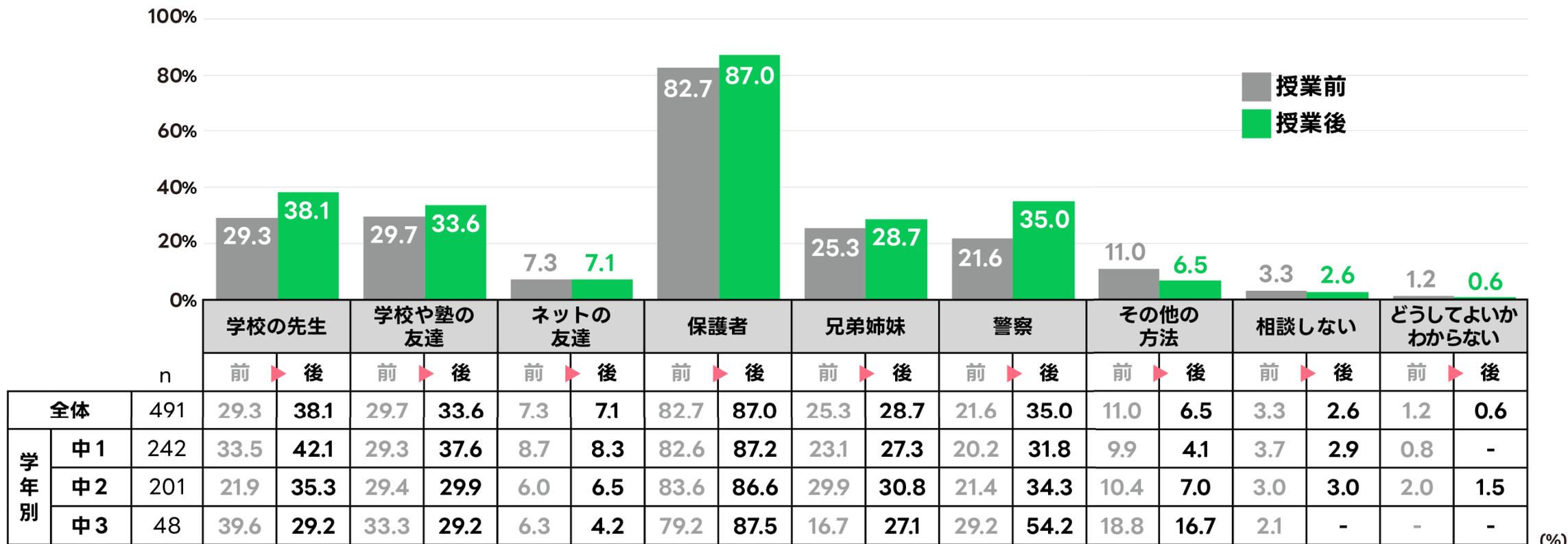


※1時間未満は非利用も含む

- ・ ネット利用時の相談先は授業前・授業後ともに「保護者」が最も高く、いずれも8割以上が相談すると回答。
- ・ 授業後最もスコアが増加したのは「警察」であり約13%の上昇。授業後では「保護者」、「学校の先生」に次ぐ相談先として挙がる。特に中学校3年生は、授業後に半数以上の生徒が「警察」に相談すると回答。

問：インターネットを利用して、トラブルに遭遇したら、だれに相談しようと思いますか？（複数選択可）

ネットのトラブル時の相談先



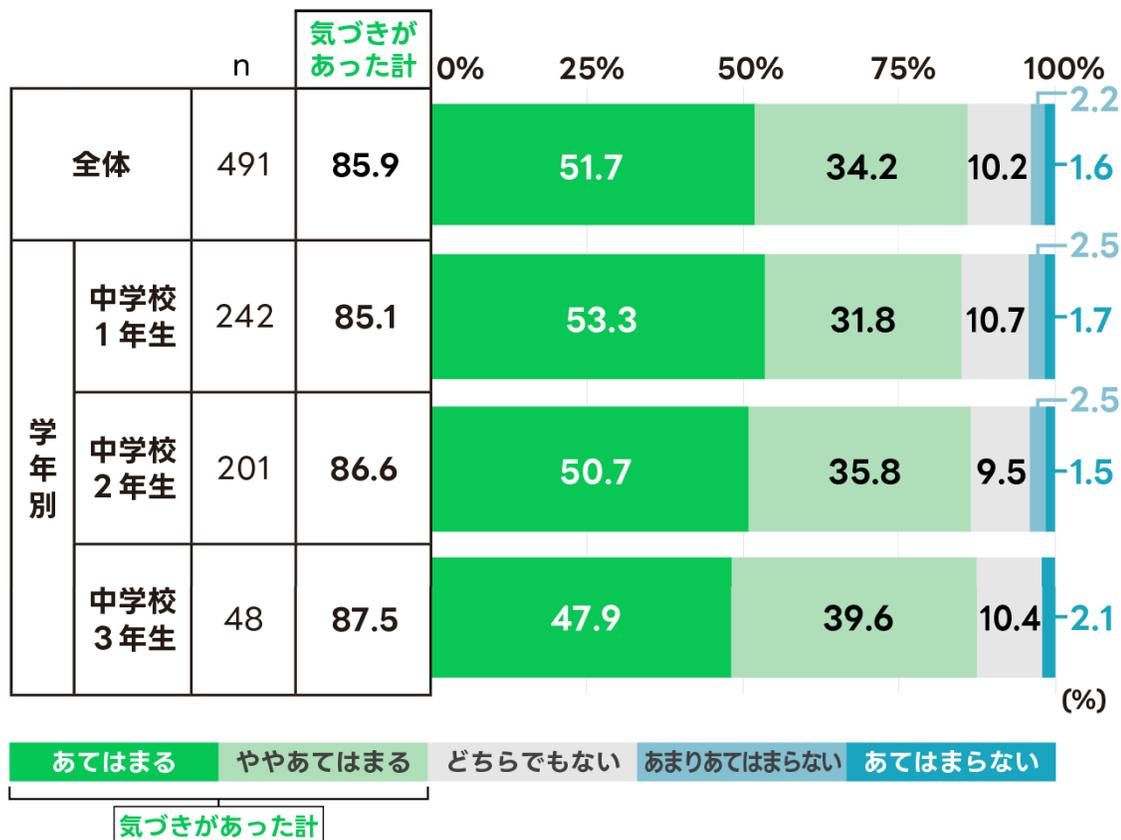
※ネットの友達：SNS などネット上だけで知り合った友達

- ・授業からの気づきでは、全体で「気づきがあった計」が85.9%と高く、「あてはまる」の回答に絞ってみても半数以上の51.7%。
- ・気づきのあった授業内容は「タイムマネジメントを身に付けよう」が最も高く65.8%、その他の内容についても約4割が気づきがあったと回答。

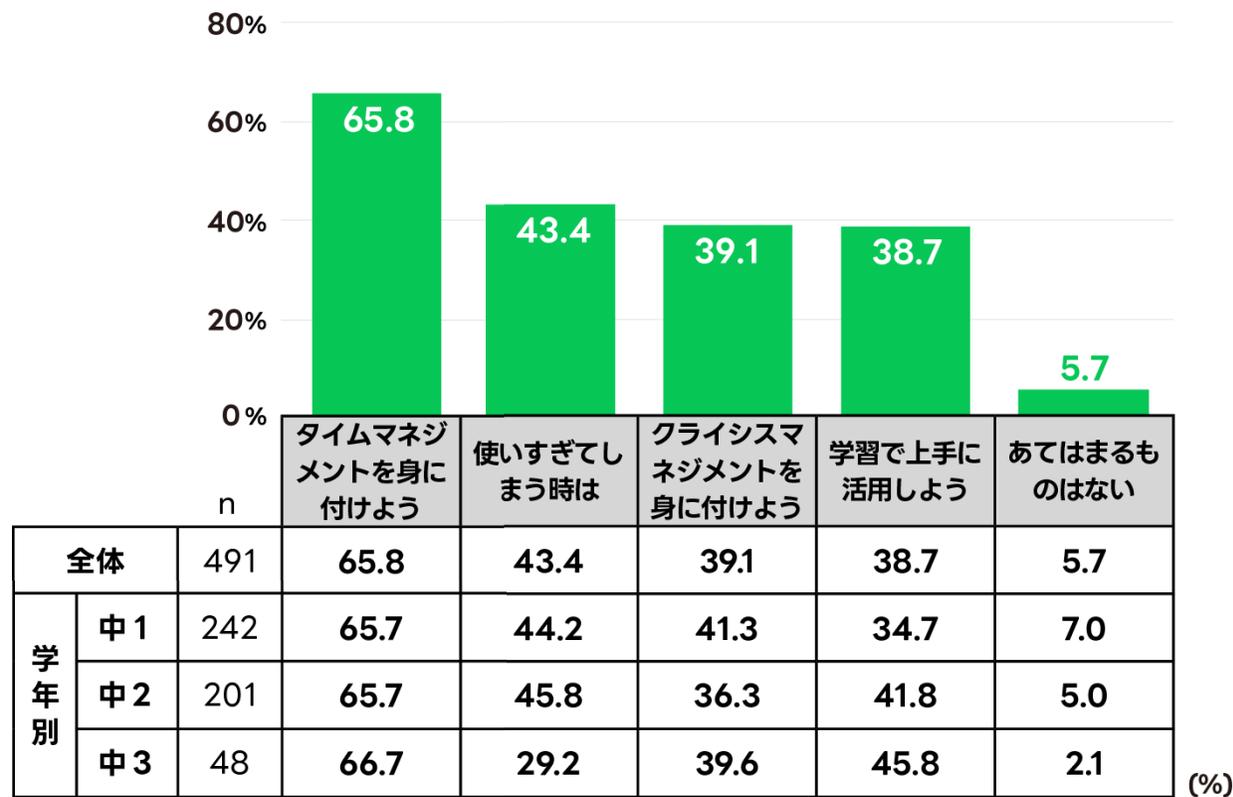
問：今回の授業を受けて「気づき」がありましたか？

問：「気づき」があったと思う授業内容を選んでください。(複数選択可)

「GIGA ワークブック」授業で気づきがあった



「GIGA ワークブック」授業で気づきがあった内容

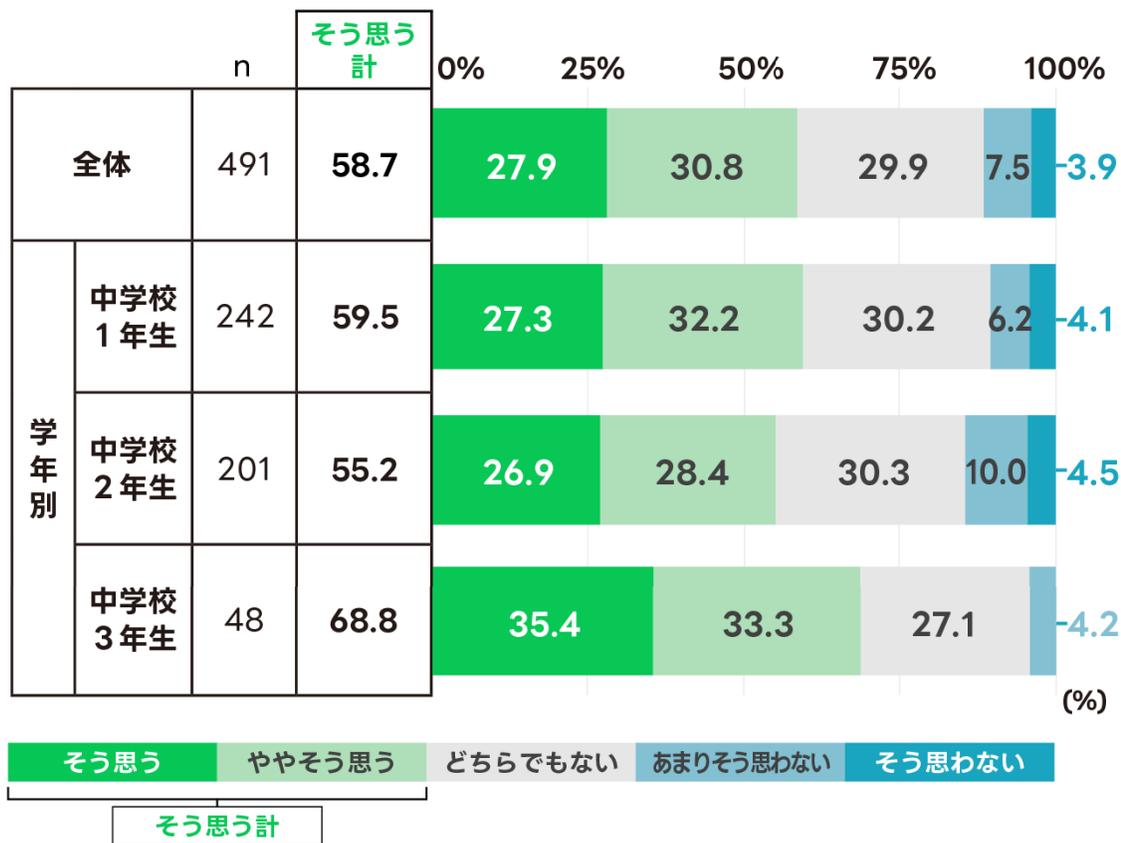


※全体スコアでソート ※授業内容は、p8「使用教材『GIGA ワークブック』アドバンスド(中学校1年生～3年生)授業の構成」参照

- 「今回の『気づき』をお家の保護者にも知ってほしいと思った」は、全体で「そう思う計」が58.7%。
- 「『チャット・SNS』活用について不安が和らいだ」は、全体で「そう思う計」が64.6%。

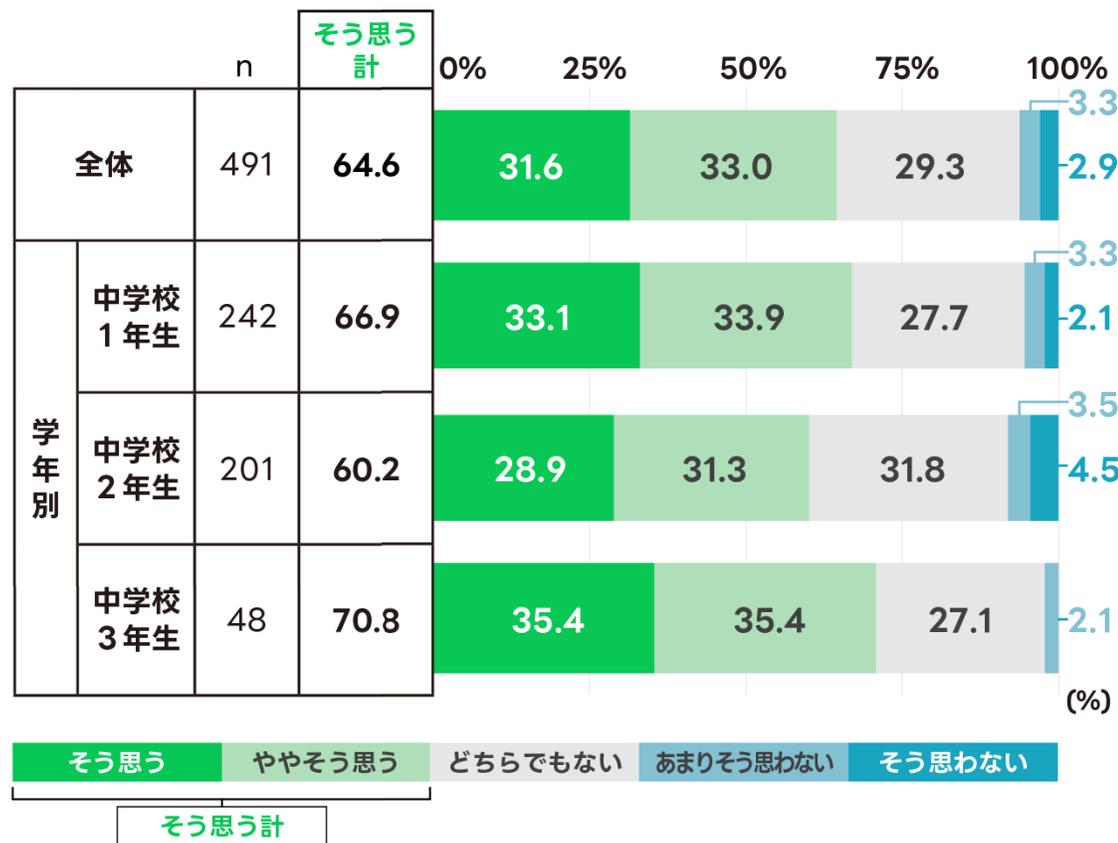
問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ 右の文について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。
 ▶ 今回の「気づき」をお家の保護者にも知ってほしいと思った

今回の気づきを、保護者にも知ってほしいと思った



問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ 右の文について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。
 ▶ 「チャット・SNS」活用について不安が和らいだ

チャット・SNS 活用の不安が和らいだ



授業後に感じたこと②（効果的な学習のヒントになった）

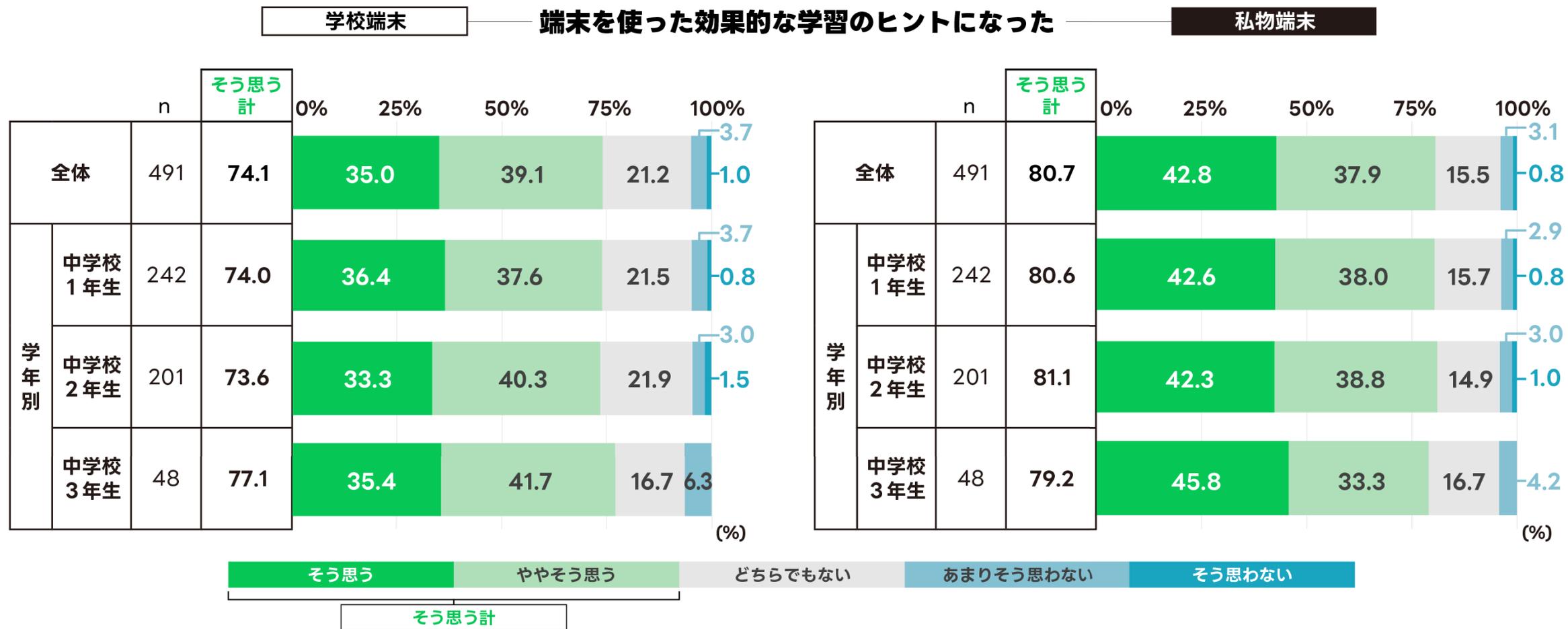
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を使った効果的な学習をするためのヒントになった」は、学校端末の全体で「そう思う計」が74.1%。
- 私物端末の全体で「そう思う計」は80.7%と、私物端末での効果がやや高い。

問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ 右の文について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。 ▶ 端末を使った効果的な学習をするためのヒントになった



授業後に感じたこと③（トラブル解決のヒントになった）

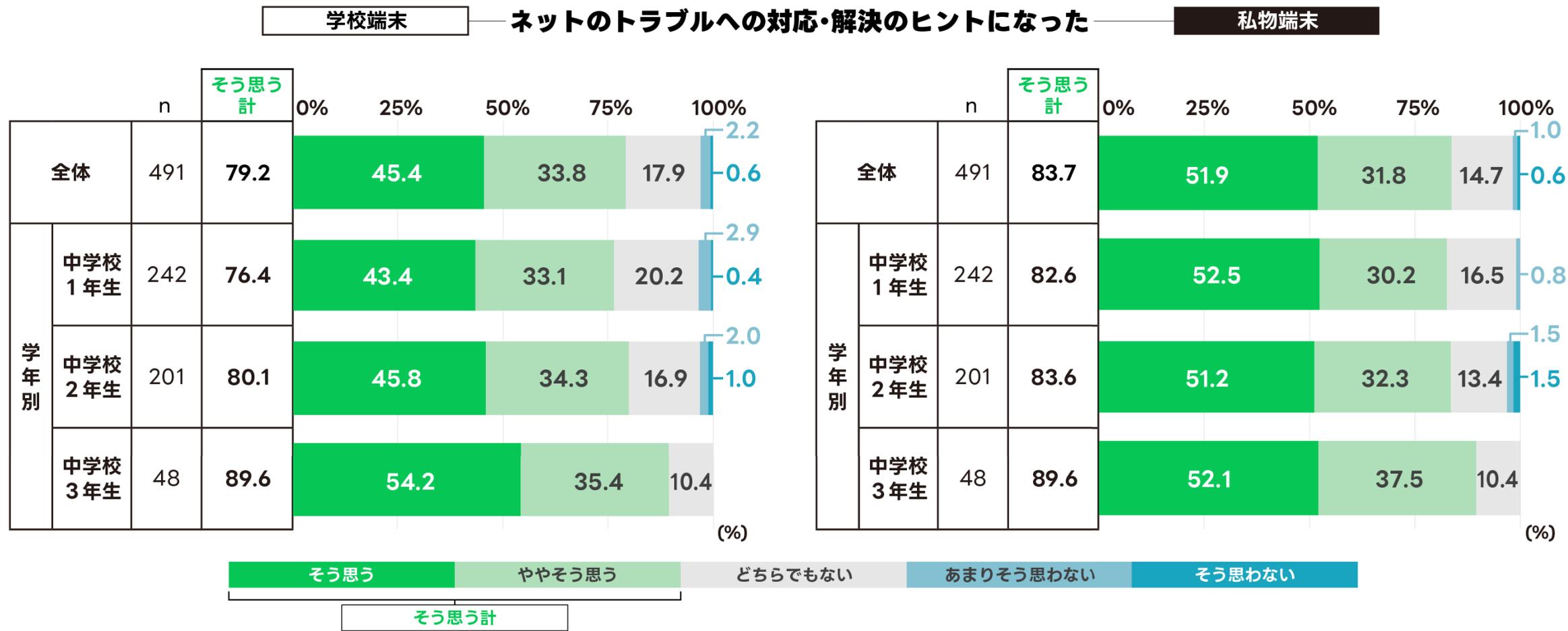
回答者プロフィール / 環境

授業前後の意識変化

授業後の気づき / 評価

- 「端末を使ったインターネットトラブルへの対応・解決のヒントになった」は、学校端末の全体で「そう思う計」が79.2%。
- 私物端末の全体で「そう思う計」は83.7%と、私物端末での効果がやや高い。

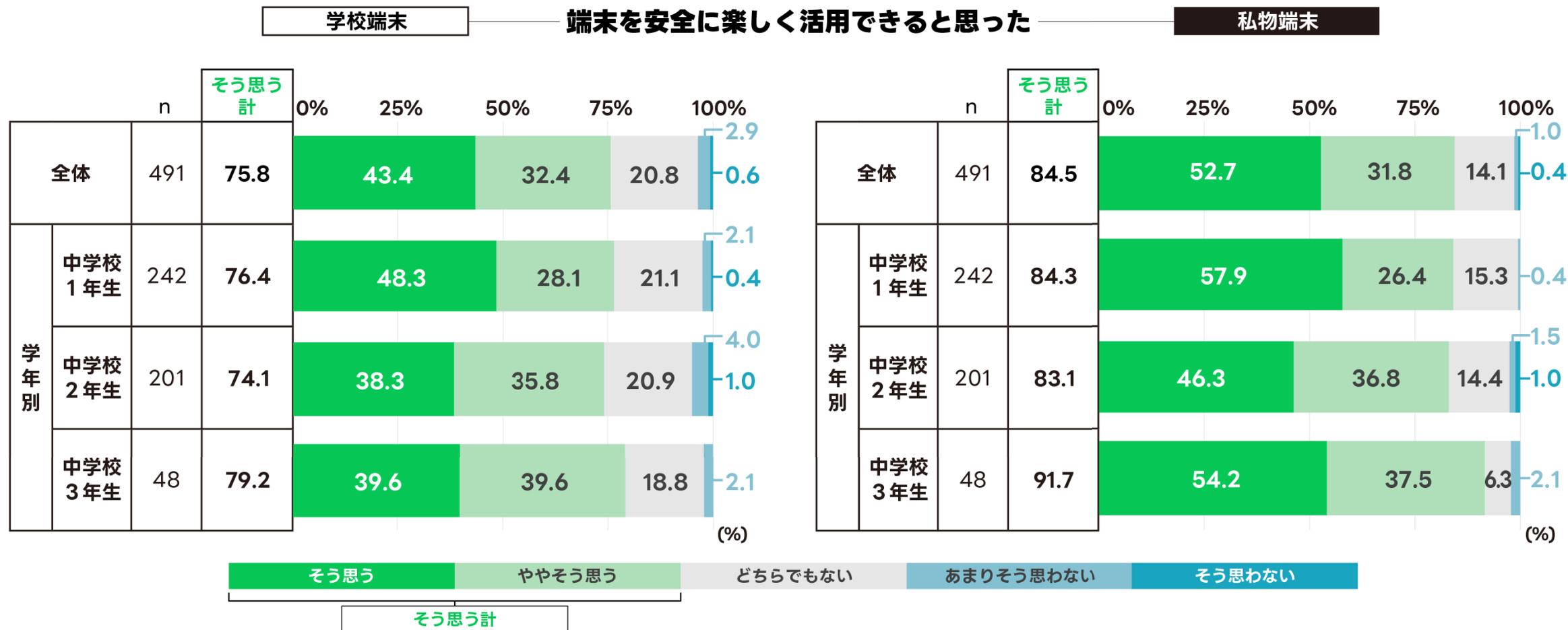
問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ 右の文について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。 ▶ 端末を使ったインターネットトラブルへの対応・解決のヒントになった



授業後に感じたこと④（安全に活用できると思った）

- 「端末をより安全に楽しく活用していけると思った」は、学校端末の全体で「そう思う計」が75.8%。
- 私物端末の全体で「そう思う計」は84.5%と、私物端末での効果がやや高い。

問：今回の授業を受けてどのように感じましたか？ 右の文について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。 ▶ 端末をより安全に楽しく活用していけると思った



授業前後の検定結果（スタンダード）

調査対象

本調査は、9校の小学校で授業を実施しました。調査対象者は、本調査においてGIGAワークブックを用いた授業を受けた小学校4年生から6年生です。1201名に対して授業の前後に同じ質問票を配布し、590名から有効回答を得ました。

測定尺度

以下について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ [それぞれ回答は1つだけ]

5.あてはまる 4.ややあてはまる 3.どちらでもない 2.あまりあてはまらない 1.あてはまらない

Q1 「チャット・SNS」と「対面」で話すとき、相手への伝わり方は違うと思う

Q2 「チャット・SNS」と「対面」で話すとき、相手への伝わり方にどんな違いがあるか知っている

Q3 伝える内容によって「チャット・SNS」と「対面」を使い分ける方法を知っている

Q4 「チャット・SNS」で話すとき、どのようなことで相手とトラブルが起きやすいかを知っている

Q5 「チャット・SNS」で友達からイヤだなと感じることをされたときにどうすればよいか知っている

Q6 「チャット・SNS」で自分がだれかをイヤな気持ちにさせたり傷（きず）つけたりしていることがあると思う

Q7 複数の友達と一緒に（いっしょ）に「グループチャット」をするときに、どのようなことでトラブルが起きやすいかを知っている

※出所 総務省（2023）、GIGAワークブック指導書をもとに作成。
 総務省（2023）：2022年度 青少年のインターネット・リテラシー指標
 等に係る調査結果、総務省 情報流通振興課 情報活用支援室
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/
 参照日2024.5.27

対応あるt検定の結果

結果、授業前後で調査した上記の設問のすべての項目で統計的に有意な差が確認できました。注目すべきは、Q6のCohenの効果量dは小さいことです。この問いでは、過去の経験を回想し、かつ関わった相手のことを想像することが求められていました。本調査書p22の「端末（スマホ・タブレット・パソコン）を使ってグループチャットで会話するとき、あなたはどちらに近いですか？」では、44.1%が「参加したことがない」と回答しており、そもそもグループチャットの経験がない回答者であったことが影響していると考えられます。

※各統計量の詳細については統計に関する書籍やウェブで確認ください。

	平均値	標準偏差	t値	自由度	p値	効果量d
Q1	0.834	1.330	15.231	589	<.001	0.627
Q2	0.868	1.232	17.112	589	<.001	0.705
Q3	0.954	1.294	17.917	589	<.001	0.738
Q4	0.539	1.234	10.611	589	<.001	0.437
Q5	0.631	1.272	12.037	589	<.001	0.496
Q6	0.168	1.353	3.012	589	<.001	0.124
Q7	0.661	1.320	12.164	589	<.001	0.501

授業前後の検定結果（アドバンスド）

調査対象

本調査は、7校の中学校で授業を実施しました。調査対象者は、本調査においてGIGAワークブックを用いた授業を受けた中学校1年生から3年生です。1193名に対して授業の前後に同じ質問票を配布し、491名から有効回答を得ました。

測定尺度

以下について、あなた自身にどれくらいあてはまりますか？ [それぞれ回答は1つだけ]

5.あてはまる 4.ややあてはまる 3.どちらでもない 2.あまりあてはまらない 1.あてはまらない

- Q1 端末を使った効果的な学習方法について、理解している
- Q2 端末を使った効果的な学習方法について、知る機会を積極的に増やしたい
- Q3 端末を使った効果的な学習方法について、誰かに共有する機会を増やしたい
- Q4 学習をするとき、どれくらい時間がかかるか考えてからとりかかりたいと思う
- Q5 端末を長時間使いすぎってしまったときの原因が把握（はあく）できる
- Q6 端末を長時間使いすぎってしまったとき、それを改善しようと思う
- Q7 端末を長時間使いすぎる場合への対処方法・解決方法がわかる

※出所 総務省（2023）、GIGAワークブック指導書をもとに作成。
 総務省（2023）：2022年度 青少年のインターネット・リテラシー指標
 等に係る調査結果、総務省 情報流通振興課 情報活用支援室
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/
 参照日2024.5.27

対応あるt検定の結果

結果、授業前後で調査した上記の設問のすべての項目で統計的に有意な差が確認できました。しかし、Q5とQ7のCohenの効果量dは低かったことが特徴です。

Q5では、長時間利用に関して「どのくらいの時間がかかるのか」を実際に測ってみるといいう経験を重ねることを示しています。過去の経験やこれからの行動、それらの原因までを振り返ることが求められています。今回の授業では「自分の行動の振り返り」の時間を特に設けていなかったことが影響していると考えられます。

Q7を行うためには「長時間使い過ぎる原因を特定するための振り返りの時間」が必要です。授業時間の限界から、その時間に対応（確保）しにくかったことが考えられます。

今後の対応としては、長時間利用に対する時間をさらに設けるか、別な授業として追加することが示唆されます。

※各統計量の詳細については統計に関する書籍やウェブで確認ください。

	平均値	標準偏差	t値	自由度	p値	効果量d
Q1	0.330	1.001	7.307	490	<.001	0.330
Q2	0.428	0.986	9.614	490	<.001	0.434
Q3	0.383	1.024	8.284	490	<.001	0.374
Q4	0.517	1.158	9.902	490	<.001	0.447
Q5	0.196	0.999	4.336	490	<.001	0.196
Q6	0.218	0.998	4.840	490	<.001	0.218
Q7	0.191	1.044	4.064	490	<.001	0.183

活用型情報モラル教材

「GIGAワークブック」について

LINEみらい財団は、GIGAスクール構想の中でより重要となっている「情報モラル」と「情報活用」の育成や向上を図るため、活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」（無償）をソフトバンク株式会社、LINEヤフー株式会社と共同で展開しています。

本教材は「ビギナー（小学校1～3年生向け）」「スタンダード（小学校4～6年生向け）」「アドバンスド（中学生・高校生向け）」に分かれており、児童・生徒の発達段階に合わせて活用いただけます。

また、本教材では、各学校の状況に応じて柔軟に時間割の中に組み込めるよう、45分で情報モラルを学ぶコンテンツと、15分で活用スキル等を学ぶコンテンツを用意しています。



「GIGAワークブック」
紹介動画



「GIGAワークブック」
ダウンロードはこちら

LINEみらい財団は、今後も教育現場や社会の変化に応じた情報モラル教育等に取り組み、子どもたちがデジタル社会で生きる力を養うことを支援してまいります。

情報モラルの授業による児童・生徒の意識変化調査報告書

発行日 2024年6月

発行者 一般財団法人 LINE未来財団
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-3
東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー

調査監修 明星大学 教育学部 教授 今野貴之

装丁・デザイン アラサキデザインスタジオ
